

第8回・令和6年度

若山牧水みなかみ紀行短歌大会

高校生以下の部 作品集

高校生以下の部

入賞・入選作品

【高校生以下の部・題詠「渦」】

最優秀賞 一首

戦渦の「渦」、戦禍の「禍」との違いより知るべきことはもつとあるはず

神奈川県立光陵高等学校

2年

佐野

晃太

優秀賞

二首

「大丈夫」の言葉の渦の中心に「じ」「や」「な」「い」がずっと回っているの

神奈川県立光陵高等学校

1年

照田 佳苗

答案の 丸やばつさえ 渦となり 未来の行方 ぼんやり見える

群馬県立利根実業高等学校

1年

織田 澤龍法

選者賞・伊藤一彦選

二首

君の目に私は渦巻いてたならばそのまま忘れて泡沫にして

神奈川県立光陵高等学校

1年

柳原 萌々子

体育祭小さな風が渦を巻く 皆の心も大渦を巻く

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校

2年

室橋 彩音

選者賞・小島なお選

二首

音楽が渦まいて耳に流れこみスケッチブックに影を描き初む

群馬県高崎商科大学附属高等学校

3年

植原 愛佳

海面に映る自分を覗いたらあつ、ってつぶやく余白なく渦

神奈川県立光陵高等学校

2年

猪野田 涼奈

入選 二十首

あつあつに乗せたばかりの渦巻きの君を最初に食べよう。

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 3年 須田 有朝

部活中 渦に見えてく 楽器から 音響いてく 金管ブラス

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 3年 内田 湊

暑いから あおむけでねる うちの猫 無数に渦巻く 白い腹の毛

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 名地 咲結

風がふきいちょうの葉が落ち渦をまく片づけるのは誰だと思う

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 小林 優月

入ったら 抜けだし不可の 君の渦 私心は 溺れて行くまま

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 高橋 美空

みなかみの社会の渦に緑あり 自然の豊かさどこにも負けず

群馬県太田市立宝泉中学校 1年 田辺 陸人

渦渦し海見に行くと渦がある心渦いた渦渦渦と

長野県塩尻市立広陵中学校 1年 保科 奏弥

共学に向けた校舎の工事音 教師の怒声音の渦かな

群馬県立沼田高等学校 2年 関 銀之助

食の秋ぜいたくをしてまつたけを食べてびっくり渦まくおなか

群馬県立利根実業高等学校 2年 綿貫 ひまり

もう一度 いってたべたい おきなわの味 ブルーシールの うずまきアイス

群馬県立利根実業高等学校 3年 宮田 太陽

渦の中 生まれるワタシ 救う手は 波とともに 消える虚しさ

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 莉枝

思い出すあの子の言葉渦のよう今も心をひつかきまわす

群馬県立利根実業高等学校 4年 齋藤 美來

沖縄の 今はきれいな 海の水 戦渦の大火 赤い荒磯

群馬県立利根実業高等学校 5年 大竹 芙由美

コロナ渦で 食べた分だけ 肥えていく 食べ物につみ ひとつもないよ

群馬県立利根実業高等学校 5年 峰川 柑奈

渦のように進路悩んだあのときが もうひとつきもすぎてしまった

群馬県立利根実業高等学校 6年 郷原 琴

渦巻きの行方見ながらため息の祖父の気持ちは林檎を思う

群馬県利根沼田学校組合立利根商業高等学校 2年 吉永 玲斐

つむじみて 渦巻銀河 思い出す 階段きみの 一段上

群馬県利根沼田学校組合立利根商業高等学校 2年 番馬 陽菜

渦潮を抱かない東京湾の春祖父の手の色の貝殻しずむ

群馬県高崎商科大学附属高等学校 1年 福島 環

オーデイルと愛を誓った君のこと湖畔には大きな渦一つ

群馬県高崎商科大学附属高等学校 1年 今井 沙羅

皇座山のウィンドファームと競い合い天狗が今日も風の渦作る

山口大学教育学部附属光中学校 3年 横道 玄

【高校生以下の部・自由詠】

最優秀賞 一首

該当なし

優秀賞

二首

親知らずみたいな遅い反抗期正しい場所に生えたい私

群馬県高崎商科大学附属高等学校

2年

福島

環

ゆつくりと茶葉が開いた 若すぎる紅茶のような僕の手のひら

神奈川県立光陵高等学校

2年

山本 未生

選者賞・伊藤一彦選

二首

「好き」という定義が統一されていくそれほどあなたを好きになってく

神奈川県立光陵高等学校

3年

北原

大地

抜け殻を抜け出したいとないている抜け出したけど少しさみしい

長野県塩尻市立広陵中学校

2年

中藤

隼佑

優選者賞・小島なお選

二首

八月の終わりの空気を四枚の羽でプレスし飛ぶ赤とんぼ

山口大学教育学部附属光中学校

2年

横 道

玄

止まらない 立ち止まらない 青空は 走りつづける 不思議な空だ

群馬県太田市立宝泉中学校

2年

ベニテスミ
ア

入選 自由題 二十首

あくがれは 二死で打席 逆転サヨナラ 満塁ホームラン

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 1年 大川 向陽

友達と 恋話をする 午前二時 好きな子よりも 好きな友達

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 飯野 颯介

すきとおる炭酸水を飲み干して 見上げて暗い夕暮れの空

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 阿部 壮真

とつぜんの流しそうめんうれしすぎ急にミニトマト流すおばあちゃん

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 深津 由依子

夏の朝元気良く鳴くホトトギス夏限定の目覚まし時計

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 3年 小野 李桜

夏空に高速飛行のオニヤンマ太古の地球に思いをはせる

群馬県立沼田高等学校 2年 井上 咲耶

身体が大きくなるほど家族は縮む 時間はそれでも流れゆく

群馬県立沼田高等学校 2年 杉木 蒼月

寒い夜は熱々おでん食べようね母の言葉にあったまる我

群馬県利根実業高等学校 1年 小室 瑛乃助

借り物の消しゴム一つ忘れてた消すはずの文字どこにも無くて

群馬県利根実業高等学校 3年 鈴木 智裕

古くから 愛されている 藍の色 縹に染めし この世のけがれ

群馬県利根実業高等学校 3年 関上 栞奈

父さんの「寝るよ」が私と妹の夜が始まる紐を引っ張る

神奈川県立光陵高等学校 1年 柳原 萌々子

ブランコの後ろのベンチの右側で歳を取っても一人で僕は

神奈川県立光陵高等学校 1年 中西 堇

眼球が動くスズキも生物で実際鈴木とそんな変わらん

神奈川県立光陵高等学校 1年 藤井 綾音

常に保護される立場でいたいのので来世は奈良の鹿になります

神奈川県立光陵高等学校 1年 太田 実来

オルガンが指をつたって染み込んでドレミファソラシどうかこのまま

神奈川県立光陵高等学校 1年 森岡 千尋

思い出に蓋をするほど煮詰まって青い空より青くなる日々

神奈川県立光陵高等学校 1年 照田 佳苗

この夏の後片付けをしていると収まりきらない砂が出てくる

神奈川県立光陵高等学校 2年 佐野 晃太

「会いたい」がその道にも落ちている 集めるように歩けば大人

神奈川県立光陵高等学校 2年 猪野田 涼奈

卒業の桜と対比するような教室籠もる青い残り火

神奈川県立光陵高等学校 2年 西村 祥太郎

いつもより暗い教室搾られたあとのレモンのような空ろで

群馬県高崎商科大学附属高等学校 3年 高橋 健太郎

入賞作品講評

◆ 選者紹介

伊藤 一彦（いとう かずひこ）



昭和十八年（1943）宮崎県生まれ。「心の花」選者。読売文学賞、迢空賞、斎藤茂吉短歌文学賞などを受賞。現在、牧水の生誕地宮崎県日向市の若山牧水記念文学館館長、宮崎県立図書館名誉館長、宮崎県立看護大学客員教授。歌集に『海号の歌』、『微笑の歌』、『月の夜声』、『光の庭』、『待ち時間』などのほか、『若山牧水―その親和力を読む』、『牧水の心を旅する』、『いざ行かむ、まだ見ぬ山へ』、『歌が照らす』などがある。

小島 なお（こじま なお）



昭和六十一年（1986）東京生まれ。歌人である母小島ゆかりの手伝いをしていうちに短歌に興味を持ち、青山学院高等部在学中の2004年に最年少で角川短歌賞受賞。2016・2020年度「NHK短歌」選者。コスモス短歌会所属。同人誌「cocoon」編集委員。その他、現代短歌新人賞、駿河梅花文学賞受賞。歌集に『乱反射』、『サリンジャーは死んでしまった』、『展開図』などがある。

高校生以下の部・題詠「渦」 最優秀賞

戦渦の「渦」、戦禍の「禍」との違いより知るべきことはもつとあるはず

神奈川県立光陵高等学校 2年 佐野 晃太

戦渦は戦争に巻き込まれること、戦禍は戦争の被害を被ること。私たちはどのように遠い戦地に思いを馳せるべきなのだろう。見えているものの向こう側に目を凝らさなければ。

高校生以下の部・題詠「渦」 優秀賞

「大丈夫」の言葉の渦の中心に「じ」「や」「な」「い」がずっと回っているの

神奈川県立光陵高等学校 1年 照田 佳苗

高校生の歌に感動することの多い今、この一首にも深く感動した。自信と不安の交錯する青春を具體的に歌って奥が深い。題の「渦」の生かし方も申し分ない。結びの「の」も。

高校生以下の部・題詠「渦」 優秀賞

答案の 丸やばつさえ 渦となり 未来の行方 ぼんやり見える

群馬県立利根実業高等学校 1年 織田 澤 龍法

答案用紙の正解、不正解。こんなにささやかな○や×の、毎日のひとつひとつの選択の積み重ねが未来の自分を形作る。未来の自分はどんな選択の果てに立っている？

高校生以下の部・題詠「渦」 選者賞・伊藤一彦選

君の目に私は渦巻いてたならばそのまま忘れて泡沫にして

神奈川県立光陵高等学校 1年 柳原 萌々子

上の句は他の作者でもあり得る表現かもしれない。しかし、下の句は目をみはる独特さと切なさだ。好きな人に自分を「泡沫にして」という深い求愛。「泡沫」は「渦」の縁語。

高校生以下の部・題詠「渦」 選者賞・伊藤一彦選

体育祭小さな風が渦を巻く 皆の心も大渦を巻く

群馬県みなかみ町立みなかみ中学校 2年 室橋 彩音

体育祭のグラウンドに風が小さな渦巻をつくっている。その渦巻を見ながら、自分たち「皆の心」の渦はもっと「大渦」だと歌っているのが若々しい。

高校生以下の部・題詠「渦」 選者賞・小島なお選

音楽が渦まいて耳に流れこみスケッチブックに影を描き初む

群馬県高崎商科大学附属高等学校 3年 植原 愛佳

耳から流れ込む音楽は脳を心地よく刺激し、イメージを押し広げてくれる。スケッチに陰影を付けたことで情景は奥行きを増す。小さなきっかけで物事は生き生きと動きだす。

高校生以下の部・題詠「渦」

選者賞・小島なお選

海面に映る自分を覗いたらあつ、ってつぶやく余白なく渦

神奈川県立光陵高等学校 2年 猪野田 涼奈

海面に映った自分の顔はたちまち渦潮に吞まれてしまった。あつ、という声になる前の声とともに。
息を吞む瞬間的な場面を、鮮やかな映像性と韻律で掴んでいる。

高校生以下の部・自由詠 優秀賞

親知らずみたいな遅い反抗期正しい場所に生えたい私

群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 福島 環

反抗期は中学時代には顕著だが、作者は高校生になって反抗期を迎えたのだろうか。「親知らずみたいな」の比喻がすばらしい。そして、下の句はさすがにしっかりした高校生だ。

高校生以下の部・自由詠 優秀賞

ゆつくりと茶葉が開いた 若すぎる紅茶のような僕の手のひら

神奈川県立光陵高等学校 2年 山本 未生

湯のなかでゆつくりと開き、味や香りを放つ茶葉。けれど、握っていた手のひらをゆつくりと開いてもそこには何もない。いつか僕の手は何かを掴み放つことができるのか。

高校生以下の部・自由詠 選者賞・伊藤一彦選

「好き」という定義が統一されていくそれほどあなたを好きになつてく

神奈川県立光陵高等学校 3年 北原 大地

なるほどと思い感心した歌。初め相手に対する「好き」の思いは自分でも捉えがたく混沌としていたが、今は「好き」の定義が統一されてはつきりしたと。真率な下の句がいい。

高校生以下の部・自由詠 選者賞・伊藤一彦選

抜け殻を抜け出したいとないている抜け出したけど少しさみしい

長野県塩尻市立広陵中学校 2年 中藤 隼佑

一生懸命「抜け殻を抜け出したいとないている」声を聞きながら、その気持はよくわかるけど、抜け出すと「少しさみしい」ものだよと。依存と自立の葛藤を見事に歌っている。

高校生以下の部・自由詠

選者賞・小島なお選

八月の終わりの空気を四枚の羽でプレスし飛ぶ赤とんぼ

山口大学教育学部附属光中学校 2年 横 道 玄

左右二枚ずつの透明な羽を動かして飛ぶ赤とんぼ。まだ暑さの残る晩夏のすこし重たい空気を押しながら、水平に進んでゆく。スローモーションのような緻密な描写。

高校生以下の部・自由詠

選者賞・小島なお選

止まらない 立ち止まらない 青空は 走りつづける 不思議な空だ

群馬県太田市立宝泉中学校 2年 ベニテス ミア

私が走ってるのではない。青空自体が走ってるのだ。一マス空け、二箇所切れ。まるで韻律も疾走するよう。駆け抜けてゆく青空の肉体を見上げるたびに励まされる。

高校生以下の部【題詠「渦」】

- 1 優しくて おかしきような あの人の 心の渦に すいこまれゆく
群馬県宝泉中学校 2年 倉本 渉夢
- 2 おのずと渦 森に山川 あの色 失いながら 自然に戻る
群馬県宝泉中学校 2年 倉本 渉夢
- 3 空見上げ もう会うことなき 子の姿 沈んでしまふ 罪という渦
群馬県宝泉中学校 2年 吉川 奈那
- 4 成し得ない 目標掲げる 偉い人 偽善の渦に 捲き込まれていく
群馬県宝泉中学校 2年 吉川 奈那
- 5 皆願う 世界平和は 有り得ない 争いの渦 絶えず広がる
群馬県宝泉中学校 2年 吉川 奈那
- 6 筆を持ち キャンパスに描く 夢の渦 希望がさし込む ことを夢見て
群馬県宝泉中学校 2年 吉川 奈那
- 7 夕方の 部活終わりの 空の色 暗く渦巻く 薄桃色
群馬県宝泉中学校 2年 佐藤 蒼空
- 8 真夜中の 一途の思い 渦を巻く あなた考え 思いをはせる
群馬県宝泉中学校 2年 佐々木 凛人
- 9 まわる羽 虫の羽音と 共に聞く 一年越しの 扇風機の渦
群馬県宝泉中学校 2年 大内 愛友花
- 10 渦まきが 海で渦まき いつまでも 動き続ける 若き人ごとし
群馬県宝泉中学校 2年 関 ミナエナウイナトハヤシ
- 11 水鏡 晴天映し 煌めいた 渦巻く雲は 晴の白龍
群馬県宝泉中学校 2年 高田 百萌
- 12 風が吹く 広い校庭 砂渦が 集まる目線で 主役へうつる
群馬県宝泉中学校 2年 石川 莉子
- 13 備えよう 渦まき台風 夏の危機 まるで獐猛な 暴れ馬のように
群馬県宝泉中学校 2年 伊藤 瑠亜
- 14 暑い夏渦まきソフト食べたい外には雲のソフトクリーム
群馬県宝泉中学校 2年 大塚 真央
- 15 雨の日に あじさいの葉の 蝸牛 背負う渦には 目が回りだす
群馬県宝泉中学校 2年 吉田 悠花
- 16 夏の夜 激しい雨で 水の道 渦状の風 台風せまる
群馬県宝泉中学校 2年 大原 彩衣良
- 17 四国海 大渦多し 観光地 船がしづむか 不安なのだが
群馬県宝泉中学校 2年 葛山 響
- 18 渦を巻く 闘志の中に 入りこみ 緊張の中 スタートライン
群馬県宝泉中学校 2年 関塚 晴信
- 19 夏の夜 一人静かに 渦作る 湯舟の中で 楽しむ私
群馬県宝泉中学校 2年 須田 夢叶
- 20 総体で 打球追いかけて ネット越え 渦巻く視界 にらむ太陽
群馬県宝泉中学校 2年 三森 未来
- 21 夏の昼 アイスをねだる 子供たち 渦をまくほど 多くの笑顔
群馬県宝泉中学校 2年 柳田 和成
- 22 夏休み 焼けた地肌で 並ぶ列 渦まいていた ソフトクリーム
群馬県宝泉中学校 2年 亀井 穂香
- 23 部長決めいわれず動け渦のように部員を巻きこむ夏の暑い日
群馬県宝泉中学校 2年 鈴木 健太
- 24 暑い日に 渦からでる 煙たちが 敵の行方を 追いかけて行く
群馬県宝泉中学校 3年 森 咲空
- 25 空見れば 曇の渦まき 日がさして ガラスのように かがやく雪よ
群馬県宝泉中学校 3年 加藤 美姫
- 26 そばみれば 蚊取り線香 渦まいて 静かな白煙 ひとすじにとぶ
群馬県宝泉中学校 3年 加藤 美姫

- 27 渦巻く川 じめじめした夏に すがすがと 波にのりながら
群馬県宝泉中学校 3年 對比地 葉南
- 28 どきどきの合格発表 人々の渦まく気持ち つかんだ勝利
群馬県宝泉中学校 3年 森下 絆奈
- 29 緑色の渦まく私は 夏になり みんなに使われ短くなった
群馬県宝泉中学校 3年 森下 絆奈
- 30 夏の夜 大雨の渦 雲黒く 日が昇る朝 青い大空
群馬県宝泉中学校 3年 山西 裕真
- 31 渦まわるおおきなうみのかいじょうに彼らもまわりはしゃいでいる
群馬県宝泉中学校 3年 根岸 悠登
- 32 渦巻く 時の流れに 思いを 織り交ぜつつ 夢を追う
群馬県宝泉中学校 3年 梅津 楯
- 33 渦巻くは 蚊取り線香 月浴びて 煙漂う 夏風の川
群馬県宝泉中学校 3年 長谷川 空良
- 34 盛りあがる花火けしてく小さき渦 もう終わりかとさびしくゆれる
群馬県宝泉中学校 3年 天笠 慶吾
- 35 体育祭、たくさんの声援が入り混じり そこはまるで 渦のよう
群馬県宝泉中学校 3年 三吉 れあ
- 36 スクランブル 固定カメラが 写したす 人の流れは 渦如し
群馬県宝泉中学校 3年 大越 悠央
- 37 いすにつき 筆を手に取り 何描こう 渦巻く思考 過ぎ行く時間
群馬県宝泉中学校 3年 ホダ ナフシン
- 38 渦桜咲き 祭り賑わう休日 それより3年日 青葉顔だす その5日後春嵐
群馬県宝泉中学校 3年 徳山 雅璃
- 39 水流が岩にぶつかりできる渦それみて飛びこみたくなるかんじ
群馬県宝泉中学校 3年 山口 駿介
- 40 雨上がり ウッドデッキに 渦を巻き 敵を撃退 ただようけむり
群馬県宝泉中学校 3年 金子 美央里
- 41 緊張で かすかに届く 歓声と 開始の笛で 渦巻く感情
群馬県宝泉中学校 3年 齋藤 舞
- 42 人交わる 社会・学校 まるでそれは 深く大きな 鳴門の大渦
群馬県宝泉中学校 3年 田部井 友弥
- 43 渦戦での 流す汗の その先に 次への道と 飲み込む涙
群馬県宝泉中学校 3年 田部井 友弥
- 44 橋の下 見下ろしそこは 海の上 怒りのように 巻き起こる渦
群馬県宝泉中学校 3年 小林 颯芽
- 45 夏祭り前と変わらぬ渦柄の古びた御衣を久しく触れる
群馬県宝泉中学校 3年 福田 茉優
- 46 永遠に ぐるぐる回る 渦巻きを 見ながら思う 目がまわる
群馬県宝泉中学校 3年 田部井 元暉
- 47 正月に 不況の渦を 巻きながら たくさん飛んでく 大量の金
群馬県宝泉中学校 3年 相子 大空
- 48 足すくみ 取りまくように 渦を巻く しらない世界へ 羽を広げる
群馬県宝泉中学校 3年 小林 莉奈
- 49 海峡に渦潮が起き眺めるも波紋広がり恐怖覚える
群馬県宝泉中学校 3年 渡邊 穂乃華
- 50 思春期で 念慮に満ち 渦巻いて 自分の気持ち 誰かに放る
群馬県宝泉中学校 3年 村岡 苺姫
- 51 渦の中 めげずに走る 何度でも 見えた景色は 山紫水明
群馬県宝泉中学校 3年 高屋 広宇
- 52 渦が巻く 強風の中 きょうじんな 自然豊かな みなかみの町
群馬県宝泉中学校 3年 竹政 琉稀

- 53 夏の終わり 顔を上げ 見ゆるものは 空に渦まき。そふとくりいむかな。
群馬県宝泉中学校 3年 山田 あゆみ
- 54 暗雲のキラキラ輝く夢の通路渦巻き恋しく天を仰ぐ
群馬県宝泉中学校 3年 荒木 衣琳
- 55 春香る 桜の季節 渦桜 ひっそり咲いて 儚く散る
群馬県宝泉中学校 3年 原田 心雪
- 56 盆踊り 渦を巻きつつ 夜に舞う 人々の声 太鼓が響く
群馬県宝泉中学校 3年 古田 育太
- 57 部屋一人夢を考え悩みだす頭の中は戦渦状態
群馬県宝泉中学校 3年 長沼 亜胡
- 58 一人かかれば 渦のようにかかり 皆おそれる
群馬県宝泉中学校 3年 中野 翔太
- 59 人気あれば 皆渦にのまれ 密になる
群馬県宝泉中学校 3年 中野 翔太
- 60 争そえば 金渦にのまれ 不満がたまり また一つ渦できる
群馬県宝泉中学校 3年 中野 翔太
- 61 渦桜一目見ようと靴履くが外は五月雨俺鬱なるわ
群馬県宝泉中学校 3年 福田 昂介
- 62 みなかみの社会の渦に緑あり 自然の豊かさどこにも負けず
群馬県宝泉中学校 3年 田辺 陸人
- 63 暑い夏断え間なく蝉の声 昼夜をとわず音の渦
群馬県宝泉中学校 3年 田辺 陸人
- 64 野良仕事 頑張る祖父の背中見る 渦が短かし 蚊取り線香
群馬県みなかみ中学校 1年 原澤 拓也
- 65 醤油ラーメンに浮く大好きなピンクの渦巻き最後に食べる
群馬県みなかみ中学校 1年 小野 優人
- 66 米洗いぐるぐるまぜて渦できる水をいれてメモリ見ながら
群馬県みなかみ中学校 1年 安達 雅
- 67 記事を見る積乱雲の渦が出て 懸念を抱き外を見回す
群馬県みなかみ中学校 1年 池田 真大
- 68 枯れ木の葉地面にたくさん落ちていてそっと風吹き渦を巻いている
群馬県みなかみ中学校 1年 関 瑛翔
- 69 大荒れだ大木折れる天気の中 暗黒の渦吸いこまれてく
群馬県みなかみ中学校 2年 田村 桃香
- 70 心地よい春風が吹く原っぱで 花びらの渦包みこまれる
群馬県みなかみ中学校 2年 田村 桃香
- 71 群馬県みどりが渦巻きみどりの町自然がきれいで空気もいい。
群馬県みなかみ中学校 2年 信澤 大生
- 72 あつあつに乗せたばかりの渦巻きの君を最初に食べよう。
群馬県みなかみ中学校 2年 須田 有朝
- 73 休み時間友と雑談花開き 笑いの渦が絶えない時間
群馬県みなかみ中学校 2年 林 小葉
- 74 煙出る緑の渦が縮まって 蚊が勝てぬ敵蚊取りせんこう
群馬県みなかみ中学校 2年 林 小葉
- 75 草生えた ブチブチむしり 草生える そのせいで今 渦巻く頭
群馬県みなかみ中学校 2年 増田 花音
- 76 夏休み、楽しいけれど、宿題が てつやでがんばる、悲しみの渦
群馬県みなかみ中学校 2年 佐藤 叶祈
- 77 毎日の 心の渦が できあがる いつもと同じ みあげる夜空
群馬県みなかみ中学校 2年 山田 千瑚
- 78 梅雨の時期 外出るぼくは カエル見て 飼いたい願い 渦出る母よ
群馬県みなかみ中学校 2年 高柳 征司

- 79 夜道ゆく 私をてらして うさぎたち 空みあげれば 星の渦光る
群馬県みなかみ中学校 2年 加藤 琴美
- 80 暑い日の ウォーターライダー 楽しいな 鼻を押さえて 渦に飛びこむ
群馬県みなかみ中学校 2年 山田 桜輔
- 81 あのころのはしゃぐ風がなつかしく 十四の私嵐の渦に
群馬県みなかみ中学校 2年 鈴木 純奈
- 82 いつも朝 渦まいている 髪の毛を 整えるのに 時間がかかる
群馬県みなかみ中学校 2年 高橋 妃茉莉
- 83 部活中 渦に見えてく 楽器から 音響いてく 金管ブラス
群馬県みなかみ中学校 2年 内田 湊
- 84 暑いから あおむけでねる うちの猫 無数に渦巻く 白い腹の毛
群馬県みなかみ中学校 2年 名地 咲結
- 85 夏の空 雲の流れる 渦のよう 夏の思い出 うすれていく
群馬県みなかみ中学校 2年 原澤 光輝
- 86 真夏日のあつい空気が あふれでる 思考が回り まるで渦のよう
群馬県みなかみ中学校 2年 阿部 蓮
- 87 体育祭小さな風が渦を巻く 皆の心も大渦を巻く
群馬県みなかみ中学校 2年 室橋 彩音
- 88 渦巻いたお風呂のセンを抜いたとき じょじょに抜けてくひまつぶしだな
群馬県みなかみ中学校 2年 鈴木 陸斗
- 89 一匹の ヘビが渦巻く 道を見て くもる感情 ヘビは知らぬ
群馬県みなかみ中学校 2年 真霜 綾斗
- 90 梅雨の渦 あじさい登って お引っこし かえるも雨も お友だちなの
群馬県みなかみ中学校 2年 山元 紗衣
- 91 気をつけろ ネットの渦に のまれるな のまれちゃったら ぬけだせない
群馬県みなかみ中学校 2年 林 完太
- 92 混乱の 日本の渦中 何を見る へいせい終わり ぼくらは戦
群馬県みなかみ中学校 2年 植出 周志
- 93 風がふきいちょうの葉が落ち渦をまき片づけるのは誰だと思う
群馬県みなかみ中学校 2年 小林 優月
- 94 テレビ見る渦巻き映る台風だ 本気で願う学校休暇
群馬県みなかみ中学校 2年 ミックガクン 素海
- 95 ちりりと鈴を泳がすそ風のわきにひとつの夏の渦巻
群馬県みなかみ中学校 3年 星野 倭
- 96 じめじめと笑顔で入る太陽よ見える景色は渦を巻きゆく
群馬県みなかみ中学校 3年 星野 倭
- 97 夏やすみ 渦まく先行 グルグルと 眠気をさそい 終わらぬ宿題
群馬県みなかみ中学校 3年 田村 璃桜
- 98 みなかみの豊かな自然川の渦落ち着くなあとと思う毎日
群馬県みなかみ中学校 3年 杉木 瑠
- 99 みなかみの豊かな自然ながめれば川に流れる葉の渦見える
群馬県みなかみ中学校 3年 山崎 維士
- 100 清和の日 橋から見渡す 渦潮は まるで世界の 自然遺産
群馬県みなかみ中学校 3年 鈴木 心美
- 101 話し合い名ばかりケンカ母とスタート私の心渦逆巻く
群馬県みなかみ中学校 3年 鈴木 音羽
- 102 心配だ笑っているかな半年後受験乗り越え爆笑の渦
群馬県みなかみ中学校 3年 今井 颯汰
- 103 コロナ渦が明けてよかった旅行の 日家族みんなで楽しむ夏に
群馬県みなかみ中学校 3年 今井 颯汰
- 104 頑張つて桜の渦に囲まれて笑って待つぞ入学式を
群馬県みなかみ中学校 3年 今井 颯汰

117	野球観戦ホームランが出れば歓喜の渦に巻き込まれてゆく 群馬県みなかみ中学校 3年 鈴木 希羽	116	入ったら 抜けだし不可の 君の渦 私心は 溺れて行くまま 群馬県みなかみ中学校 3年 高橋 美空	115	渦まわる 飲んで沈むは 青楓 水底飾る 白雨の小川 群馬県みなかみ中学校 3年 小林 千紗	114	水が垂れ池の水面に渦紋でき消えゆく様をじっと見つめる 群馬県みなかみ中学校 3年 小林 愛翔	113	兄のそこ渦のまいた台風が行ったことが心配だ 群馬県みなかみ中学校 3年 櫻井 道治	112	この夏は渦のまいた線香を何度も嗅いだ最後の夏だ 群馬県みなかみ中学校 3年 森本 歩積	111	渦をまき 流れていくは 泥水だ 私の足は ゆうべ水たまりに 群馬県みなかみ中学校 3年 坂大 穂典	110	願わくばあと一センチ伸びてくれ牛乳に入れたセノビックの渦 群馬県みなかみ中学校 3年 瀧澤 優羽	109	水の渦すべてのものがすいこまれ奥へ奥へとみちびいてゆく 群馬県みなかみ中学校 3年 高橋 輪	108	川の水 小さな渦を つくりつつ 静かな夜の 静けさに溶け 群馬県みなかみ中学校 3年 鈴木 璃心	107	水しぶき渦まく先へ舟下り夏休みさえ涼しく感じる 群馬県みなかみ中学校 3年 今井 颯汰	106	おなべの湯沸騰させて渦を巻き たまご投入半熟たまご 群馬県みなかみ中学校 3年 今井 颯汰	105	縁日でいつも買ってた渦巻きのあめを片手につないだ手と手 群馬県みなかみ中学校 3年 今井 颯汰
130	清掃中バケツの水をかき回すと水が渦巻くなぜだか楽しい 山口県光井中学校 3年 徳山 裕大	129	ネットの渦SNSではまった沼二桁の時間当たり前になる 山口県光井中学校 3年 中野 悠斗	128	止まんねえ俺の心のうずうずが渦を巻いてる大蛇のように 山口県光井中学校 3年 渡辺 真紘	127	悪いことをしていないのに渦中へと巻き込まれていくそれが戦争 山口県光井中学校 3年 藤井 颯大	126	水の渦はバスタブの中で右にまき排水溝に流されていった 山口県光井中学校 3年 西村 優希	125	たくさん風車がうずをまいていてこっちが目が回ってくる 山口県三輪小学校 6年 木村 惺磨	124	橋の下見える渦潮台風も真上の橋は天の川かな 山口県浅江小学校 6年 中村 力	123	皇座山 おおざん のウィンドファームと競い合い天狗が今日も風の渦作る 山口大学教育学部附属光光中学校 2年 横道 玄	122	色のない風にフィールドの土の色つけて渦巻くつむじ風がいる 山口大学教育学部附属光光中学校 2年 横道 玄	121	洗濯後 しばらく渦を眺めては 頭がクラクラ 幼き日の母 群馬県みなかみ中学校 3年 林 里胡	120	空見上げ 天気が良いなと 手をかざし 吸いこまれていく 雲の渦 群馬県みなかみ中学校 3年 西山 智彩	119	海の渦螺旋のようになうずまくそれはまるで海の台風 群馬県みなかみ中学校 3年 生方 凜空	118	人の渦 まきこまれぬよう 逃げていく 時代の流動 肌で感じる 群馬県みなかみ中学校 3年 篠田 空河

- 131 ひんやりと渦巻きながら積み上がり体を冷やすソフトクリーム 山口県光井中学校 3年 佐藤 睦月
- 132 甲子園の熱い真夏を駆け回る徳島代表鳴門渦潮 山口県光井中学校 3年 上本 大知
- 133 ラーメンに入っていると嬉しいな赤い渦巻く小さな鳴門 山口県光井中学校 2年 中村 悠真
- 134 大島海峡の中の渦潮を橋の上からじっくりと見た 山口県光井中学校 2年 藤井 彪真
- 135 貝殻が渦巻き状のオウムガイ流麗な貝殻千葉に流れる 山口県光井中学校 2年 棟居 凜
- 136 ぐるぐるのソフトクリーム渦巻き状空気を含み口どけなめらか 山口県光井中学校 2年 嵐川 紗帆
- 137 渦潮が発生するのは干潮時満潮時の差の自然現象 山口県光井中学校 2年 嵐川 紗帆
- 138 渦の形蚊取り線香で蚊の退治二度と私に近寄らないで 山口県光井中学校 1年 清家 麗羽
- 139 日本の兵庫県の西明石市にある潮の渦は綺麗すぎるよ 山口県光井中学校 1年 沖田 乙仁
- 140 わたしはね コロナ渦の時 マスクをね していたからあ 暑かったよう。 長野県塩尻東小学校 4年 水間 乃江
- 141 渦桜 京都に咲くね 桜だよ 渦桜はね きれいな桜。 長野県塩尻東小学校 4年 水間 乃江
- 142 渦潮だ まきこまれたら 大変だ 早くにげなきや 急げ急げえ。 長野県塩尻東小学校 4年 水間 乃江
- 143 うずざくらさくらの種類そうなんだ見たことないなきれいだろうな 長野県塩尻東小学校 4年 小岩井 彩莉
- 144 コロナ渦でコロナになってつらかったでも良いことがあったんだけど 長野県塩尻東小学校 4年 小岩井 彩莉
- 145 うずまきはグルグルしてて目がまわる目がまわるのは何でなのかな 長野県塩尻東小学校 4年 小岩井 彩莉
- 146 かもんって意味しらないな調べよううずまきがたのことをいうらしい 長野県塩尻東小学校 4年 小岩井 彩莉
- 147 おいしいななにそれかってぐるぐるな渦まきアイスつめたくてうまいよ 長野県塩尻東小学校 4年 小松 春翔
- 148 うみや川にとつぜん出るよぐるぐるなかつこいいよううずまきはね 長野県塩尻東小学校 4年 小松 春翔
- 149 カタツムリ 渦巻きだよ 目がまわる カタツムリさん 大丈夫かな 長野県塩尻東小学校 4年 青木 萌杏
- 150 渦巻きは きれいなもよう すてきだな 渦巻きすてき 探してみよう 長野県塩尻東小学校 4年 青木 萌杏
- 151 渦巻きは どこにあるかな 探したよ 洗濯もね たくさんあるよ 長野県塩尻東小学校 4年 青木 萌杏
- 152 わたしはね 正直言うと 渦巻きが 少し苦手 目がまわる 長野県塩尻東小学校 4年 青木 萌杏
- 153 渦巻きは たくさんあるよ たとえばね かとりせんこう せんたくぎだよ 長野県塩尻東小学校 4年 青木 萌杏
- 154 秋になり 緑の葉っぱ 赤くなる 渦巻きながら 落葉していく 長野県塩尻東小学校 5年 高津 梨佐
- 155 お茶碗に 渦巻く模様 書いてある 渦紋といって 美しい模様 長野県塩尻東小学校 5年 高津 梨佐
- 156 渦桜 春になったら 京都に咲いて 風情があって 美しい花 長野県塩尻東小学校 5年 高津 梨佐

169	渦桜 淡黄色の 桜でね 写真だけでも見惚れちゃうんだ 長野県塩尻東小学校 5年 竹澤 結衣香	182	人々の感情渦まく画面の中 誰かは傷つき 笑顔もあふれる 長野県広陵中学校 2年 手塚 朱梨
168	渦桜 サトザクラの 仲間なの 初めて知った びっくりだ 長野県塩尻東小学校 5年 堀田 湖花	181	画面越し あなたの気持ちは わからない だけど私の 気持ちも渦まく 長野県広陵中学校 2年 手塚 朱梨
167	渦潮は 近くにいと 危険そう なぜかという 波はげしいから 長野県塩尻東小学校 5年 堀田 湖花	180	感情の渦に吞まれる堕ちて行く だけど明日は 笑顔になれる 長野県広陵中学校 2年 手塚 朱梨
166	渦まきたぐるぐる回る大きくて少しこわくてまきこまれそう 長野県塩尻東小学校 5年 小松 原野	179	ただいまと言った瞬間始まったただいま家は戦渦状態 長野県広陵中学校 2年 田中 柚衣
165	海の中渦潮がある綺麗なだでも大きくてきけんそうだな 長野県塩尻東小学校 5年 小松 原野	178	渦作るペットボトルに水いれてまわしてみるとちっちゃな渦が 長野県塩尻東小学校 6年 内川 仁奈
164	渦がある何の渦かは分からない調べてみよう楽しみなんだ 長野県塩尻東小学校 5年 小松 原野	177	冬が過ぎ 春が始まり 渦桜が つぼみが花へと かわってゆく 長野県塩尻東小学校 6年 内川 仁奈
163	渦まきはたくさんあるよ家の中野菜のキャベツ床のも様だ 長野県塩尻東小学校 5年 三枝 美遥	176	渦桜 春の終わりが 近づいて 風が吹くたび 散りゆく花びら 長野県塩尻東小学校 5年 一ノ瀬 幸保
162	渦桜 名前初めて 知ったから 調べてみてね 本物みたい 長野県塩尻東小学校 5年 三枝 美遥	175	渦まきは見ているだけで 目の中が渦まきぐるぐる 回ってしまうよ 長野県塩尻東小学校 5年 一ノ瀬 幸保
161	渦潮は 渦を巻いてね 流れてる 海水でねえ 危険なのかな 長野県塩尻東小学校 5年 三枝 美遥	174	観光地 海の中には 渦潮が 綺麗だけど 少し危けんだ 長野県塩尻東小学校 5年 竹澤 結衣香
160	渦紋はね うずまきのねえ 形のね もようのことを 言っているんだ 長野県塩尻東小学校 5年 三枝 美遥	173	渦潮は ひびきがなんか 怖そうに げなきやダメな 感じがするね 長野県塩尻東小学校 5年 竹澤 結衣香
159	渦巻くは 水の流れが ぐるぐるに 回って渦に なることなんだ 長野県塩尻東小学校 5年 高津 梨佐	172	渦紋はね 渦の模様を 表すよ ぐるぐる回る 想像できる 長野県塩尻東小学校 5年 竹澤 結衣香
158	大切な 謎解き小説 破られて 見た瞬間に 怒りが渦巻く 長野県塩尻東小学校 5年 高津 梨佐	171	桜のね 種類の一つ 渦桜 京都にあるよ きれいな桜 長野県塩尻東小学校 5年 竹澤 結衣香
157	あったかい 湯船のお湯を 沸かしたら 渦ができて 面白いんだ 長野県塩尻東小学校 5年 高津 梨佐	170	渦桜 見たことなく 見てみたい でも写真より きれいだよね 長野県塩尻東小学校 5年 竹澤 結衣香

195	大海に降りしきる雨荒波の 渦巻く白馬一つの船 群馬県沼田高校 1年 富沢 悠真
194	もういいの母からの問い答えると風呂で流れる渦を巻く水 群馬県沼田高校 1年 坪井 颯佑
193	花火見て帰りは大きな人の渦 電車までもがお祭り騒ぎ 群馬県沼田高校 1年 竹中 瑛太
192	渦潮に 込まれてしまい そうなのは 体ではなく 私の心 長野県広陵中学校 3年 大野 心
191	渦渦し海見に行くと渦がある心渦いた渦渦渦と 長野県広陵中学校 3年 保科 奏弥
190	人は皆渦をいつでも身につけるつむじのような指紋のような 長野県広陵中学校 3年 丸山 里桜
189	渦のよう俺の気持ちは騒いでるぐるぐる回る落ちつき見えず 長野県広陵中学校 3年 山田 埜愛
188	世の中のいろいろな渦漂って知識の渦を整理してゆく 長野県広陵中学校 3年 酒井 太希
187	渦の中 泡だけで水責めに 声を出しても機械に消される 長野県広陵中学校 3年 齊藤 優奈
186	渦を見ると飲み込まれるようにポーっとなるその渦には可能性がある 長野県広陵中学校 3年 竹下 裕斗
185	なつかしいついこの前は流行ったコロナの渦よう来ないでね! 長野県広陵中学校 2年 藤澤 龍志
184	天気予報台風の渦近づくと俺がとめると右手がうずく 長野県広陵中学校 2年 佐藤 悠樹
183	渦できる大雨の後のマンホール泥水の中僕のサンダル 長野県広陵中学校 2年 本山 航
196	台風が空に渦巻き迷ってる迷った挙げ句どこかへ消える 群馬県沼田高校 1年 中山 素
197	ジャイアンツ東京ドームで生観戦ベテラン活躍スタンドに渦 群馬県沼田高校 1年 南雲 杏介
198	今年また東京ドームに行ってきたどこを見たって人の渦 群馬県沼田高校 1年 南雲 杏介
199	渦起こせ 少子化なんて 気にするな みなかみにも 活気起こせ 群馬県沼田高校 1年 根岸 勝瑛
200	勉強後疲れが増しておとなしく 眠りの渦に巻き込まれる 群馬県沼田高校 1年 林 悠都
201	秋の夜虫たちの音集まって 騒がしい夜の渦の中 群馬県沼田高校 1年 林 悠都
202	来年は僕の大好きドライブへ渦巻くような高速道路 群馬県沼田高校 1年 星野 晃毅
203	渦吞まれ身動きとれずうずくまる私の学力試験のもとで 群馬県沼田高校 1年 山崎 優大
204	渦作る皆の集まり箱中で夢に向かって飛び出しを待つ 群馬県沼田高校 1年 山崎 優大
205	川の水渦巻く中にゆらゆらと木の葉が落ちて流れ消えゆく 群馬県沼田高校 1年 今井 快人
206	新学期 不安と緊張 のまれてく 渦からでれぬ 初めての高校 群馬県沼田高校 1年 須田 圭吾
207	みんなの思いで渦をまきまくり eyeyoy。 Im bokusui 群馬県沼田高校 1年 林 旺典
208	眠る猫中心のくぼみゴロゴロとモフモフがまくあらしの渦 群馬県沼田高校 1年 林 翼牙

229	渦のよう友との時間過ぎていく戻らぬ日々をただ眺めてる 群馬県沼田高校 1年 原澤 遥希
210	人の渦のまれまいと逃亡し一人になって虚無を見つける 群馬県沼田高校 1年 星野 愛雅
211	桜木の 散って渦巻く 紅炎の 紅き染まりゆく 諏訪峡華道 群馬県沼田高校 1年 星野 航輝
212	試合前不安の渦にのみこまれ 顔も心も暗くなりけり 群馬県沼田高校 1年 池田 蒼生
213	コロナ渦から 終息宣言 かなり経ち コロナ前生活 未だ戻れず 群馬県沼田高校 1年 小川 健太
214	落ちた葉が吹きわれの渦にのみこまれ 水にもまれて 色が落ちてく 群馬県沼田高校 1年 長 蒼翔
215	渦巻く貝浜辺で見つめまじまじと夏の想い出みに持ち寄る。 群馬県沼田高校 1年 小野 仁太
216	お風呂洗い 水栓抜くと 渦をまく それに見とれて 吸いこまれそう 群馬県沼田高校 1年 木村 海斗
217	休みの日 花火大秋 はめ外れ 笑いの渦が 僕らを包む 群馬県沼田高校 1年 七五三木 葵
218	夏祭り 渦巻いた わたあめが 雨に溶けてき 足元落ちる 群馬県沼田高校 1年 高橋 健太
219	頭の中 渦まく不安と 恐怖心 自信を持って 強く生きよう 群馬県沼田高校 1年 田口 大翔
220	渦巻く水 心の奥の 秘めた想い 渦潮のように 過ぎゆく日々 群馬県沼田高校 1年 立木 琉翔
221	秋の渦周りの木々は色づいて 思い出の渦に静かに巻きこまれる 群馬県沼田高校 1年 谷川 雄飛
222	ふと思う渦まく星々ありふれる 黒き空間夢限りなし 群馬県沼田高校 1年 長谷川 祐希
223	花の渦桜を見るに來てみれば 風に散りゆき寂しさ覚ゆ 群馬県沼田高校 1年 林 虹太
224	未知の世界 興味の渦に 吸いこまれ 行動せずには いられない 群馬県沼田高校 1年 星野 蒼人
225	うずうずと気持ちが渦巻く金曜日何をしようかまた渦巻く 群馬県沼田高校 1年 松井 丈翔
226	栓を抜き刻々と減る風呂の水終いに其れは渦となりゆく 群馬県沼田高校 1年 松井 来斗
227	南方で 渦の産声 成長し 不安煽るも ただ消えるのみ 群馬県沼田高校 2年 深津 優慎
228	南から 巨大な渦が やって來て 残暑を残し 雨過天晴 群馬県沼田高校 2年 田中 健登
229	今日も降り 渦ができてる 排水溝 あふれた水で また靴ぬれる 群馬県沼田高校 2年 吉原 珀
230	雨あがり 水たまりよけて 帰る帰り道 排水溝に向う水 渦巻いている 群馬県沼田高校 2年 木村 隼瀬
231	共学に向けた校舎の工事音 教師の怒声音の渦かな 群馬県沼田高校 2年 関 銀之助
232	帰り道カップルを見て渦が巻くもしも隣が僕だったと 群馬県沼田高校 2年 久保田 侑太
233	時の渦年をとるだけ早くなる流がれていくのはつらい思い出 群馬県沼田高校 2年 久保田 侑太
234	空の下広大な地にかたつむり 何考えても渦巻く世界 群馬県沼田高校 2年 林 優太

247	トイレの水飲んでではじけるスパークリング渦巻く世界体調不良	群馬県沼田高校 2年	西形 颯茉
246	悲しげな日々の出来事人知らず渦のように溶けるものかな	群馬県沼田高校 2年	萩原 伊吹
245	災禍の初まり台風の渦目覚めるパワー三本の衝撃 稲光	群馬県沼田高校 2年	若林 康則
244	洗濯機渦を見てるとあれなんか 不思議な気分催眠術か?	群馬県沼田高校 2年	星野 凰雅
243	夢を見た夢を見る夢を見たまた夢だ 抜け出してえな夢の渦	群馬県沼田高校 2年	星野 凰雅
242	おいしいな 渦まきソフト バニラ味 知覚過敏で まえ歯がしみる	群馬県沼田高校 2年	大淵 翔太
241	渦の中心が揺れる波の声流れに身を任せ深く潜る	群馬県沼田高校 2年	町田 翔人
240	風の渦 進路を変えてつき進む もう道は決まったようだ	群馬県沼田高校 2年	杉木 蒼月
239	目に入る色落ちかけた葉の渦巻きが 今年の終わりに向かってく	群馬県沼田高校 2年	杉木 蒼月
238	ひと夏の渦にのまれる夏祭り忘れられない悔しい気持ち	群馬県沼田高校 2年	富澤 悠河
237	渦巻き模様の人生で 私の位置は 分からない ただ今の時間を 大切にしたい	群馬県沼田高校 2年	矢野 目 陸
236	勉強の渦 巻きこまれぬよう 頑張るけど どうにもならず 暮れる夕焼け	群馬県沼田高校 2年	高橋 晃介
235	渦を巻くソフトクリームと夏の空 あれもこれもおいしそうだな	群馬県沼田高校 2年	高橋 晃介
248	水面には風が渦巻く君の影 追えば遠ざく夏の夕暮れ	群馬県沼田高校 2年	鈴木 陽太
249	静けさにペン先走る机上には 渦巻く夢が形を変えて	群馬県沼田高校 2年	鈴木 陽太
250	渦の風花火の音も遠く消え 夏の終わりを月だけが知る	群馬県沼田高校 2年	鈴木 陽太
251	この短歌 書けず迷いの 渦の中 思い出し忘れ またスパイラル	群馬県沼田高校 2年	金子 遙
252	渦巻く風 秋の葉舞い散る 時の流れ	群馬県沼田高校 2年	青木 蔵茉
253	渦の中 消えてゆく影 秋の雨	群馬県沼田高校 2年	青木 蔵茉
254	渦巻く海 月の光映え 夜の深淵	群馬県沼田高校 2年	青木 蔵茉
255	渦の音 静寂を裂いて 夜が明ける	群馬県沼田高校 2年	青木 蔵茉
256	渦に舞う 落葉のゆく先 秋の風	群馬県沼田高校 2年	青木 蔵茉
257	渦のように忙しい毎日 流れに乗って英単語をスパイラル	群馬県沼田高校 2年	木村 友昭
258	響き渡り 運ぶ夢の影 渦の音 共に泳ぐ 新学校	群馬県沼田高校 2年	萩原 曉汰
259	渦に飲まれて追えなくなる未来の像始めて得る走馬灯	群馬県沼田高校 2年	萩原 曉汰
260	恋心に鳴りやまざる渦のよう 歳を重ねて築く少年の志	群馬県沼田高校 2年	萩原 曉汰

273	二次関数 問題解けず ぐるぐると 渦をまく脳 考え悩む 群馬県利根実業高校 1年 松井 小和	272	数学の 問題解けず ぐるぐると 渦をまくよう 考え悩む 群馬県利根実業高校 1年 松井 小和	271	渦巻く風あの日思い出よみがえる揺れる心とたなびく夜の雲 群馬県利根実業高校 1年 真下 大輝	270	秋風に吹かれ囁く木の葉たち 飛び行く者は渦を巻きたる 群馬県利根実業高校 1年 山口 聡明	269	渦の中川のせせらぎ心にも巻かれ迷い込む夢彼方見えずに 群馬県沼田高校 2年 割田 蹴斗	268	夢追えば 不安の渦に 巻かれつつ 強く願えば 進む力に 群馬県沼田高校 2年 荒田 煌来	267	心には 誰にも見えない 渦がある 言えない想い 抱えたままに 群馬県沼田高校 2年 荒田 煌来	266	未来への 不安が渦を巻く夜に 君がくれたる 言葉を信じ 群馬県沼田高校 2年 荒田 煌来	265	渦の中、時を忘れ流され 心の声が、遠く響く 群馬県沼田高校 2年 阿部 蒼士	264	心の渦、思い出の波が来て さざ波の中、君を探す 群馬県沼田高校 2年 阿部 蒼士	263	渦の底、孤独の影が潜み 誰にも見えぬ、秘密の場所 群馬県沼田高校 2年 阿部 蒼士	262	水面に映る、渦のゆらぎに 恋の予感を、そっと感じる 群馬県沼田高校 2年 阿部 蒼士	261	渦巻く風、秋の葉を躍らせて 記憶の中で、君と重なる 群馬県沼田高校 2年 阿部 蒼士
286	重い雲 やがて降り出し 雨の渦 渦を彩る 傘の花々 群馬県利根実業高校 1年 千明 美羽音	285	渦潮テレビで見たあの日光景おもいだす深い渦 群馬県利根実業高校 1年 鈴木 美波	284	渦潮を見ておいしい味を思い出す焼きたての味パン・オ・レザン 群馬県利根実業高校 1年 鈴木 美波	283	風強く 色んなものを 飲み込んで 空にぐるぐる 渦巻いている 群馬県利根実業高校 1年 戸山 夏姫	282	見渡せば色とりどりの紅葉がひらりひらりと落ちて渦巻く 群馬県利根実業高校 1年 外山 尚生	281	夏の海船で旅出て渦見えてまた見てみたい透明な渦 群馬県利根実業高校 1年 関 凛太郎	280	渦の中心の中も揺れている悩みと時が流れ過ぎゆく 群馬県利根実業高校 1年 安原 心輝	279	渦巻いた 私の気持ちの 恋心 いつかは消えて 無くなるのだから 群馬県利根実業高校 1年 本多 花鈴	278	あの店で 君と二人で ほおばった 渦巻きアイス 思い出の場所 群馬県利根実業高校 1年 戸丸 伍恋杏	277	雨の日に 青紫に 咲く紫陽花 渦巻く小さな かたつむりひとつ 群馬県利根実業高校 1年 長谷川 雛葵	276	鍋の中なるとの渦の桃色が具材の中ですぐ見つかるぞ 群馬県利根実業高校 1年 山田 珠愛	275	カラオケでソフトクリーム渦を巻くコッをつかめばきれいに巻ける 群馬県利根実業高校 1年 山田 珠愛	274	秋の海 螺旋状に 動く渦 激しく流れ 風を巻き込む 群馬県利根実業高校 1年 山後 友梨愛

- 287 川でみたきれいな渦をもう一度あの日見た渦また見てみたい
群馬県利根実業高校 1年 田中 拓心
- 288 片品川新緑と澄んだ空気またみてみたいきれいな渦よ
群馬県利根実業高校 1年 田中 拓心
- 289 渦まいて涼しい風が通り抜け新たな道を輝き示す
群馬県利根実業高校 1年 田中 拓心
- 290 海原に小さな渦巻き風通る我の新たな道輝けり
群馬県利根実業高校 1年 田中 拓心
- 291 渦巻く水 心の奥に 思い出が 揺れて消えゆく 波の音聞いて
群馬県利根実業高校 1年 津久井 駿成
- 292 青き海強き流れと弱き流れ共にぶつかり渦潮と化す
群馬県利根実業高校 1年 和田 優祐
- 293 朝起きて眠気覚ましのコーススプーンでかき混ぜ大渦を巻く
群馬県利根実業高校 1年 和田 優祐
- 294 ライブの日 あちらこちらに 人の渦 吞まれてもなお かき分け進む
群馬県利根実業高校 1年 村山 悠希
- 295 海の渦 見つけてみれば 小さそう 近づいてみると 海のもくずに
群馬県利根実業高校 1年 堤 奏心
- 296 海の渦自然の力すごいよね幻想的でキレイだね
群馬県利根実業高校 1年 小室 瑛乃助
- 297 帰り道雲の形が渦模様私の心も大渦模様
群馬県利根実業高校 1年 平松 沙菜
- 298 無理やりにノート開いてペンを持つ のみこまれてゆく 渦まく頭
群馬県利根実業高校 1年 吉野 穂花
- 299 初東京人々巡る交差点渦巻く姿限り無しか
群馬県利根実業高校 1年 山崎 啓太
- 300 嵐の夜焰を模した赤信号まさに戦渦の真最中だ
群馬県利根実業高校 1年 山崎 啓太
- 301 食の秋ぜいたくをしてまつたけを食べてびっくり渦まくおなか
群馬県利根実業高校 1年 綿貫 ひまり
- 302 海原に食を欲して空を飛ぶ集まり動く海鳥の渦
群馬県利根実業高校 1年 吉澤 響
- 303 恋の渦あなたのやさしさ心地良い梅雨の中のあなたと私
群馬県利根実業高校 1年 松井 来夢
- 304 滝坂の落ち葉空へと渦巻いて秋を感じる通学路かな
群馬県利根実業高校 1年 森下 笑可
- 305 渦まいた川の流れの下サケの群れ生きるしかばね生命の歌
群馬県利根実業高校 1年 森下 笑可
- 306 徳島で船から初めて見る景色渦まく海の美しきこと
群馬県利根実業高校 1年 吉澤 結夏菜
- 307 坂道に渦巻く紅を蹴散らせば耳を掠めた秋のささやき
群馬県利根実業高校 1年 林 咲帆
- 308 春風で華やかに舞う花の渦揺れ動くさま見しらぬけしき
群馬県利根実業高校 1年 吉田 愛翔
- 309 海水浴 海に入らず 見る景色 波渦みたい 地球も回る
群馬県利根実業高校 1年 矢代 佑介
- 310 部活動己のミスを悔しがる乱れる心渦潮のごと
群馬県利根実業高校 1年 田辺 瑛大
- 311 渦巻いて見えない未来手を伸ばし揺れ動く明日を生きる
群馬県利根実業高校 1年 有馬 蒼空
- 312 風が吹き 舞い散る落ち葉 渦を巻く 手品のごとき 冬の訪れ
群馬県利根実業高校 1年 横谷 めい

313	時の渦戦い続く世の中よ過ぎし歴史をまたくり返す	群馬県利根実業高校 1年 茂木 さくら
314	帰り道 くいとまった とんぼみて 人さし指で 渦をかく君	群馬県利根実業高校 1年 藤井 りりこ
315	顔洗いたまった水は渦になるぶるっと身ぶるい冬が近づく	群馬県利根実業高校 1年 角田 日々翔
316	かざぐるまぐるぐる渦巻き心も過去へぐるぐるるタイムワープ	群馬県利根実業高校 1年 西本 彩乃
317	テスト勉強 ココアを入れて 渦巻いて 心にしみる 母のぬくもり	群馬県利根実業高校 1年 林 愛海
318	渦潮にのみこまれたら命の危機助かるために救助を求む	群馬県利根実業高校 1年 平澤 天夢
319	ありがとう渦まく蚊取り線香は夏の匂いと共にしまった	群馬県利根実業高校 1年 吉川 優奈
320	北風が土や葉っぱを巻き込んでんやわんやの渦をつくった	群馬県利根実業高校 1年 吉川 優奈
321	二次関数 分からなすぎて 追いつけない 頭の中が ぐるぐる渦巻く	群馬県利根実業高校 1年 番場 有織
322	コロナ禍で クラスも渦に 巻き込まれ 自分も魔の手に ああ辛すぎる	群馬県利根実業高校 1年 鈴木 琥太郎
323	風が吹く 木がゆらゆらと 揺れ始め 枯れ葉が落ちて 渦がぐるりん	群馬県利根実業高校 1年 小野里 七海
324	テスト中解答欄と鉛筆と頭の渦や白い欄	群馬県利根実業高校 1年 井浦 勇人
325	風の声落葉の渦やコマのようくるりと路を回る	群馬県利根実業高校 1年 井浦 勇人
326	渦をまく波のような人生に幸も不幸もその中ありけり	群馬県利根実業高校 1年 菊地 海斗
327	肌寒く 落葉ふる道 夕暮れに 渦まく葉には 心のあらわれ	群馬県利根実業高校 1年 島田 雛穂
328	秋の雨 くれなゐそまる 葉っぱ達 渦巻く風に ゆらりゆらりと	群馬県利根実業高校 1年 齋藤 美心
329	帰り道 見上げて移る 鳥達と 青空広がる 今日この頃	群馬県利根実業高校 1年 齋藤 美心
330	夏の日に きみの思を 知ったとき 渦まく思い うちあけられず	群馬県利根実業高校 1年 見城 美月
331	秋の空 あなたと歩く 帰り道 心にやどす 渦まく思い	群馬県利根実業高校 1年 桑原 莉菜
332	渦の中 泳ぐ魚を 見ていると 魚はまるで 私みたい	群馬県利根実業高校 1年 織田澤 寧音
333	汗流す 筋肉の波や 渦ごとし 身体の芯より 鍛え上げんと	群馬県利根実業高校 1年 石井 健彰
334	天賦の才 努力で超えられぬ この格差 羨む思いは 心の渦	群馬県利根実業高校 1年 小島 空
335	風が吹き 渦巻く落葉 舞い散りて 静けさ染める 冬の足音	群馬県利根実業高校 1年 遠藤 太陽
336	大好きな 君への想い 渦まいて 書いては消える 私の気持ち	群馬県利根実業高校 1年 片桐 由菜
337	波にのり 渦巻く海原 眺めつつ 心の嵐は 風を待つ	群馬県利根実業高校 1年 牛口 瀬那
338	渦にのまれ 夢のかけらが 散りゆく 追いかけるほど 遠くなりゆく	群馬県利根実業高校 1年 白石 実優

351	渦巻きの蚊取り線香時期も過ぎ名残惜しいな夏の思いで 群馬県利根実業高校 1年 新宮 由崇	339	渦巻くよる 星の光が ゆれている さまざまな声 ひとつにとける 群馬県利根実業高校 1年 白石 実優
350	大会で みんな一丸 渦となり 一位をめざす 全国大会 群馬県利根実業高校 1年 熊谷 優輝	340	渦を描く 思い出たちが 巡り来て 過去と今を つなぐ瞬間 群馬県利根実業高校 1年 坂西 結奈
349	水の渦 音が涼しい なぜだろう やっぱりきれいな 気持ちが良いな 群馬県利根実業高校 1年 佐藤 大翔	341	渦の中 心の声が 驚き合い 迷いの流れ 解きほぐしてく 群馬県利根実業高校 1年 坂西 結奈
348	芸人の 漫才を見て 大晦日 笑いの渦で 年締めくくる 群馬県利根実業高校 1年 佐々木 優衣	342	大変だ 大会だと 普段より 汗水垂らし 渦のように 群馬県利根実業高校 1年 小野 陽輝
347	渦まいた ソフトクリーム 頼んでは 上から食べる ところける甘さ 群馬県利根実業高校 1年 佐々木 優衣	343	竹林で 中に入れば 渦のよう 生命の神秘 広がりとつづける 群馬県利根実業高校 1年 小野 陽輝
346	台風が 渦をまいては やってくる 激しい風に 恐がる私 群馬県利根実業高校 1年 木村 玲音	344	渦をまく あの海ながめ 思い出す 渦きえる海 悲しく思う 群馬県利根実業高校 1年 菊地 北斗
345	大川にただちに注ぐ滝の水ひとたび大きな渦をなすなり 群馬県利根実業高校 1年 木村 玲音	352	瀬戸内海 鳴門の渦潮 見てみたい 本物だけの 迫力がある 群馬県利根実業高校 1年 小野里 直希
364	コロナ渦で登校できず会えもせず 家には一人リモート授業 群馬県利根実業高校 1年 大川 莉玖	353	渦の意味 調べてみては 考える 結局短歌 思いうかばず 群馬県利根実業高校 1年 佐藤 瑞姫
363	コーヒーを 渦ができるほど かき混ぜる 熱いと飲めない 猫舌の僕 群馬県利根実業高校 1年 会津 健心	354	放課後の 帰り道には 人の渦 少し離れて 水を飲む 群馬県利根実業高校 1年 織田澤 龍法
362	渦潮の 渦の大きさ 驚いて 目がまわる 群馬県利根実業高校 1年 相川 莉杏	355	答案の 丸やばつさえ 渦となり 未来の行方 ぼんやり見える 群馬県利根実業高校 1年 織田澤 龍法
361	タマミツネ 渦作る技の きれいさよ みとれていると 倒せずじまい 群馬県利根実業高校 1年 伊藤 ひより	356	橋の下 激しい滝が 渦を巻き 大きい音が 耳に響く 群馬県利根実業高校 1年 江口 来夢
360	夕暮れにかご持ち走る子どもたちとんぼのめがね渦巻き模様 群馬県利根実業高校 1年 阿部 心愛	357	風が吹く 海を見ると 渦潮あり 冷えた体で 冬を感じる 群馬県利根実業高校 1年 大竹 莉杏
359	コロナ明け 旅行に行くも 人多い 人の渦に 迷子多すぎ 群馬県利根実業高校 1年 井上 瑞起	358	瀬戸内海 たまに現れる 海の渦 人生で一度は 見てみたいなあ 群馬県利根実業高校 1年 飯森 太士朗

377	コロナ渦で家族とふれ合う機会へり もっと増やしたい家族の思い出 群馬県利根実業高校 1年 金子 廉
376	コロナ渦の コロナ予防で マスクさぎ 少しの夢も いつかはさめる 群馬県利根実業高校 1年 阿部 未紗希
375	ラーメンの なるとの渦が 目立つ中 めんまはわきに ただひたっている 群馬県利根実業高校 1年 阿部 未紗希
374	コロナ渦で 修学旅行 丸つぶれ 行く場所まさかの 駅と古墳 群馬県利根実業高校 1年 阿部 奏
373	恋しさは 心の中で 渦を巻き 答えを求め 想いは巡る 群馬県利根実業高校 1年 岡田 大洋
372	渦を巻く 冷える風吹く 秋の道 すすきの穂先 揺れる夕暮れ 群馬県利根実業高校 1年 岡田 大洋
371	教室に入る瞬間一目惚れ今日から始まる恋の渦 群馬県利根実業高校 1年 佐藤 美歌
370	帰り道 やさしい声で 話す君 ぼくの心は 渦巻模様 群馬県利根実業高校 1年 高橋 琴音
369	コロナ渦に できなかった 友達と 作る思い出 記憶の穴埋め 群馬県利根実業高校 1年 高橋 琴音
368	コロナ渦で どこにも行けず 家の中 犬と戯れ 唯一の癒し 群馬県利根実業高校 1年 井上 泰汰
367	おふぎけでバットを駆使しグルグルと目回りまるで渦潮のよう 群馬県利根実業高校 1年 新木 琉珂
366	台風は夏から秋に訪れてしっかりと渦形のように 群馬県利根実業高校 1年 新木 琉珂
365	文化祭規模を縮小コロナ渦に 来年こそは良い思い出を 群馬県利根実業高校 1年 大川 莉玖
378	渦の巻く ラーメン中 なんだこれ 食べてみたら おいしいな 群馬県利根実業高校 1年 石坂 奏人
379	コロナ渦の 社会全体 景気悪 これからの日本 どうなっていく 群馬県利根実業高校 1年 石坂 奏人
380	渦まきの パンを見つけ 驚いた 口いっぱいにおいしさ広がる 群馬県利根実業高校 2年 石田 乃蒼
381	木の葉たち 橙に染まり きらめいて 風に渦巻き 舞いおどる 群馬県利根実業高校 2年 荒川 由衣
382	遊覧船 嵐が発生 渦を巻く ゆらゆら揺れて 船酔いになる 群馬県利根実業高校 2年 小池 碧衣
383	その歌は私の頭に残り続け渦をまきながら消えることはない 群馬県利根実業高校 2年 桐井 環
384	渦状に流れる水が台風のように見える雨降る日 群馬県利根実業高校 2年 角田 果鈴
385	カタツムリ コーヒーカップ 花丸の 渦巻く模様 心も踊る 群馬県利根実業高校 2年 秋和 來我
386	十月中旬 暖かな気温 秋の季節 きんもくせい香りのよい花の渦 群馬県利根実業高校 2年 中澤 舞優
387	台風は とつても危ない 風の渦 被害拡大 気をつけよう 群馬県利根実業高校 2年 井上 一志
388	春の風 吹いて渦まく 花びらが 雨のように 目の前に振る 群馬県利根実業高校 2年 岩本 咲空花
389	分からない 不安に駆られ 疲れてく 心の中で回る 真っ黒な渦 群馬県利根実業高校 2年 笛木 琉心
390	沖縄で初めて感じた人の渦もう懐かしいあの日の思い出 群馬県利根実業高校 2年 初山 絆

391	心の渦	失敗ばかりの	このからだ	嫌いだ嫌いと	さけぶ日々	群馬県利根実業高校	2年	田村	つぐみ
392	外掃除	土やほこりを	吹き上げる	冷たい風が	渦巻くように	群馬県利根実業高校	2年	河合	優海
393	楽しんだ	修学旅行	もう一度	沖繩の海	人々の渦	群馬県利根実業高校	2年	盛田	優陽
394	将来の	進路のことで	悩むなか	心配になり	渦に巻かれる	群馬県利根実業高校	2年	須藤	実紅
395	夏にきた	渦まく海が	光ってる	夕日に燃えて	あかくなる	群馬県利根実業高校	2年	高橋	寧々日
396	渦を巻く	色なき風は	肌寒い	舞った落ち葉は	あかく輝く	群馬県利根実業高校	2年	綿貫	紀菜
397	収納祭	渦巻く煙	目にしみて	美味しい物を	頬張り食べる	群馬県利根実業高校	2年	和田	未羽
398	寒い冬	冷たい手足	あたたかい	渦巻く心も	すつきり綺麗	群馬県利根実業高校	2年	堀江	倅未
399	思い出す	あの日の怖さ	わからない	学びに行こう	恐怖の渦	群馬県利根実業高校	2年	中澤	柚稀
400	青い海渦にのまれる	夏休み休み間もなく始業式				群馬県利根実業高校	2年	吉野	天翔
401	この海の	激しい渦潮	螺旋状	人生色々	心の表れ	群馬県利根実業高校	2年	笠原	魁晟
402	もう一度	いつてたべたい	おきなわの味	ブルーシールの	うずまきアイス	群馬県利根実業高校	2年	宮田	太陽
403	曇り空渦巻く雲に想いはせ	雨降る情景いとをかし				群馬県利根実業高校	2年	高橋	承太郎
404	晩冬の	冷えた体に渦まいた	凍える思い	別れはもうすぐ		群馬県利根実業高校	2年	富澤	竜夢
405	学校で友達と喧嘩家帰り	渦巻く心持ち帰る				群馬県利根実業高校	2年	内海	琉惺
406	沖繩の	修学旅行が	渦のよう	思い出の中	駆けめぐってる	群馬県利根実業高校	2年	松井	駿弥
407	渦の中	沖繩の海が	踊り出す	青い波間に	光り輝く想い	群馬県利根実業高校	2年	保坂	雅大
408	相変わらず	心のおくで	我心の渦	切ない気持	まわっている	群馬県利根実業高校	2年	池田	悠真
409	渦の中	楽しい時も	一瞬に	心悲しき	空に溶けゆく	群馬県利根実業高校	2年	坂本	翼
410	待ち焦がれ	目の前広がる	青い海	渦巻く雲が	突然生まれる	群馬県利根実業高校	2年	千明	怜生
411	沖繩で食べた氷菓青い渦	食欲増進まいにちうずうず				群馬県利根実業高校	2年	松井	匠凌
412	目を閉じて	日々の生活	振り返る	あふれ出てくる	思い出の渦	群馬県利根実業高校	2年	高澤	陽夏瑠
413	人間関係	うまくいかねば	溜まる	困り事	心の渦	群馬県利根実業高校	2年	戸部	涼矢
414	水瀑布	しぶきを立てて	人々の	渦く心	愁いかな	群馬県利根実業高校	2年	小野	悠史
415	揺れる船	笑いの渦が	わき起こる	光り輝く	大胸筋	群馬県利根実業高校	2年	竹之内	煌聖
416	渦潮を	いつか見たいと	親に言う	夢が叶うのは	いつになるのか	群馬県利根実業高校	2年	富澤	聖海

429	夏の日 蚊取り線香 渦を巻き 風に漂う 心地よい香り	群馬県利根実業高校 2年	角田 帆希華
428	秋の風吹いては冷えて渦巻く今年の冬が駆け寄ってくる	群馬県利根実業高校 2年	角田 姫奈
427	夏休み 課題終わらず 絶望し 頭の中に 渦巻ける	群馬県利根実業高校 2年	入澤 太陽
426	高校生 修学旅行 飛行機で 沸く心の渦 ふわふわと	群馬県利根実業高校 2年	山崎 悠菜
425	渦の中 生まれるワタシ 救う手は 波とともに 消える虚しさ	群馬県利根実業高校 2年	星野 莉枝
424	渦巻いた風がもたらす厄災は 文明に告げる破壊の予言	群馬県利根実業高校 2年	星野 莉枝
423	水の渦 透明な水に 浮かびくる ルンルン気分 面白し	群馬県利根実業高校 2年	齋藤 郁弥
422	渦巻きの 冷めたい食べ物 溶けそうだ 琉球の味 シークアーサー	群馬県利根実業高校 2年	武田 眞大
421	帰り道 君を見送る 午後六時 見落とされる 渦巻く心	群馬県利根実業高校 2年	和南城 楽洋
420	静かな日 暗闇の中 風が吹く 渦巻くこの葉 凍える我	群馬県利根実業高校 2年	木村 晴
419	沖縄へ 行けて歓喜な コロナ渦後 ステーキ食べて 我満足なり	群馬県利根実業高校 2年	笠原 悠聖
418	思う人 違からずところ 心あり 心渦まき 言えぬ想い	群馬県利根実業高校 2年	松井 蒼空
417	休みの日 海はおお荒れ 台風で 海にも渦が 空にも渦が	群馬県利根実業高校 2年	村山 佑弦
442	肌寒い 決めよ秋服 見てみても 渦紋みたいに 脳がぐるぐる	群馬県利根実業高校 2年	武井 佑季奈
441	旅行前 何度も確認 してしまう 台風渦 遠くに行つて	群馬県利根実業高校 2年	今井 彩芽
440	秋の時 あなたを想う 声が出ず この恋の渦 いつか晴れるか	群馬県利根実業高校 2年	津久井 芽吹
439	部活中 雨が地面に 落ちていく 渦の波紋に にやけ隠せず	群馬県利根実業高校 2年	中澤 准也
438	吹割の 雪どけ水の 渦をまく 下に行けば 流れゆらめく	群馬県利根実業高校 2年	松井 杏樹
437	台風で 渦まく風に 大被害 米不足になり 不安な未来	群馬県利根実業高校 2年	中村 優佑
436	渦描く 悲哀の想い 切り捨てる 夢に向かつて 勇往邁進	群馬県利根実業高校 2年	小野塚 茉衣
435	悪天候 波荒い海 暴風 海辺の上に 渦巻くしおうみ	群馬県利根実業高校 2年	小林 嵩
434	空港で 不安とともに うずまく心 みんなで助け すつきり青空	群馬県利根実業高校 2年	蟹澤 里子
433	海の中 うずがくるかと 待つ魚 恐怖に怯え 心もうず化	群馬県利根実業高校 2年	蟹澤 里子
432	雨の日に テレビで見つめる 台風は 頭の上の 渦巻くつむじ	群馬県利根実業高校 2年	片柳 碧仁
431	沖縄の なぞった歴史の 形跡に 渦巻く想いを 学んだ日	群馬県利根実業高校 2年	島田 琴子
430	秋がきて 近づく未来と 分岐点 渦中にいても 湧かぬ実感	群馬県利根実業高校 2年	島田 琴子

455	花形の裾引き追って紙吹雪振り向くたびに渦巻き起こす 群馬県利根実業高校 2年 原澤 絢南
454	渦桜 淡い赤色 はかなき花 散ればこそ いっそういさぎよい 群馬県利根実業高校 2年 田邊 珀翔
453	秋祭り ぼくの心は 渦のよう 流れる水のように 踊ってる 群馬県利根実業高校 2年 諸田 敦己
452	人の渦 知らない景色 広い海 新たな発見 沖縄の土地 群馬県利根実業高校 2年 高山 祥秀
451	襲い来る 旅行前での 夏の渦 皆の運で 風を吹き飛ばす 群馬県利根実業高校 2年 角谷 隼志
450	花の渦 うずまき作る あらわれる 渦巻く吹雪 めまぐる動き 群馬県利根実業高校 2年 大竹 礼斗
449	深更の 荒む心に渦まいて 鏡を見れば かんばせわろし 群馬県利根実業高校 2年 伊藤 隼
448	恋い慕う 色なき風の 渦巻いて 歩き続ける 相生の松 群馬県利根実業高校 2年 中島 大翔
447	渦桜 白色を帯びた 淡紅色 心に響く 大輪の花 群馬県利根実業高校 2年 錦織 春風
446	桜散る 渦舞う花びら ヒラヒラと 舞い落ちていく 美々しい季節 群馬県利根実業高校 2年 松井 空琉
445	秋の葉 風につて どこへ行く 渦とともに 空の果てまで 群馬県利根実業高校 2年 外山 亜璃
444	紅葉狩り 赤黄の色に 染められて にぎわう人と 渦巻く雲 群馬県利根実業高校 2年 下城 さくら
443	ひらひらと 木々が寂しく 変わるのを 心に渦を 巻きながら見る 群馬県利根実業高校 2年 中澤 美桜子
456	白色の 渦巻く空に 暑い夏 長い一月の 甘い思い出 群馬県利根実業高校 2年 五十嵐 琉斗
457	だんだんと 陽が傾くころ 鳥のよう 渦中の人だね お調子者 群馬県利根実業高校 2年 佐藤 彩花
458	渦巻く夢 朝の喧騒に 溶けこんで 頭の奥に 響く声ひとつ 群馬県利根実業高校 2年 佐々木 星
459	夏に見た テレビの中の 速報で 不愉快になる 黒い渦 群馬県利根実業高校 2年 関 愛奈翔
460	紅葉散る 肌も冷たく なってくる 川の流れも 水が渦まく 群馬県利根実業高校 2年 阿部 由菜
461	真夏日の 雨風の渦 ぼつぼつと 涼しさ感じ うれしくなる 群馬県利根実業高校 2年 大嶋 真愛
462	秋の夕 ハナマスの実が 実る頃 見守り渦巻く 夏惜しむ風 群馬県利根実業高校 2年 船橋 茉彩
463	風と雨 吹いて降ったり わくわくで 今年も近づく あの白い渦 群馬県利根実業高校 2年 林 香音
464	うずうずと 春の気配を 待つ君に「急かすな」と 言うように降る雨 群馬県利根実業高校 2年 藤井 輝空
465	冬の空瞬く クリスマスの渦 綺麗だな プレゼント開け 楽しみだ 群馬県利根実業高校 2年 木村 尊唯
466	夏の日に うずまきソフト 食べたらね あたまのなかも すずしいな 群馬県利根実業高校 2年 加藤 幸平
467	テストでは必ずいつも渦になるよな科目があるよ 群馬県利根実業高校 2年 中村 和心
468	思い出すあの子の言葉渦のよう今も心をひっかきまわす 群馬県利根実業高校 2年 齋藤 美来

481	480	479	478	477	476	475	474	473	472	471	470	469
帰り際 風の渦まき 夕暮れに 朧月夜と 一輪の花	これからは 成人として 歩んでいく 大人の世界は 渦でいっぱい	渦の音耳を澄ませば心の声揺れる感情波間に消えて	渦の中 迷いの影が揺れ動く 静かな水画 心の声を	社会人一人暮らしのアパートで社会の渦に飲まれたただ泣く	洗濯機ひたすら眺め一時間虚無の渦へとただ飲まれてく	渦を見て自然感じる空の下ぐるぐるしてるみんな楽しい	栓を抜き水が減ってく最後には渦まき消える風呂の水抜き	濃いスープレメンのうえには渦をまくそいつはきつとめんまであろう	沖縄の 今はきれいな 海の水 戦渦の大火 赤い荒磯	白い海泡たつ白波渦をまくきれいな波に夏を感じる	渦を巻き ニュースと共にやってくる梅雨明け頃の特大災害	宇宙には いろんな星が 煌めいた 銀河の上の 星の渦巻き
群馬県利根実業高校 3年 片山 悠聖	群馬県利根実業高校 3年 小林 要	群馬県利根実業高校 3年 宮田 朝幹	群馬県利根実業高校 3年 小室 琥太郎	群馬県利根実業高校 3年 番場 勇心	群馬県利根実業高校 3年 番場 勇心	群馬県利根実業高校 3年 田村 凌駕	群馬県利根実業高校 3年 大塚 蓮	群馬県利根実業高校 3年 大塚 蓮	群馬県利根実業高校 2年 大竹 芙由美	群馬県利根実業高校 2年 今井 夢来	群馬県利根実業高校 2年 飯塚 理穂	群馬県利根実業高校 2年 安藤 紅葉
494	493	492	491	490	489	488	487	486	485	484	483	482
海の渦それに加わる空の青聞こえてくるのはカメメの音色	橋わたり 下を見れば 渦巻きに 飲み込まれる人 悲しみに暮れ	濃厚な スープに浮かぶは 彩りと 愛情加える 赤白の渦	渦巻く水 心の奥に 渦を描く 思いの波が もぐとぐる	風立てば 渦を描きて 砂の上 時を忘れて 跡も残さず	水面には 君への想いが 渦まいて 消えてはまたも 広がりゆけり	疲れゆく 私の心身 いやすため 流れ渦まく 川を見る	夜更けて 山に渦巻く 命の音 千代に八千代に 光り輝く	恋の渦好きなき持ちが止まらぬがただ僕だけの思いちがい	肌寒く木枯らしなびく僕の袖季節の渦に残されるかな	届かない悪意の渦に阻まれてあの日望んだ夢のその先	悩み事 一難去って また一難 人生常に 悩みの渦だ	僕の罪 あの日を想い 涙ぐむ 感情の渦に 流されるまま
群馬県利根実業高校 3年 星野 栞佑	群馬県利根実業高校 3年 吉野 壮	群馬県利根実業高校 3年 吉野 壮	群馬県利根実業高校 3年 星野 瑚虎	群馬県利根実業高校 3年 角田 頌泰	群馬県利根実業高校 3年 角田 頌泰	群馬県利根実業高校 3年 笛木 琉聖	群馬県利根実業高校 3年 小山 創太	群馬県利根実業高校 3年 塩野 大志	群馬県利根実業高校 3年 塩野 大志	群馬県利根実業高校 3年 鈴木 智裕	群馬県利根実業高校 3年 金井 陽生	群馬県利根実業高校 3年 片山 悠聖

495	帰り道	木の葉の渦が舞い上がり	ふと山見ると秋の夕暮れ	群馬県利根実業高校	3年	会津 歩華
496	若き頃	夏場に池へ	遊ぶれば 池に浮かんだ 渦を永久に見	群馬県利根実業高校	3年	上岡 拓未
497	渦の中	コロナもいつか	去りゆくと 信じて見上げる 青い空かな	群馬県利根実業高校	3年	赤崎 希
498	うずうずと	してる合間に	置いてがれ 田舎の夜は とてもこわかった	群馬県利根実業高校	3年	赤崎 希
499	秋風が	さむい季節に	食べるのは とてもおいしい 渦まきソフト	群馬県利根実業高校	3年	高橋 怜花
500	勉強が	難かしすぎて	わからない 頭の中が渦まきソフト	群馬県利根実業高校	3年	高橋 怜花
501	渦巻く水	葉がひとつ消え	静けさよ 秋の終わりに 思い出も流れ	群馬県利根実業高校	3年	諸星 愛瞳
502	渦の中	心もぐるぐる	迷い道 ふとした瞬間 光が射す	群馬県利根実業高校	3年	諸星 愛瞳
503	夏の空	見上げてみれば	晴れている 雲が渦巻き 連なっている	群馬県利根実業高校	3年	小林 歩輝
504	つむじ風	枯れ葉と共に	くるくると 渦巻くように どこかへ消える	群馬県利根実業高校	3年	小林 歩輝
505	今年の夏	渦まく台風	接近し のんびり通過し 去ってゆく	群馬県利根実業高校	3年	井上 夏奏
506	雨多い	夜の道草に	住んでいる 渦まくかたちの デンデンムシ	群馬県利根実業高校	3年	井上 夏奏
507	渦の中自分の将来浮かばずに	頭抱える今日このごろ		群馬県利根実業高校	3年	大竹 莉緒
508	渦潮や取り巻く姿は力強い	私の悩みも吸い取ってくれ		群馬県利根実業高校	3年	大竹 莉緒
509	コロナ渦で	食べた分だけ	肥えていく 食べ物につきみ ひとつもないよ	群馬県利根実業高校	3年	峰川 柑奈
510	渦を巻く	うどんがおいしい	この季節 白いうどんに 月を乗つけて	群馬県利根実業高校	3年	峰川 柑奈
511	空を見る	渦巻き雲が	せまってる 雷鳴響く 運命の時	群馬県利根実業高校	3年	宮川 愛永
512	コロナ渦で	行事が全て	なくなった 輝く記憶も なにもない	群馬県利根実業高校	3年	千明 慧実
513	コロナ渦で	マスク依存に	なっちゃった 息が苦しい マスク生活	群馬県利根実業高校	3年	千明 慧実
514	コロナ渦で	得たもの偉大	親友と 泣きも笑いも 良い思い出だ	群馬県利根実業高校	3年	中島 陽依
515	勉強は	頭つかれる	毎日ね 知識渦まく 私の頭で	群馬県利根実業高校	3年	中島 陽依
516	青年期	湯船につかり	渦作る 懐かしいなと 微笑む私	群馬県利根実業高校	3年	花茂 衣舞姫
517	桜落ち	渦の風の中	まっている 時間の流れ 春のおとずれ	群馬県利根実業高校	3年	飯村 杏花
518	渦の中	ひらひらとまう	秋の葉が 時の流れを 知らせている	群馬県利根実業高校	3年	飯村 杏花
519	高校生	学生最後の	友達は 一生ものだと 心渦巻く	群馬県利根実業高校	3年	工藤 翠優
520	渦巻いた	学生最後の	恋心 叶えと思えど 思い届かず	群馬県利根実業高校	3年	工藤 翠優

533	青春を 楽しめないで 過ぎす日々 コロナの渦に 押し潰された	群馬県利根実業高校 3年 萩原 来人
532	渦卷いた雲を眺めてふと思う私も空で自由に舞いたい	群馬県利根実業高校 3年 高橋 心音
531	宿題が 机の上に 積んである 鳴門の渦に ほうりこみたい	群馬県利根実業高校 3年 星 野 楓
530	緊張と 渦まぐ心 おさえこみ がんばり挑む 大きな試験	群馬県利根実業高校 3年 阿 部 栳
529	コロナ渦が 明けてみたけど 変わらない いつも検温 めんどくさいなあ	群馬県利根実業高校 3年 野村 彩心
528	コロナ渦で 長い休みを 手に入れた 日の出とともに 夢の世界へ	群馬県利根実業高校 3年 野村 彩心
527	渦まいたうどんを見ても動けずにこれが衰弱年を重ねて	群馬県利根実業高校 3年 藤 島 美苑
526	渦の中光求めて歩いてても終わりもしない長き人の道	群馬県利根実業高校 3年 藤 島 美苑
525	光ない未来のことを想像し 渦にのまれて消えさりたい	群馬県利根実業高校 3年 郷 原 琴
524	渦のように進路悩んだあのときが もうひとつきもすぎてしまった	群馬県利根実業高校 3年 郷 原 琴
523	渦を巻く 水の音聞き 立ち止まる いろいろ記憶が 思い出される	群馬県利根実業高校 3年 高橋 和真
522	入浴中 水面見ると 渦を巻く それはまるで 鳴門のようだ	群馬県利根実業高校 3年 高橋 和真
521	お風呂の湯 素手で仰げば 渦を巻く それを見て想う 過去の楽しみ	群馬県利根実業高校 3年 青柳 博大
534	雨上がり 夏の終わりの 川の中 渦の中へと 子供飛び込む	群馬県利根実業高校 3年 萩原 来人
535	砂ぼこり 風にさらわれ 渦となり どこかへ消えた その砂の渦	群馬県利根実業高校 3年 金子 みさと
536	コーヒーを 混ぜるとできる この渦を じっと見つめる 苦い思い出	群馬県利根実業高校 3年 金子 みさと
537	渦巻く日々 希望の光 見え隠れ 共に歩もう 新たな道を	群馬県利根実業高校 3年 栗原 さくら
538	涼しさに 渦巻く水の 音を聞き 心の中に 静けさ宿る	群馬県利根実業高校 3年 栗原 さくら
539	将来の 夢が決まらず 危機せまる 心模様は 渦模様かな	群馬県利根実業高校 3年 牛口 南海
540	渦潮よ 過去も未来も 飲めたなら どうか私も 連れてってくれ	群馬県利根実業高校 3年 牛口 南海
541	秋の夜 渦巻く雲に 月が隠れ 静けさの中 響く虫の音	群馬県利根実業高校 3年 石坂 沙羅
542	コロナ渦で 何もできない 数年間 やっと解放 幸せすぎる	群馬県利根実業高校 3年 桑原 幸来
543	春の風 花びら散って 花の渦 舞い上がっていく 春の花々	群馬県利根実業高校 3年 猪熊 琴音
544	夏休み 家族旅行 淡路島 鳴門海峡 渦潮きれい	群馬県利根実業高校 3年 漁 佳穂菜
545	空の上 渦が巻いてる 曇り空 後もう少しで 雨が降りそう	群馬県利根実業高校 3年 平形 杏里
546	海の中 渦が巻いてる 不謹慎 巨大魚発見 かもしれない	群馬県利根実業高校 3年 平形 杏里

559	渦桜 散りゆく花びら 儚くて 足跡つける 桜道 群馬県利根実業高校 3年 星野 叶実	547	渦をまく 私の指で 揺れるトンボ ふらふら飛び立つ 日のしずむ空 群馬県利根実業高校 3年 加藤 真優
558	晴れた日に 虫の音響く 静かな夜 望遠鏡と 渦状星雲 群馬県利根実業高校 3年 関上 栞奈	548	夏休み 部活終りの 暑い日に 食べたくなるのは 渦まきソフト 群馬県利根実業高校 3年 石田 向日葵
557	考える頭の中は渦のようテスト期間は脳活性化だ 群馬県利根実業高校 3年 高橋 愛音夢	549	窓開けて 外の景色は 銀世界 渦巻いている 愉楽の心 群馬県利根実業高校 3年 小林 ゆう
556	浴槽の 水をぬくとき 渦まきを 見ている時は 時を忘れる 群馬県利根実業高校 3年 金子 智紀	550	散りゆく淡紅色の渦桜 永遠に離れぬ君との思い出 群馬県利根実業高校 3年 狩野 權
555	渦を巻く 貝に耳を すませると 聞こえてくるよ 旅の思い出 群馬県利根実業高校 3年 尾池 みのり	551	渦の中 迷いながらも 進む道 未来の光 信じて進む 群馬県利根実業高校 3年 金子 陽
554	朝起きて 姉の頭に 渦巻きが 家族みんなで 大爆笑 群馬県利根実業高校 3年 山城 柚実	552	雨ふれる揺れる紫陽花その上に渦巻き模様カタツムリかな 群馬県利根実業高校 3年 三浦 真珠
553	渦桜ひらひらと舞い花吹雪青空映える桃色花火 群馬県利根実業高校 3年 山田 竣平	553	渦桜ひらひらと舞い花吹雪青空映える桃色花火 群馬県利根実業高校 3年 山田 竣平
572	雪が舞う つむじ風の中 渦を巻き 幼い姉弟 外へとび出す 群馬県利根実業高校 3年 岡田 琴音	560	秋の風渦巻く落ち葉いろとりどりで美しきかな 群馬県利根実業高校 3年 須田 里桜
571	雨の中 渦巻き模様 葉の上に しずくみたいに およいでいる 群馬県利根実業高校 3年 井上 杏菜	561	渦を描く指を見つめて目を回す 大きな瞳 夕焼けの庭 群馬県利根実業高校 3年 本多 心乃美
570	渦の中思いがぐるぐる回り続け出口を探す心の旅 群馬県利根実業高校 3年 加藤 周斗	562	帰り道 渦巻くへびに 出くわして 私は驚き 腰を抜かした 群馬県利根実業高校 3年 今井 花音
569	裏社会 人の欲望 渦巻いて 生き残るには 戦うのみだ 群馬県利根実業高校 3年 片岡 柊哉	563	公園で 渦巻く落葉 気持ちいい 心穏やか 秋の夕暮れ 群馬県利根実業高校 3年 角田 莉夢
568	駄菓子屋でつい目に入る渦まき模様食べ切れないと諦め帰宅 群馬県利根実業高校 3年 平澤 日華	564	暑すぎて渦巻きソフトが溶け出したくずれてしまい少し悲しい 群馬県利根実業高校 3年 藤井 穂夏
567	数学の問題解けずにらめっこ 知識の波で 渦潮のよう 群馬県利根実業高校 3年 角田 優愛	565	風が吹く 揺れる紅葉 落ちた葉は 渦をまきながら 秋を知らせる 群馬県利根実業高校 3年 飯森 媛
566	赤とんぼ捕まえようと追いかけて 渦をえがいて目をまわす 群馬県利根実業高校 3年 角田 優愛	566	赤とんぼ捕まえようと追いかけて 渦をえがいて目をまわす 群馬県利根実業高校 3年 角田 優愛

585	大通り 渦にのまれず 誰よりも 凜とした子を 追えぬまま 群馬県利根実業高校 3年 平井 晴登
584	この渦には君への気持ちがこの渦では全然埋まらなくどこに埋めよう 群馬県利根実業高校 3年 福原 聖翔
583	働き手社会の渦に飲み込まれ日々の生活頑張ってみる 群馬県利根実業高校 3年 関 琉翔
582	夕日時落ち葉の道が渦を巻き眺めて観るのたまらず好きだ 群馬県利根実業高校 3年 関 琉翔
581	良き天気 心安らか 朝の空 渦巻く落ち葉 秋の風を知る 群馬県利根実業高校 3年 小林 蓮
580	水彩画 色と色とが 渦を巻く 水と絵具の 流るる方へ 群馬県利根実業高校 3年 小林 蓮
579	秋晴や紅葉始まる秋の山道行く私と人々の渦 群馬県利根実業高校 3年 星野 叶空
578	鳴門渦 潮の流れに 飲まれて消えてゆく 君の声が今も 耳に残るよう 群馬県利根実業高校 3年 小野 龍栄
577	渦巻きの かとりせんこう ただよって なごりが残る 部屋全体 群馬県利根実業高校 3年 水落 亮太朗
576	カフェオレ 渦巻きけして のみつづけ ときはながれて だんそうもよう 群馬県利根実業高校 3年 水落 亮太朗
575	君を見て 渦巻く気持ち 考える それが恋だと 気づかぬ私 群馬県利根実業高校 3年 井熊 蒼依
574	お正月きいろが映える渦巻は だて巻きなのかそうなのかなあ 群馬県利根実業高校 3年 中島 希凌
573	春日和 飛んで渦巻く 花びらに 乗せた想い出 青い春 群馬県利根実業高校 3年 大島 遼華
586	落ちた葉が川に流され赤くなる渦にのまれて行方知らず 群馬県利根実業高校 3年 鶴淵 永真
587	肌寒く人肌恋しいこの季節人の渦にまぎれたい 群馬県利根実業高校 3年 目崎 真飛
588	肌寒く葉っぱが枯れているこの季節さんまの渦を泳ぎたい 群馬県利根実業高校 3年 目崎 真飛
589	秋風で落ち葉が渦をまいている木のころもがえ秋のおとずれ 群馬県利根実業高校 3年 小澤 聖司
590	風呂の水栓抜き回るぐると渦まき消える風呂の水 群馬県利根実業高校 3年 高橋 涼
591	ついに来た鳴門の様に渦を巻く台風十号過去最強 群馬県利根実業高校 1年 安濃 煌雅
592	渦潮は自然の恐怖でもあるがじっくり見るとうつくしい 群馬県利根実業高校 1年 安濃 煌雅
593	ひろいうみひろがるあおとうずのおとそれにはけないあおぞらとり 群馬県利根実業高校 1年 石井 千聖
594	とねがわにうずまきみずがすいとみなみにながれたどりつくうみ 群馬県利根実業高校 1年 石井 千聖
595	友達と 笑いの渦が 巻き起こる くだらないこと 笑う毎日 群馬県利根実業高校 1年 生方 鳳靖
596	渦潮が 起こる動画を 見て思う 生で見たら もっと驚く 群馬県利根実業高校 1年 生方 鳳靖
597	人の渦そんな状況ひそむ悪「うん」とは言えずまつ恐怖 群馬県利根実業高校 1年 須田 莉乙翔
598	花の渦辺り一面いいにおい夜道歩いて不思議な時間 群馬県利根実業高校 1年 須田 莉乙翔

599	だんだんと ちかづくうず きけんかな きをつけよう 台風第1年〇号 群馬県利根商業高校 1年 森本 颯太
600	かかせない うずまくナルト おいしいね ラーメンの脇役 だいかつやく 群馬県利根商業高校 1年 森本 颯太
601	のんびりと のしのし歩く かたつむり 渦が巻かれている ぐるぐるだ 群馬県利根商業高校 1年 奈良井 萌杏
602	水中で ぐるぐる回す マドラーも その中まわる 渦巻きだ 群馬県利根商業高校 1年 奈良井 萌杏
603	夏終わり渦によく似たハリケンが日本初上陸 群馬県利根商業高校 1年 鶴澤 良成
604	選手権千葉県はどこだろう僕の予想は渦間渦洋 群馬県利根商業高校 1年 鶴澤 良成
605	渦の中 心の中に 火を灯し 頑張りながら 今日も過ごす 群馬県利根商業高校 1年 小泉 結愛
606	渦潮を 橋の上から 見ていると 心渦巻く 私の様 群馬県利根商業高校 1年 小泉 結愛
607	夏終わり渦によく似た台風が日本列島初上陸 群馬県利根商業高校 1年 板橋 柊士郎
608	甲子園徳島県はどこだろう僕の予想では鳴門渦潮 群馬県利根商業高校 1年 板橋 柊士郎
609	コロナ渦を一年過ぎてなおつづくおとろえしらず第9波へ 群馬県利根商業高校 1年 安原 悠奈
610	きがめいるのみこまれそう人の渦ありがとうとは魔法の言葉 群馬県利根商業高校 1年 安原 悠奈
611	夏終わり渦によく似た台風が日本列島はつじょうりく 群馬県利根商業高校 1年 山本 瑛道
612	ぬれしいなはなきしこうくばかぴいしかしこまりさぶるろうくらんらる 群馬県利根商業高校 1年 山本 瑛道
613	いやだめだ 欲望渦巻く 夏休み、強い気持ちで 課題に挑む 群馬県利根商業高校 1年 篠原 優
614	野球中 残りの課題を思い出し 頭ぐるぐる渦を巻く 群馬県利根商業高校 1年 篠原 優
615	でかい渦日に日に大きくなってゆくそのため対策やっておこうかな 群馬県利根商業高校 1年 興原 柊
616	ひとつだけ麺のうえに渦があるさいごに食べるおたのしみだね 群馬県利根商業高校 1年 興原 柊
617	渦巻いて 迫る台風 恐ろしく 来ないでくれと スマホに願う 群馬県利根商業高校 1年 上村 美幸
618	バリ五輪 バドル操り 艇進め 人口渦旋に 挑む選手 群馬県利根商業高校 1年 上村 美幸
619	友達と会話をすると笑いの渦が教室で広がっている 群馬県利根商業高校 1年 唐木 湘太郎
620	スポーツの全力プレーまのあたり感動の渦つつまれていく 群馬県利根商業高校 1年 唐木 湘太郎
621	夏が来てあいつの季節がやってきた渦を巻いた大きな目だ 群馬県利根商業高校 1年 岸 吉光
622	ぐるぐると白い渦巻きを積み重ね尻尾をつければアイスクリーム 群馬県利根商業高校 1年 岸 吉光
623	台風が 渦をまいて 近づいて そのたび私 胸おどらせる 群馬県利根商業高校 1年 小坂橋 翔和
624	夏休み 忙しすぎて 渦のよう わたしのあたま ぐるぐるしてる 群馬県利根商業高校 1年 小坂橋 翔和

637	時の渦 ぐるぐる回る ぼんやりと あの日のことは もう忘れたよ 群馬県利根商業高校 1年 菅野 愛徠	636	コロナ渦でマスク生活でも楽しかった一生ものの友情大発見 群馬県利根商業高校 1年 金井 香穂	635	新春都会の空気どこ見てもスーツにカバン人の渦ばかり 群馬県利根商業高校 1年 金井 香穂	634	庭球 相棒と組み数ヶ月 探りながら戦いの渦 群馬県利根商業高校 1年 小野里 悠月	633	コロナ渦を 乗りこえみんな のびのびと 皆の好きなようにくらししている。 群馬県利根商業高校 1年 岡野 溪心	632	夕暮れにお風呂の水が抜ける時渦をまいて消えていく水 群馬県利根商業高校 1年 宇田川 梨乃	631	夏の夜浜辺を歩き海の中渦見て思う昔の思い出 群馬県利根商業高校 1年 宇田川 梨乃	630	渦巻く夜遠い光に目を向けて消えぬ夜空に浮かぶ星達 群馬県利根商業高校 1年 綿貫 友莉亜	629	谷川の渦まわく風に身を寄せてまだ見ぬ未来夢を追わせて 群馬県利根商業高校 1年 綿貫 友莉亜	628	山の中風のふく道川を見て渦まわく水と清められる心 群馬県利根商業高校 1年 馬場 康平	627	渦の中人ごみと夏休みの日友だちと遊ぶ夏のお祭り 群馬県利根商業高校 1年 橋詰 来弥	626	みなかみの なつのあついひ くるときに かぜがあるいて うずをまいてる 群馬県利根商業高校 1年 橋詰 来弥	625	とねがわが ながれていると かぜのよび みずがながれて うずをまいてる 群馬県利根商業高校 1年 橋詰 来弥
650	渦の中で 思いが揺れ 消えぬ夢よ 夜空に浮かぶ 星のようにして 群馬県利根商業高校 1年 村田 夏輝	649	渦巻く思 心の中で 揺れ動いて 静かな夜に 星が瞬いて 群馬県利根商業高校 1年 村田 夏輝	648	夏の日の 変わりゆく空 渡御待たず 響く渦雷 囃子とコラボ 群馬県利根商業高校 1年 増田 弥優	647	今日からは 改めようの 意に反し 集団の渦 巻き込まれてく 群馬県利根商業高校 1年 増田 弥優	646	ある昼に 校庭見ると たつまきだ くるくるまわって とばされそうだ 群馬県利根商業高校 1年 林 美優	645	渦まきに くるくるまわる 川の水 しぜんを感じる いなかの特権 群馬県利根商業高校 1年 羽住 侑起	644	風が強い日には特に立つことが難しくなるまるで渦のよう 群馬県利根商業高校 1年 羽住 侑起	643	雨の日の利根川は渦のように荒れている日がほんとうにある。 群馬県利根商業高校 1年 羽住 侑起	642	海の中渦に入ってすずしいな 群馬県利根商業高校 1年 高橋 直翔	641	あついの渦を食べてあつたかい 群馬県利根商業高校 1年 高橋 直翔	640	渦に惑わされ心揺れてゆく深き闇へ抗うことなく宿命を受け止めて 群馬県利根商業高校 1年 杉崎 悠翔	639	渦巻く刹那の風に揺蕩う心混沌とした日々ただただ舞い散る 群馬県利根商業高校 1年 杉崎 悠翔	638	心には 感情の渦 止むことなく 問いかけながら 明日待てずに 群馬県利根商業高校 1年 菅野 愛徠

663	渦巻く波 思い出す夏の 虫の声 時の流れを 追いかけて続け 群馬県利根商業高校 1年 塩野 大翔
662	渦まき舞い誘う調べ響く未知の旅力強く胸に夢の希望満つ 群馬県利根商業高校 1年 塩谷 歩翔
661	静かなる渦の底に沈む心の声迷い込んだ闇を浄化の光照らす 群馬県利根商業高校 1年 塩谷 歩翔
660	海にでる キャンディーは 白と青 まるで絶景 渦の道 群馬県利根商業高校 1年 佐藤 ころこ
659	暑き日の 渦巻きソフト 夏を感じる 良く考えたら 季節関係なくね？ 群馬県利根商業高校 1年 佐藤 ころこ
658	甲子園、優勝するのは、鳴門渦潮か 群馬県利根商業高校 1年 黒部 瑛心
657	台風は、渦がやたら、やばいかも 群馬県利根商業高校 1年 黒部 瑛心
656	渦巻く夢 消えぬ想いを 抱きしめて 静かな夜に 心をよせる 群馬県利根商業高校 1年 鹿野 莉来
655	渦のように 絡まる日々に 笑顔深し 小さな幸せ 見つけて歩む 群馬県利根商業高校 1年 鹿野 莉来
654	渦桜 きれいに色づく 春の花 優しくつつむ 淡紅色で 群馬県利根商業高校 1年 阿部 未来
653	夏の海 渦が激しく 踊ってる まるでそれは 模様のようだ 群馬県利根商業高校 1年 阿部 未来
652	コロナの渦 みんなの青春 奪い去り 人とのつながり 薄れゆく 群馬県利根商業高校 1年 茂木 望
651	社会の渦 のまれもまれ ボロボロの 心と体 大きな負担 群馬県利根商業高校 1年 茂木 望
664	渦巻く風 心の中にも 風がくる 静かな時を 待つしかなくて 群馬県利根商業高校 1年 塩野 大翔
665	雪解けで水量がまし滝には渦がまう 群馬県利根商業高校 1年 鈴木 花菜
666	夏の昼 笑いひしめく 観光地 渦まきアイス 笑顔こぼれる 群馬県利根商業高校 1年 武井 竣汰
667	スポーツに 青春注ぐ 夏の日に 渦巻く水を ジャグの中へ 群馬県利根商業高校 1年 武井 竣汰
668	渦巻いた 水面はとても きれいだな 僕の心は おどつていくよ 群馬県利根商業高校 1年 武井 竣汰
669	渦巻きで 落ち葉舞う くるくると 僕も同じく 舞っていきそう 群馬県利根商業高校 1年 勅使河原 壮哉
670	葉が落ちて 渦巻く川に 踊り落ち 季節をめぐる 旅へ飛び出す 群馬県利根商業高校 1年 深代 汐梨
671	渦巻きや 流れに身を任す 水を見て しばらくずゆく 求める場所へと 群馬県利根商業高校 1年 深代 汐梨
672	心の淵 渦巻く想いは 止まぬまま 吹き割れの滝 流れゆく 群馬県利根商業高校 1年 星野 駆音
673	秋空に 舞う落ち葉たち 渦を描きながら 静かに眠る 群馬県利根商業高校 1年 星野 駆音
674	渦まきソフト暑い日に食べるとおいしいなガリガリ君も食べたいな。 群馬県利根商業高校 1年 本多 煌空
675	渦の波 浜辺に寄せて 散る泡は 夏の終りを 告げる静けさ 群馬県利根商業高校 1年 本多 煌空
676	渦の中 泳ぎ疲れて ふと見上げ 空の蒼さに 夏風通る 群馬県利根商業高校 1年 増田 結衣

689	暑すぎる 夏に食べたい あ の形 渦まき形の ソフト クリーム 群馬県利根商業高校 1年 遠橋 瑛琉	688	スーパ-の 安い品物 買 い求め 遠くの村から 車 渦巻く 群馬県利根商業高校 1年 佐藤 瑠南	687	世界中 戦争の雲 渦巻 いて 平和を願う 子供 たちよ 群馬県利根商業高校 1年 佐藤 瑠南	686	目がまわる 不思議な模 様 渦模様 群馬県利根商業高校 1年 石坂 有人	685	渦の中買い踊る感情揺 れ動く心の奥に渦巻く痛 み 群馬県利根商業高校 1年 荒井 陽	684	渦巻きの行方見ながら ため息の祖父の気持ちは 林檎を思う 群馬県利根商業高校 1年 吉永 玲斐	683	秋の日の公園歩き葉の 渦に冬が来るかと寂しく 思う 群馬県利根商業高校 1年 吉永 玲斐	682	渦の中思いが交わる世 の静心の声をそっとき いてる 群馬県利根商業高校 1年 町田 唯愛	681	夏祭り人と暑さの渦に 巻き込まれる 群馬県利根商業高校 1年 町田 唯愛	680	渦巻いた 水面に浮かぶ 夏クラゲ 儚き命 光を 集め 群馬県利根商業高校 1年 増田 結衣	679	渦巻きて 海の青さに 染 まりゆく 夏の夕暮れ 消 えゆく陽光 群馬県利根商業高校 1年 増田 結衣	678	渦の波 浜辺に寄せて 散 る泡は 夏の終りを 告 げる静けさ 群馬県利根商業高校 1年 増田 結衣	677	夏の夜 渦巻く風に 飛び こめば 蛍の光 舞いち るごとし 群馬県利根商業高校 1年 増田 結衣
702	ふきあれる美しい渦じ つくり見て心うばわれ小 さなあくび 群馬県利根商業高校 1年 星野 隼人	701	台風の 渦巻の向きは 北 が左 南は右に 渦を巻 く 群馬県利根商業高校 1年 平田 真秀	700	風に舞う 桜の花びら 渦 巻いて 春の思い出 入 学式 群馬県利根商業高校 1年 平田 真秀	699	渦がでた大きい渦となる のかここにきたらあぶな げないな 群馬県利根商業高校 1年 原田 恭輔	698	暑い夏外に出たら大雨 が大雨となり台風となる 群馬県利根商業高校 1年 原田 恭輔	697	甲子園 決勝戦で好ブレ ー観客席から渦がわく。 群馬県利根商業高校 1年 橋場 悠人	696	渦の中 私の心 ひきこま れ そっとだれかに ひき とめられて 群馬県利根商業高校 1年 中島 朱星	695	世の中が 渦まきながら すぎていく ここで私も 立ちどまらずに 群馬県利根商業高校 1年 中島 朱星	694	暑い夏 やる気が出ない そんな中 渦がまく風 助 かったかも 群馬県利根商業高校 1年 長澤 夢李	693	山々の渦巻く霧に霞む道 ひとしづくの雨を迎える 朝よ 群馬県利根商業高校 1年 高山 結衣	692	みなかみの渦巻く川の音 を聞き 静けさにひととき やすらぎを得る 群馬県利根商業高校 1年 高山 結衣	691	渦の中 思いが絡み 消え ぬ夢 静かな夜に 星が瞬 いて 群馬県利根商業高校 1年 澁谷 友羅	690	渦の中で 思いが交わる 静 かな夜 心の波紋 広がる 星空 群馬県利根商業高校 1年 澁谷 友羅

715	渦を巻く 世間の言葉に 流されて 持たず言えない 自分の意見 群馬県利根商業高校 2年 萩原 汰河
714	夏の渦心の迷いも海に溶け涼しい風が頬を撫でゆく 群馬県利根商業高校 2年 戸丸 仁
713	旋る渦何を目指して 廻るのか理解も出来ぬ 君の心 群馬県利根商業高校 2年 川嶋 結翔
712	渦の中を覗いても未知という 運命や未来との類似点 群馬県利根商業高校 2年 川嶋 結翔
711	渦中で運命と向き合う迷いながら自分を見つめて一歩ずつ進む 群馬県利根商業高校 2年 佐藤 寧々花
710	風が吹き 渦のように 砂が舞う 群馬一番のからつかぜ 群馬県利根商業高校 2年 阿部 晃大
709	渦巻いて 川の流れが 速くなる 木々の葉も 共に流れる 群馬県利根商業高校 2年 阿部 晃大
708	夏祭り 光る屋台と 人の渦 目の前通る 神輿と山車 群馬県利根商業高校 1年 山村 風真
707	青空に 響く蟬の音 アブラゼミ 流れる木に 渦巻く蛇 群馬県利根商業高校 1年 山村 風真
706	台風 渦が迫り来 空暗く風の音だけ 耳に残りぬ 群馬県利根商業高校 1年 増田 琥太郎
705	夏祭り 人の渦巻く 夜の街浴衣姿で 涼しさ求む 群馬県利根商業高校 1年 増田 琥太郎
704	渦巻くよ セミの声すら 飲み込んで 夏の夕立 街を洗うよ 群馬県利根商業高校 1年 堀口 竣太
703	大海にただちに光る青い水とても大きい渦をなすなり 群馬県利根商業高校 1年 星野 隼人
716	川の水 大きな渦を つくって 小さな枯葉を 引きづりこむ 群馬県利根商業高校 2年 目崎 海輝
717	海の水 小さな渦を つくって 廻りながら 引きずりこまれる 群馬県利根商業高校 2年 荒井 大空
718	夏の波 渦を描いて 友と笑う 海に消える 楽しい時間 群馬県利根商業高校 2年 倉澤 凜王
719	夕すずみ蚊取り線香火をつけて燃えつきて灰渦こわれそう 群馬県利根商業高校 2年 星野 芽生
720	幼な子の頭をなでてよく見れば渦まき目ふたつありけり 群馬県利根商業高校 2年 星野 芽生
721	思春期の 心の中で 渦をまき この気持ちだけは 忘れずにいたい 群馬県利根商業高校 2年 伊與久 洸太
722	夏休み 課題せねばと 焦る日に 揺れゆく心 渦まき僕が 群馬県利根商業高校 2年 伊與久 洸太
723	たくさんの人の中赤い鼻したお天狗さんまた人の渦創り出す 群馬県利根商業高校 2年 星野 彩虹
724	海水浴流れるプール渦を巻く冷たく気持ちいい夏の訪れ 群馬県利根商業高校 2年 金子 雅
725	渦のように過ぎ去る日々に悲しさを持つのではなく前へ進むべき 群馬県利根商業高校 2年 藤井 結月
726	台風の日 渦を巻きながら前進し 人々は警戒する 群馬県利根商業高校 2年 阿部 栞奈
727	夏休み長いようで短くて渦のように目まぐるしい日々 群馬県利根商業高校 2年 田中 里歩
728	扇風機高速回転渦みたく暑さを凌ぐ必須アイテム 群馬県利根商業高校 2年 田中 里歩

729	台風が大きくなって近づいて私の心は雨模様	群馬県利根商業高校	2年	真庭	あいく
730	排水溝ぐるぐる渦が回ってるこの水たちはどこへ行くかな	群馬県利根商業高校	2年	真庭	あいく
731	人混みの渦にまみれて八月の暑さ感じて汗をかきたり	群馬県利根商業高校	2年	福島	大翔
732	雨が降り気分はどよめく低気圧家から出れない台風感して	群馬県利根商業高校	2年	福島	大翔
733	ゆらゆらと稲穂を揺らす強い風渦巻く雲の影響かな	群馬県利根商業高校	2年	富澤	栞菜
734	コロナ禍の「渦」を「渦」と読み間違えた人がたくさんいたよね2年02年0	群馬県利根商業高校	2年	戸丸	ななか
735	海風に舞う渦の中悠々と泳ぐ魚たちかな	群馬県利根商業高校	2年	戸丸	ななか
736	元号も、お札も変わる、この令和。時代の流れが、渦を描く	群馬県利根商業高校	2年	大澤	奈美
737	水たまり 雨降るたびに 渦を巻く 小さな世界に 広がる波紋	群馬県利根商業高校	2年	亀山	遙誠
738	風が吹き 葉っぱがくるくる 渦を描く 道の片隅 秋のいたずら	群馬県利根商業高校	2年	亀山	遙誠
739	宿題が机の上にたまっている鳴門の渦に投げ捨てたいよ	群馬県利根商業高校	2年	狩野	隆次
740	宿題が頭の中をぐるぐると思い出すのは鳴門過潮	群馬県利根商業高校	2年	狩野	隆次
741	渦の音 響き渡るは 生命の 躍動とともに 響きあう命	群馬県利根商業高校	2年	須田	ひなの
742	人生は 何が起こるか 分からない なにも分からない 渦のよう	群馬県利根商業高校	2年	星	瑠綺愛
743	帰省して人混むすがた渦みたい瞬きしてもまた渦だ	群馬県利根商業高校	2年	若林	怜桜
744	部活して宿題した夏休み渦に入って過ごしてた	群馬県利根商業高校	2年	若林	怜桜
745	雨が降り水たまりに渦ができそれ見た子供が喜んでる	群馬県利根商業高校	2年	清水	愛輝
746	恋心渦巻く思いに惹かれてる色んな思い出蘇ってくる	群馬県利根商業高校	2年	清水	愛輝
747	雲の渦 飲み込まれるは 私の目 何を捉えた 未だ分からず	群馬県利根商業高校	2年	加藤	侑弥
748	渦巻きよ 秋を巻き込む 傲慢さ 人の心も 連れ出してゆく	群馬県利根商業高校	2年	加藤	侑弥
749	季節渦 葉が落ちてまた 移りゆく 私的心 また惹かれ合う	群馬県利根商業高校	2年	加藤	侑弥
750	渦の強風悲しむ君の心かな	群馬県利根商業高校	2年	井上	実咲
751	渦煙苦しむ蚊を見て一安心	群馬県利根商業高校	2年	井上	実咲
752	渦の中 流れに逆らい 舞い上がる 静寂の先に 見える光よ	群馬県利根商業高校	2年	星野	好香
753	渦を描く 風が運びし 葉の行方 迷いながらも 辿り着く場所	群馬県利根商業高校	2年	星野	好香
754	海を訪れ渦が私を惹き込む夏の日と共に	群馬県利根商業高校	2年	木内	空美

767	暑い日の冷たい川にいる魚渦に流され大変そうだ 群馬県利根商業高校 2年 佐藤 廉侍	766	狂おしく 深く落ち入る 海の道 乱れた心 逃さない 群馬県利根商業高校 2年 唐沢 生翔	765	エメラルド 宝石の海 渦を巻く 白く泡立ち 光って見える 群馬県利根商業高校 2年 唐沢 生翔	764	腹が減りラーメン食べる私たち渦巻きつけよ追加のナルト 群馬県利根商業高校 2年 羽生田 稜	763	海の渦見つめるほどに心まで引き込まれゆく静かな夜よ 群馬県利根商業高校 2年 笠原 康平	762	トイレの水 流した時にできる あの渦が 海みたいに見えてきて 不思議な感覚になる 群馬県利根商業高校 2年 長沼 愛琉	761	体育祭 渦の中心になって 仕事をした 大変さ難しさを いつまでも忘れない 群馬県利根商業高校 2年 長沼 愛琉	760	靴を洗って洗面台に渦ができ水と汚れが流れてく 群馬県利根商業高校 2年 相馬 皇聖	759	短歌書き単語言葉が頭の中渦をまく 群馬県利根商業高校 2年 後藤 大翔	758	水の中でまわる渦がうつくしい 群馬県利根商業高校 2年 細田 蓮	757	渦が回るワクワクする遊びの中 群馬県利根商業高校 2年 細田 蓮	756	夏の空響く虫の音踊る雲目を閉じ巡る渦巻く思い出 群馬県利根商業高校 2年 田原 葵	755	空見上げ佇む雲と鳴く蝉の風情を感じ渦巻く感情 群馬県利根商業高校 2年 田原 葵
780	渦をまく 台風が目が ランニング ゆっくりはしる こどもみたいに 群馬県利根商業高校 2年 坂本 孝信	779	夏くれば南にできるデカイ渦自然の恵暴風と雨 群馬県利根商業高校 2年 杉木 悠吏	778	どこまでも広がっている大宇宙先の見えない真つ暗な渦 群馬県利根商業高校 2年 杉木 悠吏	777	夏の空白球高く舞いあがる回る走者は渦のようかな 群馬県利根商業高校 2年 佐藤 剛	776	夏の夜枕元での君の声つのる想いは渦のようかな 群馬県利根商業高校 2年 佐藤 剛	775	台風が渦を巻いているあぶないな防災用具しつかり買おう 群馬県利根商業高校 2年 金古 碧夢	774	部活動みんなの気持ち渦をまくみなぎる闘志全部むき出し 群馬県利根商業高校 2年 金古 碧夢	773	勉強の渦に飲まれ迷い込む答えの先に見える夢と希望 群馬県利根商業高校 2年 高橋 楓禾	772	友達と流れる時間渦のよう多くの思い出心の中に 群馬県利根商業高校 2年 高橋 楓禾	771	栓を抜き ついてしまおう お風呂の渦 無くなるのは 一瞬だ 群馬県利根商業高校 2年 小林 晃二郎	770	ドアが開き流れるようにすいこまれ改札すぎて感じる匂い 群馬県利根商業高校 2年 佐藤 廉侍	769	朝一の淹れたコーヒー飲む前のまぜた水面渦のよう 群馬県利根商業高校 2年 佐藤 廉侍	768	サウナ出て冷たい風を浴びてるとなんだかこころが落ち着いてくる 群馬県利根商業高校 2年 佐藤 廉侍

793	雨の中熱気の渦に包まれる神輿担いでストレス発散	群馬県利根商業高校	3年	片野華
792	夏の夜歓喜の渦に包まれるペンライト光る東京ドーム	群馬県利根商業高校	3年	片野華
791	外に出てホットココアをマドラーで混ぜてできる渦見つめてる夜	群馬県利根商業高校	3年	尾竹美笛
790	口喧嘩止めに入った友人を渦に巻き込みより炎上	群馬県利根商業高校	3年	尾竹美笛
789	言葉とは頭の中で渦巻いて心のモヤを増やしてばかり	群馬県利根商業高校	3年	石田倫斗
788	台風が来る度いつも渦巻いて海の白波逃げる小魚	群馬県利根商業高校	3年	石田倫斗
787	渦の中 巡る想いは 尽きぬとも 心の中に 消えぬ思い出	群馬県利根商業高校	3年	飯沼寛太
786	渦巻きて 時の流れに 身を任せ まわる想いは 青春の味	群馬県利根商業高校	3年	飯沼寛太
785	渦があり正月に食うだてまきとにているなからをかぶったカタツムリは	群馬県利根商業高校	2年	高橋桜加
784	妹が運動会の競技でね頑張っていた元氣な渦潮	群馬県利根商業高校	2年	高橋桜加
783	夏終わり寂しく渦巻く台風よ明日の私の心も晴らせ	群馬県利根商業高校	2年	水村孔亮
782	汗をかきスイッチつける扇風機空気の渦にのみ込まれるのみ	群馬県利根商業高校	2年	水村孔亮
781	渦をまき 捕まえたくなる オニヤンマ あげてよろこぶ	群馬県利根商業高校	2年	福田悠人
794	動めく渦の 先に一つの光 困難ありて 希望となりうる 光に向けて前進	群馬県利根商業高校	3年	金古竜祈
795	自然界の 大きな力 海の中の渦 渦のように大きく 助け合いの輪	群馬県利根商業高校	3年	金古竜祈
796	渦なして 水練している 酒の友 今夜の酒は 幸甚の至り	群馬県利根商業高校	3年	北野龍星
797	大渦の 野分の中心 静かなり 時は流れて 嵐の再来	群馬県利根商業高校	3年	北野龍星
798	渦巻きの波にさらわれ夢の中流されもまれ現実の朝	群馬県利根商業高校	3年	木村陽輝
799	渦の中消えゆく声と波の声届かぬ思いをけす黒い海	群馬県利根商業高校	3年	木村陽輝
800	渦を抜けて 新たな世界へ 羽ばたく風に乗り 未来の渦に 希望を込めて	群馬県利根商業高校	3年	倉澤優来
801	なじめない 人生の渦に ふりあげて 位置が違うと 終わりを告げる	群馬県利根商業高校	3年	倉澤優来
802	渦まいて白くとりける ソフトクリーム熱に溶けて消えてゆく	群馬県利根商業高校	3年	小林埜花
803	渦まいた君の頭見ていると 波が立ちゆれている	群馬県利根商業高校	3年	小林埜花
804	渦巻いて 流れに任せ 歩み寄る 強風伴う 夏の風	群馬県利根商業高校	3年	佐藤裕規奈
805	朝早く 鼻をくすぐる 苦い香り ミルク溶け合う 白黒の渦	群馬県利根商業高校	3年	佐藤裕規奈
806	ラーメンの トッピングには 渦巻いた ナルトがマスト お腹ペコペコ	群馬県利根商業高校	3年	塩幡蒼来

819	夏の夜甲子園を見ていると 選手皆が歓喜の渦に	群馬県利根商業高校	3年	林幸之介
818	針を見て近より見ると十二指す 麺と少しの渦巻食べいく	群馬県利根商業高校	3年	林幸之介
817	水飛沫 マイナスイオン 静寂の 渦巻く水の 音心地良し	群馬県利根商業高校	3年	長澤陸斗
816	温暖化 今年の夏は 扇風機 グルグル回る まるで渦の様	群馬県利根商業高校	3年	長澤陸斗
815	青空の雲がながれ 白色の大きな渦が回転している	群馬県利根商業高校	3年	戸丸友結
814	暗闇にうるさく光る通知音 ためらう言葉渦のよう	群馬県利根商業高校	3年	戸丸友結
813	川の渦石がころころ回るだけ何か起こるかちよつと期待す	群馬県利根商業高校	3年	高橋透琉
812	渦の中回り続ける葉のひとつ止まることなく流れて消える	群馬県利根商業高校	3年	高橋透琉
811	風呂の栓 抜きて流るる 風呂の水 ただ呆然と 渦を眺める	群馬県利根商業高校	3年	清水一登
810	雨が降り 広がってゆく 水たまり 車行き交い 渦舞い踊る	群馬県利根商業高校	3年	清水一登
809	渦巻く日みんなの想い急がせる大丈夫だよみんな同じ	群馬県利根商業高校	3年	篠原萌花
808	渦が巻くあの水の色暗い色悲しい時はより暗い色	群馬県利根商業高校	3年	篠原萌花
807	夏来ると あちこち腫れる 買わなくちゃ 渦巻き型の 蚊取線香	群馬県利根商業高校	3年	塩幡蒼来
820	つむじみて 渦巻銀河 思い出す 階段きみの 一段上	群馬県利根商業高校	3年	番馬陽菜
821	かたつむり 甲羅の渦を 目で追って 世界が回った 気がした朝	群馬県利根商業高校	3年	番馬陽菜
822	夏休み 終わり近づき あせりだす 乱れる心 渦の中	群馬県利根商業高校	3年	深代遥斗
823	渦巻く海 光かがやく 夕やけが 今となつては 夏の思い出	群馬県利根商業高校	3年	深代遥斗
824	渦巻いて 己の心 ゆれ動く 交互に重なる 不安と希望	群馬県利根商業高校	3年	藤井翔愛
825	心の底 ひめてる思い 渦を巻く 不安と葛藤 ぐるぐると	群馬県利根商業高校	3年	藤井翔愛
826	眠れない 渦のように ぐるぐると 回る未来を 見つめる夜に	群馬県利根商業高校	3年	藤井翔愛
827	ぐるぐると 心の中で 渦巻いて 友との会話 止まらぬ放課後	群馬県利根商業高校	3年	藤枝さくら
828	貯めた水 流せば水は 渦を巻く それを見ていると とてもむなし	群馬県利根商業高校	3年	藤枝さくら
829	干潮で とても大きな 渦潮が ずっと見てたら 吸われるようだ	群馬県利根商業高校	3年	増田大輝
830	渦桜 舞う花びらに 奪われて 一瞬の美に 心揺らぐよ	群馬県利根商業高校	3年	増田大輝
831	人と人 交わることで 人となり 感謝し感謝され 人の渦なり	群馬県利根商業高校	3年	茂木結麻
832	まきこまれ 人の波に 迷い込み 渦の中に ある気持ちなり	群馬県利根商業高校	3年	諸田秀虎

845	うれしいな台風きたら大事だ学校やすみ最高だよね 群馬県利根商業高校 3年 田部田 冬馬
844	日常に渦巻く不安消えぬまま静けさ求め夜を待ちわび 群馬県利根商業高校 3年 星野 七海
843	渦巻きて心乱され君を追う逃れられぬは恋の運命か 群馬県利根商業高校 3年 星野 七海
842	みなかみの森林の深く先に多くの緑と緑の長い生き物が長く渦巻いて生きている 群馬県利根商業高校 3年 佐藤 伸飛
841	台風の雨のうるささ聞こえたら外が騒がしく思うが少しものがなしい 群馬県利根商業高校 3年 佐藤 伸飛
840	台風で 学校休み 嬉しいな 渦巻いている 危険な風 群馬県利根商業高校 3年 猪俣 久遠
839	青い海 綺麗な海にも 黒い渦 自然の怖さ それもまた一興 群馬県利根商業高校 3年 松本 龍之介
838	寒い日に 飲みたくなる コーヒーを 棒でかき混ぜでできる 温まる渦 群馬県利根商業高校 3年 真庭 陽介
837	梅雨の時 渦巻き迫る その雲は嵐を呼ぶ 暴君の王 群馬県利根商業高校 3年 真庭 陽介
836	渦の道大鳴門橋いつの日か渡り歩いて観光名所 群馬県利根商業高校 3年 横坂 悠真
835	渦巻きが水を捕まえ威力増し風を味方に接近中 群馬県利根商業高校 3年 横坂 悠真
834	雨上がりのしのし歩いた痕跡が 左巻きの渦見たら幸運 群馬県利根商業高校 3年 柳 美紅
833	牧場で食べる渦巻き真っ白い 甘さ広がる牛さんミルク 群馬県利根商業高校 3年 柳 美紅
858	流れゆる 水のごとく 回りだす 魚がおよいで 渦が舞いだす 群馬県利根商業高校 3年 植野 柊
857	渦のような人の流れが見えてしまう今日この頃騒がしいな 群馬県利根商業高校 3年 和田 悠輝
856	谷川岳 渦巻く雲を 切り裂いて 天へと続く 静かな山道 群馬県利根商業高校 3年 小林 百華
855	渦まいて 巡る思いに心揺られて 雪積もる 群馬県利根商業高校 3年 小林 百華
854	雲の渦 恐怖を煽る その向きは 生活崩す 迫る台風 群馬県利根商業高校 3年 萩原 諒
853	冬の朝 とても恋しい コーヒーを 棒でかき混ぜ できるあの渦 群馬県利根商業高校 3年 萩原 諒
852	大変だ急に渦巻く台風だすぐに帰らないと飛ばされちゃう 群馬県利根商業高校 3年 鈴木 暖
851	旅に出た海に行つて船に乗り飲み込む波がまるで渦のようだ 群馬県利根商業高校 3年 鈴木 暖
850	渦巻いた 仲間のつむじ 薄くなる 育毛剤は 効かないだろう 群馬県利根商業高校 3年 下條 睦斗
849	渦をまく ソフトクリーム 美味しいな 食べた瞬間 ほっぺ落ちるよ 群馬県利根商業高校 3年 下條 睦斗
848	川の渦 手を入れたらね ぐるぐると 私の心も どこかに行くよ 群馬県利根商業高校 3年 森田 莉月
847	渦巻くは 心の中の 迷い道 澄んだ空には ただ風が舞う 群馬県利根商業高校 3年 森田 莉月
846	これやばい吸い込まれそう渦の中逃げ切りたいが不可能ばいね 群馬県利根商業高校 3年 田部田 冬馬

871	渦巻きの心の奥に秘めたるは言葉の波と消えぬ思いの果てしなき旅 群馬県利根商業高校 3年 田中 玲
870	渦巻く波心乱れて夜明け前静けさの中夢の中へと 群馬県利根商業高校 3年 田中 玲
869	渦巻い 竜巻が来た 逃げないと 大変な目に あってしまふよ 群馬県利根商業高校 3年 金子 瑠馬
868	渦巻いた 花の花びら 日に当たり 日焼けが目立つ お肌のようだ 群馬県利根商業高校 3年 金子 瑠馬
867	庭先の葉っぱの上にカタツムリ殻はきれいな渦巻いている 群馬県利根商業高校 3年 市川 心温
866	旅先の船の上から見下ろせば広い海原渦巻く波よ 群馬県利根商業高校 3年 市川 心温
865	渦の中思ひは渦巻く消えゆく声静かになる夜に独り占めの夢 群馬県利根商業高校 3年 阿部 光嗣
864	渦巻く夢心の奥に沈みゆく流れの中で見失う自分 群馬県利根商業高校 3年 阿部 光嗣
863	渦を入れ 恋しき夜に 思い出す声 揺れる心は 止まらぬと 忘れぬ夜 群馬県利根商業高校 3年 阿部 梨乃
862	渦を入れ みなかみの川の流れに巻き込まれ 時間の流れも 絶えず流れる 群馬県利根商業高校 3年 阿部 梨乃
861	さわがしい渦の音色響いてる耳を澄ますときれいなメロディ 群馬県利根商業高校 3年 大河原 媛和
860	緑の葉台風のように渦巻いて飛んでいるよ空の下で 群馬県利根商業高校 3年 大河原 媛和
859	渦が舞う 自然とともに 成長し どんな困難 うけながす 群馬県利根商業高校 3年 植野 柊
884	渦見てるとすいこまれてく夢の中なんだか気分がこち良い 群馬県利根商業高校 3年 新井 和義
883	渦の中 時計の針が 動いてる 忙しい毎日 日々かけ回る 群馬県利根商業高校 3年 岡崎 功芽
882	夢の中立ち尽くす僕 みんな踊っている渦のように 群馬県利根商業高校 3年 川上 大河
881	朝起きて光差し込み眩しいな 外を見て渦巻く竜巻 群馬県利根商業高校 3年 川上 大河
880	夏休み 家から出ない日々 伸びた髪が始まりには渦が巻く 群馬県利根商業高校 3年 千田 伊吹
879	夏の虫 渦に吸い付く ものたちは 眠ってしまう 人の手の中 群馬県利根商業高校 3年 山田 真己
878	夕立で 渦巻き流れる 利根の川 群馬県利根商業高校 3年 狩野 花菜
877	風呂の水 栓を抜けば渦ができ 虫巻き込まれ 消えていく 群馬県利根商業高校 3年 狩野 花菜
876	渦に揺れ時は流れる命の音心の奥底渦巻く感情 群馬県利根商業高校 3年 林 良馬
875	渦の底夢と現実交差する揺れる感情交わる思い 群馬県利根商業高校 3年 林 良馬
874	渦見てて 忘れる時間 お腹減る 今日の夜飯 生姜焼きかな 群馬県利根商業高校 3年 岩崎 千尋
873	渦見てて 忘れる時間 お腹減る 今日の夜飯 ハンバーグかな 群馬県利根商業高校 3年 岩崎 千尋
872	渦の中世界の流れ動いてる何もない日常ただ流れている 群馬県利根商業高校 3年 桑原 海世

897	渦の中 流れる意識 気がつけば 時は流れて 朝日が昇る 群馬県利根商業高校 3年 眞下 巧
896	夏の暑さ暑すぎて目が渦になる 群馬県利根商業高校 3年 下田 ひろと
895	夏祭り人の渦に乗り込まれ戻れない 群馬県利根商業高校 3年 下田 ひろと
894	渦の中 魚1年匹 泳いでる 群れとはぐれた かawaiiそうにな 群馬県利根商業高校 3年 吉部 颯士郎
893	ひっそりと煙を立てて身を守る渦巻き模様蚊取線香 群馬県利根商業高校 3年 和田 瑠善
892	本開きページめくり進めていく吸い込まれるほど熱中してる 群馬県利根商業高校 3年 石田 莉花
891	ひさびさに会って見たら別人に時間の流れ恐ろしい 群馬県利根商業高校 3年 石田 莉花
890	荒川に上から下へ川の水形を変えて大きい渦へ 群馬県利根商業高校 3年 関根 蒼太
889	渦の中船が一隻沈んだね何の生き物原因不明 群馬県利根商業高校 3年 木暮 琢己
888	渦の中過去の未来が交わる 群馬県利根商業高校 3年 鈴木 愛梨
887	渦の中思い出が揺れ動く静かなる水面に夢を描く 群馬県利根商業高校 3年 鈴木 愛梨
886	渦巻いて魚が泳ぐ夜の海静かな水が踊ってる 群馬県利根商業高校 3年 林 燈二
885	つめたいな水の中に渦がなる今日からこれは魔法使い 群馬県利根商業高校 3年 新井 和義
898	渦の中 迷いながらも 進む道 どこへ行くのか 水だけが知る 群馬県利根商業高校 3年 眞下 巧
899	私たち人間の生は渦のよう輪廻の輪によって回っている 群馬県利根商業高校 3年 坂井 煌
900	良き人見自分の中にくころ落ちその人の渦に魅力される 群馬県利根商業高校 3年 田伏 弘直
901	東京日本の渦の中心若年層渦に近づく 群馬県利根商業高校 3年 田伏 弘直
902	台風だ 渦を描いて 食べられるこっち来ないで あっちいつてよ 群馬県利根商業高校 3年 佐藤 應考
903	カタツムリ 今では見えない 協道のあの渦を見て懐かしきかな 群馬県利根商業高校 3年 佐藤 應考
904	教室で笑顔の渦に巻き込まれたくさん笑って楽しいな 群馬県利根商業高校 3年 樋口 怜良
905	渦巻いて 利根川流れ 動いてる その流れこそ 我々の命 群馬県利根商業高校 3年 大出 倭
906	眺めれば流されそうな勢いで嫌な気分も持っていかれる 群馬県利根商業高校 3年 上野 達也
907	渦巻いて流れる川を見て思う辿る先には実家の茨城 群馬県利根商業高校 3年 廣瀬 玲碧
908	渦を巻く 人の流れを見てを 見て思う 中に入れば 輝く神輿 群馬県利根商業高校 3年 小林 励唯
909	夏休み 時計の針が 渦を巻く 何も成せずに 過ごす毎日 群馬県利根商業高校 3年 小林 励唯
910	夏の渦 果てなき空に叫び声 声は届かず まだ見えぬまま 群馬県利根商業高校 3年 大島 夢叶

923	回る渦 それは魚を 吸い込んで まわりに海が 広がっている 群馬県利根商業高校 3年 田中 多貴
922	渦巻く風に身体を委ねて静けさの中に飲まれていく 群馬県利根商業高校 3年 田村 昂
921	渦の波に心を揺らし部屋の中は涼しいまま 群馬県利根商業高校 3年 田村 昂
920	川の渦 時を巻き込み 流れゆく 過去も未来も 一瞬の中 群馬県利根商業高校 3年 中田 玲也
919	渦巻きの 海に沈みて 夢を見る 儚き命 波間に揺れて 群馬県利根商業高校 3年 中田 玲也
918	渦の音いつもうるさく騒いでいる水の中では魚の祭り 群馬県利根商業高校 3年 根立 美咲
917	キラキラと流れる水が回る時、渦がクラクラ苦しんでいる 群馬県利根商業高校 3年 根立 美咲
916	春先の純潔な入学生が渦校のように咲いてくる 群馬県利根商業高校 3年 田村 悠人
915	オリンピック四年に一度行われる世界中を興奮の渦に巻き込む 群馬県利根商業高校 3年 田村 悠人
914	チャーハンやラーメンの中さりげなく 渦巻くサブキャラ その名は鳴門 群馬県利根商業高校 3年 石川 明依
913	迷走中 心は常に渦の中 くるくる回るよ 青春時代 群馬県利根商業高校 3年 石川 明依
912	花火する その隣には昔から 緑に渦巻く 蚊取り線香 群馬県利根商業高校 3年 石川 明依
911	川の渦 恋を求めて投げいれば 道の果までまだ逃げぬまま 群馬県利根商業高校 3年 大島 夢叶
924	回る渦 1年度入れれば ぬけない まわりの海も 吸い込んで行く 群馬県利根商業高校 3年 田中 多貴
925	夏休み勢いよく流れる渦の川 群馬県利根商業高校 3年 角田 楓
926	渦のように不機嫌な夏の空 群馬県利根商業高校 3年 角田 楓
927	水の渦 心の中の 迷い道 抜け出すすべは まだ見えぬまま 群馬県利根商業高校 3年 石井 楓輝
928	海の渦 吸い込まれるは 夢か現 果てなき深み 答えを求む 群馬県利根商業高校 3年 石井 楓輝
929	山の渦 すぎゆく風に 迷い道 故郷帰るば まだ見えぬまま 群馬県利根商業高校 3年 石井 楓輝
930	夏の海 きれいな海も あぶないよ ケンが多い 渦があるかも 群馬県利根商業高校 3年 綿貫 秀彦
931	夏の風 海に膨らむ 渦の子 ケンが多い 夏の海にも 群馬県利根商業高校 3年 綿貫 秀彦
932	風に舞い渦を巻く花美しさに心奪われて夢中になる 群馬県利根商業高校 3年 飯田 鉄生
933	渦の中にたち揺れ動く感情早い舞う心探し続ける 群馬県利根商業高校 3年 飯田 鉄生
934	雷の いなずま光る 暗闇の 台風の渦 明かり灯る 群馬県利根商業高校 3年 萩原 頼聖
935	渦が巻く 水面にひらく ひまわりの 香りおだやか 風おだやかに 群馬県利根商業高校 3年 萩原 頼聖
936	夏の夜の空気を感じて渦見つけ向かって歩けば夏の道 群馬県利根商業高校 3年 長谷川 恋舞

949	人の波 流れる人と止まる人 逆らう人も 人生の渦 群馬県利根商業高校 3年 星野 達磨
948	渦のよう 流れる思考を遮った 綺麗なみなかみ 綺麗なところ 群馬県利根商業高校 3年 星野 達磨
947	渦が立ち魚が回る水の中クルクル回って目も回る 群馬県利根商業高校 3年 陽田 結生
946	渦の中見ているといつか吸い込まれ水面踊る風と共に 群馬県利根商業高校 3年 陽田 結生
945	渦の中 小さな光が 揺らめいて 暗闇を裂く 希望の印 群馬県利根商業高校 3年 大川 樟音
944	渦をまく 時の流れに 身を任せ 揺れる心は 渦に飲まれた 群馬県利根商業高校 3年 大川 樟音
943	鉛雲台風の渦列島に静か立ち去れ皆願うのみ 群馬県利根商業高校 3年 佐藤 大牙
942	青空の四国の海に船乗りし遥か彼方鳴神渦潮 群馬県利根商業高校 3年 佐藤 大牙
941	集団で 市民を巻き込む 大乱闘争いの渦は 国を乱す 群馬県利根商業高校 3年 佐藤 翔汰
940	台風の 雲が巨大な 渦を巻く外では風が バケツを返す 群馬県利根商業高校 3年 佐藤 翔汰
939	渦巻く水 深く沈みて 音も無く 消えゆく思い 還らぬ流れ 群馬県利根商業高校 3年 金 悠香
938	渦巻く音 便器の中へ 流れゆく 悩みも共に 水と消え去る 群馬県利根商業高校 3年 金 悠香
937	渦のように この世の中は 変わってく 群馬県利根商業高校 3年 東 梨愛
962	脳内は君という名の渦になり内から春を飲み込んでいく 神奈川県光陵高校 1年 柳原 萌々子
961	渦潮に飲まれし舟は行くあても定めぬままにさまよう命 神奈川県光陵高校 1年 古川 眞帆
960	渦の中愛も憎しみも絡まりてほどけぬままに流されていく 神奈川県光陵高校 1年 古川 眞帆
959	渦巻けば時の流れも巻き込みてめぐり巡るは終わらぬ想い 神奈川県光陵高校 1年 古川 眞帆
958	白黒が渦巻いている世の中が飴玉ひとつでふわり春めく 神奈川県光陵高校 1年 藤井 綾音
957	菜の花が川辺の渦へ舞い込んで白い迷子を宴に誘う 神奈川県光陵高校 1年 藤井 綾音
956	幾千の正義が渦巻く世界にていつしか刃は桜を裂いて 神奈川県光陵高校 1年 中西 董
955	雷は電波の線を斜断する国民の皆渦を巻く 群馬県利根商業高校 3年 遠藤 佑飛
954	竜巻は巨大な風を巻き起こす外での風は巨大な渦を 群馬県利根商業高校 3年 遠藤 佑飛
953	渦巻いて絡み合う思い浮かび消え心の奥に静けさ戻る 群馬県利根商業高校 3年 今井 航輝
952	渦の中夢も消えゆく夜の海波が立つ波が問いかける 群馬県利根商業高校 3年 今井 航輝
951	山にきて川の流れが近くなり耳を済ませたら渦の音の声 群馬県利根商業高校 3年 小池 桜輔
950	川にきて遊んでいたら渦があり渦に魚が食べられている 群馬県利根商業高校 3年 小池 桜輔

975	瞳孔が渦紋を描く メズマライズされたみたいだ、君が見えない 神奈川県光陵高校 2年 山本 未生	974	会いたくて渦々してる脳内に君を着色して混ぜてみた 神奈川県光陵高校 2年 山本 未生	973	梅雨明けに渦を描いた天気地図ただ唯一の僕らの希望 神奈川県光陵高校 2年 福島 楓	972	月替り新たな席に移ってく淡いこい色渦巻いていく 神奈川県光陵高校 2年 福島 楓	971	海面に映る自分を覗いたらあつ、つてつぶやく余白なく渦 神奈川県光陵高校 2年 猪野田 涼奈	970	海、銀河、和傘、おはじき、卵焼き、蚊取り線香、渦が綺麗で 神奈川県光陵高校 1年 照田 佳苗	969	「大丈夫」の言葉の渦の中心に「じ」「や」「な」「い」がずっと回っているの 神奈川県光陵高校 1年 照田 佳苗	968	青春の渦に心を拐われて息のできない毎日にいる 神奈川県光陵高校 1年 照田 佳苗	967	たんぽぽは四月の夜を渦巻かせ端のかけてるクッキーだけが 神奈川県光陵高校 1年 森岡 千尋	966	渦巻いた言葉をそっと抱きながらイルカは誰も見えない星で 神奈川県光陵高校 1年 森岡 千尋	965	トンボを見て渦を描いている君の視線を奪い取りたいなとか 神奈川県光陵高校 1年 太田 実来	964	君の目に私は渦巻いてたならばそのまま忘れて泡沫にして 神奈川県光陵高校 1年 柳原 萌々子	963	青空を凝縮させた春に立つ 渦巻き雲とハグを交わして 神奈川県光陵高校 1年 柳原 萌々子
988	渦巻いてまた押し寄せる海水と夕焼けエモすぎ症候群が 神奈川県光陵高校 2年 佐野 晃太	987	渦の中溺れないよう探してた光はきっとあなただったの 神奈川県光陵高校 2年 佐野 晃太	986	渦潮に思いを託す あなたのことが好きでしたあなたのことが 神奈川県光陵高校 2年 佐野 晃太	985	風が渦巻けば台風、人間が渦巻けば社会 行きたくはない 神奈川県光陵高校 2年 佐野 晃太	984	戦渦の「渦」、戦禍の「禍」との違いより知るべきことはもつとあるはず 神奈川県光陵高校 2年 佐野 晃太	983	洋服と一緒に渦に吞まれば心のシワは伸ばされるかも 神奈川県光陵高校 2年 佐野 晃太	982	渦巻いた心で遭難しないよう僕があなたの灯台になる 神奈川県光陵高校 2年 佐野 晃太	981	夜の渦光の渦がぶつかって徐々に溶けてく様子が花火 神奈川県光陵高校 2年 佐野 晃太	980	花火から光の渦が飛び散って夜の渦までたどり着くまで 神奈川県光陵高校 2年 佐野 晃太	979	take your marks で台を蹴りつけて渦へと私飛び込めそうです 神奈川県光陵高校 2年 佐野 晃太	978	渦巻いて手の平ほどの球体になればどこでも行ける気がする 神奈川県光陵高校 2年 佐野 晃太	977	心臓に行くはずだった血液が脛のあたりで渦巻く感じ 神奈川県光陵高校 2年 佐野 晃太	976	渦潮が見たいの一緒に着いてきて。鈍行列車でゆっくり行こうよ 神奈川県光陵高校 2年 山本 未生

1001	1000	999	998	997	996	995	994	993	992	991	990	989
五限目へ螺旋階段かけ抜けて十七歳のわれら渦潮	夏休みの隅の金魚ら一斉に渦巻く地球をまわす力で	時計回りの台風をぶつきたい日々の嫉妬と怨嗟の渦に	人は皆荒立つ渦をしまつて、一切皆苦を泡立て濁す	うすしおが渦潮になるくらいにはブラジルの蝶は過多で現世は	神様がお風呂の栓を抜いた時最期まで渦は足掻こうとする	渦NN捉えきれない黒板の水流のまま臉を閉じる	渦つてね結構逃れられなくて太郎も花子もあいつにやられた	クロワッサン、洗濯機、学歴社会。イルカ、銀河も全部渦だね	何色に見える？ 私の心臓で元気にいやがる渦の目玉は	日常の渦に体が引つ張られ君という船を逃してしまう	水色の渦も黄色の渦もあるそれが混じって黒になるけど	飛び込んだ場所が渦だとしたつてもその真ん中に行けばいいだけ
東京学芸大学付属高校	東京学芸大学付属高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校
3年	3年	3年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年
川上 真央	川上 真央	池野 弘葉	西村 祥太郎	西村 祥太郎	西村 祥太郎	佐野 晃太	佐野 晃太	佐野 晃太	佐野 晃太	佐野 晃太	佐野 晃太	佐野 晃太
1014	1013	1012	1011	1010	1009	1008	1007	1006	1005	1004	1003	1002
渦を巻く熱帯低気圧わたし、彼の真上で空に帰ろう	ドキドキと高鳴る鼓動おさまれとソフトクリームの渦巻見つめる	渦潮よ今の私を飲み込んで誰も知らない場所に運んで	美しい虹の架け橋登ったら渦潮のように流される恋	公園で渦巻き模様の君に送る明日はきつと大空に飛ぶ	音楽が渦まいて耳に流れこみスケッチブックに影を描き初む	海辺から潮音響く夏の夜かき氷シロップ何味にする？	渦中の子冠を手放しどこへ行く死に切れぬ傷でどう報いる	オーディールと愛を誓った君のこと湖畔には大きな渦一つ	渦を巻く蚊取り線香じわじわと焼けて短く命を削る	渦巻いて口を開いて我を見る大蛇のように螺旋階段	快晴の甲板に立てば渦潮の私を見つめる眼と眼が合いぬ	渦たててもみぢ掻き分く鯉の群れ吾が恋はまだ微音も立てず
群馬県高崎商科大学附属高校	群馬県高崎商科大学附属高校	群馬県高崎商科大学附属高校	群馬県高崎商科大学附属高校	群馬県高崎商科大学附属高校	群馬県高崎商科大学附属高校	群馬県高崎商科大学附属高校	群馬県高崎商科大学附属高校	群馬県高崎商科大学附属高校	群馬県高崎商科大学附属高校	群馬県高崎商科大学附属高校	東京都駒場東邦高校	東京都駒場東邦高校
2年	2年	2年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	1年
福島 環	廣井 涼風	廣井 涼風	植原 愛佳	植原 愛佳	植原 愛佳	今井 沙羅	今井 沙羅	今井 沙羅	高橋 健太郎	高橋 健太郎	高崎 明音	小安 瑛太

1018 1017 1016 1015

しろくまがしろくまに生まれたように渦になってゆく粉ミルク

群馬県高崎商科大学附属高校 2年 福島

右巻きの渦がささやくこの星にきみがいるつてことのさみしさ

群馬県高崎商科大学附属高校 2年 福島

渦潮を抱かない東京湾の春祖父の手の色の貝殻しずむ

群馬県高崎商科大学附属高校 2年 福島

さるをみるさるにみられる猿山は銀河の渦の真ん中において

群馬県高崎商科大学附属高校 2年 福島 環

高校生以下の部【自由詠】

- | | | | | | | | | | | |
|----|---------|-----------|------------|---------|---------|-----|----------|----|--------------|-----|
| 1 | テスト前 | できない | ゲーム | 棚の上 | アイテム取れた | 弟の声 | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 根津 | 百花 |
| 2 | 四葩咲く | 梅雨入りの夏 | 蒸し暑く | 風ふくあの日 | 恋しい日々ぞ | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 荒牧 | 大翔 |
| 3 | 楽しみは | すべてだけでなく | 必要なのは、 | がんばりだ | | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 竹下 | さら |
| 4 | 犬が鳴き | ふと外見ると | 猫がいて | 〇〇〇〇てる | 夏の昼頃 | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 小野 | 夢愛音 |
| 5 | 市総大柔道部で | 不戦勝勝ち上がり | 県大会は嬉しくないな | | | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 小林 | 美優 |
| 6 | はじめての | テスト勉強 | がんばった | 一週間の | ごほうびほしい | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 吉澤 | ひまり |
| 7 | 大はしゃぎ | 初めて友と | 夏祭り | 二人でつくる | 一ピース目だ | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 田畑 | 結花 |
| 8 | 今回の | 期末テストは | 大変だ | 難問多くて | 広範囲だな | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 矢崎 | 新一 |
| 9 | ミンミンと | セミが鳴いている | 風がふき | スイカを食べて | 夏と感じる | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | ブートラミ | |
| 10 | 犬なのに | 探し回して | どこいった | 三千倍の | 嗅覚とやら | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 滝澤 | 莉乃 |
| 11 | なぜあるの | ロッカーの中に | 歴史ワーク | しかも2冊 | どうしてだろう | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 太田 | 優仁 |
| 12 | 梅雨の時期 | 夏の大会 | 感動画 | なみだなみだの | この瞬間 | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 坂間 | 柚映 |
| 13 | 吹部コン | 聞いて気づく | 拍手の差 | 私達には | どの拍手かな | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 笛田 | 虹湖 |
| 14 | 決勝戦 | かかるプレッシャー | 押し倒し | 仲間とともに | 涙の勝利 | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 小野 | さくら |
| 15 | 市総体 | かかるプレッシャー | 決勝戦 | 相手を倒し | 涙の勝利 | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 小野 | さくら |
| 16 | 市総体 | 暑さに負けず | 優勝だ | 有事に備え | 練習しよう | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 石井 | 謙伍 |
| 17 | ねむれない | 蚊の音聞こえ | 目が覚める | その後蚊たおし | ねむけ再来 | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 大谷 | 総一朗 |
| 18 | 誕生日 | 人生初のサプライズ | されて分かった | 最高だなと | | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 原田 | 梨桜菜 |
| 19 | 市総体 | 2回戦目も | 勝利して | 目標だった | 県大会だ | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 川崎 | 詩琉 |
| 20 | 緊張が | 音色とともに | 鳴り終わり | 心に染まる | 喜びの色 | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | ベッセルジャンフレイグデ | |
| 21 | 市総体 | 負けて泣いたが | 新チーム | 絶対勝つぞ | 一致団結 | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 新島 | 杏奈 |
| 22 | 市総体 | チームの勝敗 | 決める試合 | 手本のような | 部長の背中 | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 大谷 | 倫太郎 |
| 23 | 初花火 | みんな集合 | 火をつけて | やっと始まる | 夜のパーティー | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 久保田 | 莉聖 |
| 24 | 潮風に | ふかれながらも | 鳴りひびく | 星ときらめく | 大きな花火 | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 山口 | 玲那 |
| 25 | 昼下がりが | ふわふわと舞う | アゲハチョウ | 久しく感じる | あたたかな春 | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 成塚 | 須美怜 |
| 26 | 山道で | かすかに聴こえる | 風の音 | ビュービューと | 駆け出していく | | 群馬県宝泉中学校 | 2年 | 津久井 | 大遙 |

- 27 夕方の 部活終わりの 空の色 暗く輝く 薄桃色
群馬県宝泉中学校 2年 佐藤 蒼空
- 28 市総体友の吉報めでたいな 県出場で応援しよう
群馬県宝泉中学校 2年 田島 優希
- 29 真夜中に 足が重いと 見てみたら 丸くなり寝る 猫が一匹
群馬県宝泉中学校 2年 塚越 駿介
- 30 夏休み 課題が多い つい忘れ 八月下旬 徹夜する僕
群馬県宝泉中学校 2年 佐藤 麗緒
- 31 梅雨の時期 全く降らず 雨乞いし 外部に頼む 日焼けの私
群馬県宝泉中学校 2年 内田 花音
- 32 梅雨の時期 一色に染まる アジサイと すきとおる雨の 音楽会よ
群馬県宝泉中学校 2年 内田 花音
- 33 夏の日に 先輩たちの 応援し とても強くて ほこらしかった
群馬県宝泉中学校 2年 亀井 颯真
- 34 蒸し暑い 初夏のはじまり 薫風が リラックスでき 心落ち着く
群馬県宝泉中学校 2年 山本 琴和
- 35 イオン行き新商品に心動く千本松のアイスクリーム
群馬県宝泉中学校 2年 中野 大地
- 36 夕焼けに 君の横顔 照らされて 目を奪われた 学校帰り
群馬県宝泉中学校 2年 福田 あおい
- 37 コンクール 金賞目指し 合奏だ 楽器を鳴らし 心も一つ
群馬県宝泉中学校 2年 酒井 日和
- 38 この思い 思い届かぬ この世界 あなたの心 買えぬものなり
群馬県宝泉中学校 2年 佐々木 凛人
- 39 恋心 あなたにほれた この気持ち 忘れはしない この恋の味
群馬県宝泉中学校 2年 佐々木 凛人
- 40 夕焼けと 日本晴れいろ 並ぶ梅雨 ひかれる心 空いろ紫陽花
群馬県宝泉中学校 2年 大内 愛友花
- 41 あの人の 光は奇跡 年増えて 身動きできず それでも光
群馬県宝泉中学校 2年 関シシエルウヰトフヤ
シシエルウヰトフヤ
- 42 市総体 結果は三位 うれしいが 忘れられない あのくやしさを
群馬県宝泉中学校 2年 関シシエルウヰトフヤ
シシエルウヰトフヤ
- 43 思い出す あの青い空 見とれてしまう 無限な景色
群馬県宝泉中学校 2年 井上 よしあき
- 44 最近 は スマホゲームに はまってる レアなもの出て とび上がる僕
群馬県宝泉中学校 2年 秋山 翔汰
- 45 おはようも 休み時間も 放課後も しゃべってしゃべって しゃべりたりない
群馬県宝泉中学校 2年 茂木 優愛
- 46 六月に 一年生と 先輩と 笑顔でたたく みんなとたたく
群馬県宝泉中学校 2年 松島 千夏
- 47 大会で バントを決めた うれしいな 決勝戦で サヨナラ勝ちだ
群馬県宝泉中学校 2年 大隅 虎太郎
- 48 決めたなら 逆らい進め 強い風 堂々と立つ 一人の自分
群馬県宝泉中学校 2年 渡邊 登代
- 49 コンクール 金賞目指し 練習だ 音色を合わせ 一致団結
群馬県宝泉中学校 2年 小久保 陽菜
- 50 誰にでも スポーツならば チャンスあり 学年の壁 さあふきとばせ
群馬県宝泉中学校 2年 桑子 歩大
- 51 晴れわたる 真夏の空に 迫りくる 雷雨ともなう 夕立の音
群馬県宝泉中学校 2年 北爪 陽菜
- 52 友達に 相談された 助けたい 響くといいな 私の言葉
群馬県宝泉中学校 2年 フロレス ユナロイ

- 53 私たち一〇にいるお友達年を取っても永遠の友
群馬県宝泉中学校 2年 吉野 海人
- 54 高いもの とどくかどうか 友達と おれがとどいて よろこびあった
群馬県宝泉中学校 2年 田村 快音
- 55 薫風と 共に飛んでく 白鳥に 我らの校歌 輝かせたる
群馬県宝泉中学校 2年 深津 蒼奈
- 56 刻々と 時が流れる 日曜日 課題は何も 進めていない
群馬県宝泉中学校 2年 高橋 蒼空
- 57 全員の 心が燃えた 市総体 落としたくない一つのボール
群馬県宝泉中学校 2年 村川 穂徠
- 58 先輩の最後の夏にプレーする白球追ってチームまとまる
群馬県宝泉中学校 2年 井手上 海翔
- 59 あと一步 届かなかった チームへの 刺さる歓声 喜びの声
群馬県宝泉中学校 2年 長岡 和香
- 60 大会で 勝利のために 日々努力 県大会で 勝利を掴め
群馬県宝泉中学校 2年 川島 璃亜人
- 61 帰宅中田んぼの奥にオレンジの一つ輝く流れる夕日
群馬県宝泉中学校 2年 吉原 煌翔
- 62 今年初海に行って砂遊び夢中になって遊び続ける
群馬県宝泉中学校 2年 松島 由奈
- 63 短歌かく よい案できず 時間すぎ 筆ペンもらい たただただ回す
群馬県宝泉中学校 2年 西山 希虎
- 64 初夏の雨 窓から外を 見てみれば 美しく咲く 一本の花
群馬県宝泉中学校 2年 保科 亮輔
- 65 暗い空 走り見上げる 空の中 白く輝く 雨の白龍
群馬県宝泉中学校 2年 高田 百萌
- 66 水たまり 夕焼け空を 映し出し 赤黄に燃える 自然の宝
群馬県宝泉中学校 2年 高田 百萌
- 67 脈拍に 心急かされ 跳び出した 砂場の先に 夏が笑う
群馬県宝泉中学校 2年 中原 紗穂
- 68 海なしこの地 海を見たいと 妹よ 見上げれば空
群馬県宝泉中学校 2年 中原 紗穂
- 69 病室で 緊張高まる 空気中 かわいい子どもで 明るい心
群馬県宝泉中学校 2年 石川 莉子
- 70 先輩と 部活で走ったあの日々は 暑い夏の 僕の宝物
群馬県宝泉中学校 2年 伊藤 瑠亜
- 71 決勝戦 みんなでとった 金メダル マンガのような あつい戦い
群馬県宝泉中学校 2年 山本 悠乃
- 72 兄ちゃんの 誕生祝い ゆず庵へ 鶏天食べて 笑顔あふれる
群馬県宝泉中学校 2年 大澤 健翔
- 73 テスト前 ゲームが没収 時間でき 机に向かう 二年の自分
群馬県宝泉中学校 2年 丸谷 玲馬
- 74 筆ペンで 私の気持ち 光かがやく 授業の中で 短歌書く
群馬県宝泉中学校 2年 高田 美麗
- 75 スカイツリー小さく見える大都会たぐさんの町がミニチュアみたい
群馬県宝泉中学校 2年 大塚 真央
- 76 冬の夜 メンソレータム メンソレー ややこしい名に 笑う一時
群馬県宝泉中学校 2年 吉田 悠花
- 77 止まらない 立ち止まらない 青空は 走りつづける 不思議な空だ
群馬県宝泉中学校 2年 ベニテス ミア
- 78 夏休み 部活終わりの 帰り道 あせみず流し 涼しい家へ
群馬県宝泉中学校 2年 大原 彩衣良

79	北海道	春の薫風	しかし雪	踏み固められ	大地のごとし	群馬県宝泉中学校	2年	葛山 響
80	やめたいな	そんな時でも	一人じゃない	仲間の声が	背中を押す	群馬県宝泉中学校	2年	関塚 晴信
81	県出場	決めたあの日の	あのレース	次は絶対	一位を取ろう	群馬県宝泉中学校	2年	関塚 晴信
82	夢の国	時を忘れて	おおはしゃぎ	魔法が解けて	ふところ寒い	群馬県宝泉中学校	2年	高橋 優互
83	暑い夏	汗かく私	風がこず	エアコンの下	アイスをかじる	群馬県宝泉中学校	2年	塚越 唯翔
84	爽やかな	風と一緒に	シャボン玉	初心に戻る	姉と弟	群馬県宝泉中学校	2年	赤石 楓
85	何気ない	会話かわして	シャボン玉	楽しい日々が	続くといいな	群馬県宝泉中学校	2年	赤石 楓
86	シャボン玉	はしゃぐ弟	見守る姉	小さい頃の	思い出のよう	群馬県宝泉中学校	2年	赤石 楓
87	白さが	夏の田んぼに	飛びこんで	静かに光る	きれいな波紋	群馬県宝泉中学校	2年	徳田 希輝
88	田舎道	車中に見える	鹿の群れ	輝く瞳は	黒い宝石	群馬県宝泉中学校	2年	渡邊 陽尊
89	三点差	夏の大会	あと一步	悔しい結果	汗水流す	群馬県宝泉中学校	2年	重田 乃衣
90	優勝	喜び涙	市総体	県大会へ	三年生と	群馬県宝泉中学校	2年	松島 和瑚
91	有難い	クーラー設備	できあがる	体育館は	これで快適	群馬県宝泉中学校	2年	和気 旬佑
92	稲妻が	走る夏空	雲の涙	激しく強く	青空恋しい	群馬県宝泉中学校	2年	長 和佳奈
93	市総体	三年主役の	大舞台	緊張ただよ	最後の試合	群馬県宝泉中学校	2年	久保田 絢斗
94	ひるさがり	とんぼは飛んで	セミは鳴く	虫のおしえる	夏の暑い日	群馬県宝泉中学校	2年	久保田 陵太
95	つつぬけ	の心の声が	ひびくとき	しまりかえる	学びの広場	群馬県宝泉中学校	2年	久保田 陵太
96	塾帰り	ぼーとして	たら足くじき	「ばかじゃない」	とほめられるおれ	群馬県宝泉中学校	2年	亀岡 航明
97	週一の	めんどい空手	まじだるい	親の希望で	道着きる僕	群馬県宝泉中学校	2年	小林 諒真
98	テスト勉強	明日やろうと	さきのばし	テスト前日	あきらめて寝る	群馬県宝泉中学校	2年	小林 諒真
99	みんなでね	タイムスリープ	作ったね	覚えてるかな	思い出の紙	群馬県宝泉中学校	2年	岡村 明音
100	総合の	福祉体験	車いす	慣れない車	斜面で転ぶ	群馬県宝泉中学校	2年	梶原 桜
101	暑い日に	クーラーつけて	アイスを食べ	一日過ごす		群馬県宝泉中学校	2年	深町 帆花
102	のんびりと	家でなまける	夏休み	どんどんたまる	多くの課題	群馬県宝泉中学校	2年	島田 琉希
103	友達が部活	でまさかの一回転	帰りの車で	名言を言う		群馬県宝泉中学校	2年	碓井 遥斗
104	ありがとう	そんな言葉を	かけてみた	傘がほほえむ	そんな気がした	群馬県宝泉中学校	2年	岡部 璃子

117	九份の 光が灯る坂道は 心に残る 春の思い出 群馬県宝泉中学校 2年 菅原 一花	116	推し達の 輝くライブ 歌うたう リスナー共に 幸せな顔 群馬県宝泉中学校 2年 高澤 桃	115	大会にけがなくでれてよかった結果は三位次は優勝 群馬県宝泉中学校 2年 花輪 咲人	114	学校の プールないこと かなしいな 波におされて たのしいのにな 群馬県宝泉中学校 2年 櫻井 瑞季	113	体育で 思いをつなぐ バトンパス 息をあわせる 群馬県宝泉中学校 2年 山下 桃実	112	大会で ランナーにでた 市総体 うれしかったな 次は優勝 群馬県宝泉中学校 2年 桑原 唯月	111	あこのろの 犬がワンワン 鳴きだして ぐるぐる回ると また眠りだす 群馬県宝泉中学校 2年 長嶋 虹音	110	登下校 あじさい見れば 梅雨気分 すがすがしい日 今日もスタート 群馬県宝泉中学校 2年 塚越 華楽	109	ヘルメット部活帰りに守られて 危ない段差ひざをけがして 群馬県宝泉中学校 2年 須田 一輝	108	部活中あの時のこと鮮明に痛みと共鳴雨音の唄 群馬県宝泉中学校 2年 加藤 雪華	107	コストコの トイレに入る その瞬間 男子トイレに入りまちがえ 群馬県宝泉中学校 2年 加藤 雪華	106	リレーの授業 いつもはうるさい 男子たち 走っていると なんかつこい 群馬県宝泉中学校 2年 加藤 雪華	105	体育の時間 リレーが始まり いざ勝負 相手を抜き 勝利を導く 群馬県宝泉中学校 2年 加藤 雪華
130	汗かいて 暑いと言いつつ 部活する 幸せな日々 続いてほしい 群馬県宝泉中学校 3年 加藤 美姫	129	「花火はね、空に輝やく ひまわりだ」祖父の言葉を 今思い出す 群馬県宝泉中学校 3年 加藤 美姫	128	夏休みシャーペン持って椅子の上座ってずっと手を動かす屋 群馬県宝泉中学校 3年 鈴木 想愛	127	真夜中の宝が秘そむ冷蔵庫 財宝求め少年心 群馬県宝泉中学校 2年 高橋 莉紗	126	七色の色とりどりの長い橋 私の進む雲りなき道 群馬県宝泉中学校 2年 高橋 莉紗	125	月曜の赤色の空美しく夕日の雲の色不思議だな 群馬県宝泉中学校 2年 大沼 紫季	124	市総体 力を合わせ 逆転か 大号泣な バスケット大会 群馬県宝泉中学校 2年 百合野 愛	123	柔術で 強い相手と 試合する 心配だった 勝ててうれしい 群馬県宝泉中学校 2年 橋本 結愛	122	久しぶり 友と会話を はずませる 屋台や花火 去年の夏 群馬県宝泉中学校 2年 関谷 音心	121	部活での 初マーブリング 階段絵 広がるインク まわるスカート 群馬県宝泉中学校 2年 小山 慶人	120	試合中ボールぶつかり骨折れる悔しく思う要の俺 群馬県宝泉中学校 2年 佐藤 琉可	119	朝早く 試合に勝って 県大会 部活目標 達成だ 群馬県宝泉中学校 2年 佐藤 琉可	118	残酷な 世界で気づく大切さ 周りの人の思い受け継ぐ 群馬県宝泉中学校 2年 清水 雪華

- 131 夏の夜 打ちあげ花火 君と見て 目を見つめ合う 四秒間
群馬県宝泉中学校 3年 櫻木 雅人
- 132 銀世界 灯り輝く 聖夜には あなたと過ごし 幸せ祈る
群馬県宝泉中学校 3年 角田 優愛
- 133 小1で 覚えさせられ 言わされた 嫌な思い出 春の七草
群馬県宝泉中学校 3年 八木 奏多
- 134 AIの 進化は早い だがしかし 越えられないは 人という壁
群馬県宝泉中学校 3年 八木 奏多
- 135 旅先の 班行動で 協力し 楽しい思い出 修学旅行
群馬県宝泉中学校 3年 福島 南々美
- 136 夏の夜 涼しい風が そよそよと 虫の鳴き声 夜の合唱
群馬県宝泉中学校 3年 小林 蒼正
- 137 なつまつりとても楽しいやたいだな打ち上げ花火とてもきれいだ
群馬県宝泉中学校 3年 植松 凜太
- 138 風船に たくさん水を ふくらませ はじける水に 夏を感じて
群馬県宝泉中学校 3年 谷中 陽万莉
- 139 十八の年 遠ざかりゆく 姉の背が また聞きたい ただいまの声
群馬県宝泉中学校 3年 稲村 妃菜
- 140 愛あれば 愛が集いて 愛芽生える 愛を信じれば 愛が来たる
群馬県宝泉中学校 3年 河野 和輝
- 141 受検勉強一人一人努力して合格への道をひらくきっかけ
群馬県宝泉中学校 3年 眞下 和彦
- 142 夏休み れいぼうきいた マイルーム ゲームにアイス いつときの幸せ
群馬県宝泉中学校 3年 長谷川 恵太
- 143 しずく落ち しとしとと泣く 夏の空 窓にうつった 僕の顔
群馬県宝泉中学校 3年 森下 菜央
- 144 人生を 彩っている 桜と笑顔 自然とみんな ほころんでいる
群馬県宝泉中学校 3年 森下 菜央
- 145 さようなら 君へのおもい こんにちは 涙と共に 暗い世界へ
群馬県宝泉中学校 3年 アケミ ニコル
- 146 草木のせせらぎきこえ ふりむくと もう消えていた豊かな自然
群馬県宝泉中学校 3年 森下 絆奈
- 147 梅雨があげ真夏が始まりうきうきだが机にむかう今年の夏だ
群馬県宝泉中学校 3年 津久井 友駕
- 148 桃色の木が咲きほこったその一瞬家族みんなニコニコだ
群馬県宝泉中学校 3年 三田 遼琥
- 149 田舎の暖い風が 町の人の優さをあらわしている
群馬県宝泉中学校 3年 徳田 輝空
- 150 青々と桜木の葉が芽生えては夏がせまると体にしみる
群馬県宝泉中学校 3年 稲垣 よいち
- 151 夏の夜蚊にさされてはフマキラー中身が尽きて丑三つ時
群馬県宝泉中学校 3年 稲垣 よいち
- 152 秋が来て紅葉ながめてはや真冬きせつの流れ一瀉千里
群馬県宝泉中学校 3年 稲垣 よいち
- 153 さあいこう日本を変える場所へとその一票未来を変える
群馬県宝泉中学校 3年 梶田 海司
- 154 雨降る道はひかりかがやく美しい雪が聖なる炎のように白くひかっている
群馬県宝泉中学校 3年 根岸 悠登
- 155 たのしいなさいごのぶかつゆうしようだみんなでやるのはつぎでさいごかも
群馬県宝泉中学校 3年 金子 祐大
- 156 冬休み 高校入試 対策し あふれるねつきよう 目指せ合格
群馬県宝泉中学校 3年 田村 謙斉

169	青空にモンシロチョウがひらひらと おいかけっこしているようだ 群馬県宝泉中学校 3年 岡 夢 乃	168	県大会 仲間と繋ぐ絆の輪 勝利の道へ 駆け抜けろ 群馬県宝泉中学校 3年 三吉 れあ	167	静かな夜になりひびき、黒い空にきらきらと大きな花がさいている 群馬県宝泉中学校 3年 三吉 れあ	166	空中にきらきら光る水をつぶ静かにおちて周りをあかるく 群馬県宝泉中学校 3年 林 さくら子	165	暗くなり走って帰る夜の道また会えた明るくなった次の朝 群馬県宝泉中学校 3年 林 さくら子	164	夏の夜火花が空にはなみたいにとてもすてきな終わりは悲しいな 群馬県宝泉中学校 3年 武藤 珠奈	163	夏が来たスイカと花火美しい友達と火遊びダメ絶対。 群馬県宝泉中学校 3年 庄司 莉愛	162	受験生 差がついていく 夏休み 遊ぶことやめ 日々努力する 群馬県宝泉中学校 3年 長谷川 颯	161	もう受験生あつというまに過ぎさつたのしい日々を思い出しながら 群馬県宝泉中学校 3年 梁井 春汰	160	夏の夜 セミのなき声 きこえてくる 耳でかんじる 夏のおとずれ 群馬県宝泉中学校 3年 小林 珠奈	159	草枯れて 風の音寂し 秋の夜 星影瞬く 心に寄り添う 群馬県宝泉中学校 3年 梅津 楯	158	静かなる夜の星は光り遙かに心を照らす希望の光 群馬県宝泉中学校 3年 梅津 楯	157	夏の夜 蛍飛び交う かせんじき 他の虫の音 かきけすほかに 群馬県宝泉中学校 3年 山崎 湊人
182	毎朝の おはよう一言 私も母も 一日笑顔 今日頑張ろう 群馬県宝泉中学校 3年 寺井 咲愛	181	太陽が 一番かがやく この季節 水の富士山 食べたいな 群馬県宝泉中学校 3年 寺井 咲愛	180	白い月に みかんを食べると ふと思う どうして手の色 みかん色 群馬県宝泉中学校 3年 藤掛 燎	179	寝床上 寒暖激しく 夜眠れず 求める機械は エアコンのみ 群馬県宝泉中学校 3年 田部井 友弥	178	大人気 おもちゃお菓子を買い占める 大人はいつまで 続けるのだろう 群馬県宝泉中学校 3年 田部井 友弥	177	人生は、紙飛行機、どこにいくか、誰も知らない、神様もね 群馬県宝泉中学校 3年 関根 大河	176	帰り道、ふと気づけば、知らぬ道、このゆく先に、何があるのか 群馬県宝泉中学校 3年 関根 大河	175	夏休み 最後の試合 勝利まで みんなとともに あきらめないで 群馬県宝泉中学校 3年 井田 空来	174	引退がまちどおしかつた部活でもふとした時に恋しくなる 群馬県宝泉中学校 3年 森村 心結	173	夏休みやつとの思いでやってきた予定をみれば塾まみれ 群馬県宝泉中学校 3年 森村 心結	172	セミの音が うるさいくらいに 響いてて いそがしそうな 夏のおとずれ 群馬県宝泉中学校 3年 長澤 奏舞	171	明日から 三連休だ なにしよう 好きなことして たくさん寝よう 群馬県宝泉中学校 3年 ホダ ナフシン	170	夜の空心にひびく夏の音火花にまぎれるセミの合唱 群馬県宝泉中学校 3年 武井 あゆみ

195	風がふき ゆれる紅葉 見とれると 良い匂いがし トコトコ歩く 群馬県宝泉中学校 3年 村岡 苺姫	183	チクタクと 響きわたる 時計の音 机に向かい 目標目指す 群馬県宝泉中学校 3年 寺井 咲愛
194	ジリジリと 暑い日がさす その後は 冷たいアイス 体にしみる 群馬県宝泉中学校 3年 村岡 苺姫	184	夏の音 どこから聞こえる 人の声 暗くなるほど 徐々にます 群馬県宝泉中学校 3年 小林 颯芽
193	桜散る 入学式は 感動を 卒業式は しずくを落とす 群馬県宝泉中学校 3年 村岡 苺姫	185	夏の夜蛍の光きらきらと光うかべる夏の星空 群馬県宝泉中学校 3年 藤井 淳人
192	だんだんと はなれていくよ 君の距離 昔のように もっと話そう 群馬県宝泉中学校 3年 村岡 苺姫	186	あいさつは みんなを笑顔に する魔法 みんなを笑顔に して笑おう 群馬県宝泉中学校 3年 鈴木 響太
191	三年間 大きく前へ 進んだと 過ぎゆく時に 照らされて 群馬県宝泉中学校 3年 高橋 利乃	187	暖かい 肩で感じる 春の声 瞳に映る 未来への壁 群馬県宝泉中学校 3年 小林 莉奈
190	夏の夜に パツとさいた 花びらが みんなの心 照らしてゆく 群馬県宝泉中学校 3年 吉野 遥風	188	息白く ツンと鼻さし 手赤く 窓からきこえる 小さな笑い 群馬県宝泉中学校 3年 小林 莉奈
189	いそがしい 受験勉強 むずかしい 難関問題 あともう少し 群馬県宝泉中学校 3年 長谷川 心美	208	キラキラと 輝く青い海。 なつかしいな なぜ青いのか 考えていた頃が 群馬県宝泉中学校 3年 山田 あゆみ
207	緑の咲き始め 虫の羽音 桜の香り 鼻に訪れ 春の到来知らせる。 群馬県宝泉中学校 3年 山田 あゆみ	206	キラキラと 水面にうつる 太陽と 砂浜にある バケツとシャベル 群馬県宝泉中学校 3年 川島 璃月
205	決勝戦 全力つくす 最後まで ラスト一本 ナイスボール！ 群馬県宝泉中学校 3年 矢島 菜月	204	くらい空 流れ星みつけ 小躍し 家族みんなで 願いごと 群馬県宝泉中学校 3年 加藤 莉央
203	なつかしい たくみの里 なにもない すずしい風が 静かに感じる 群馬県宝泉中学校 3年 清水 偉心	202	ビリビリと 苦みが走る 舌先に 気づけばほらね 緑のピーマン 群馬県宝泉中学校 3年 荒木 野乃華
201	熱い中 つかはててく この体 ムチ打ちきたえ 夏をしりぞけ 群馬県宝泉中学校 3年 竹政 琉稀	200	友人と うす暗くなる 闇の中 きも試しかと 恐るるこよい 群馬県宝泉中学校 3年 竹政 琉稀
199	夏なりて 騒がしいかと 祖とみると とうめいな板 貼りつくセミよ 群馬県宝泉中学校 3年 竹政 琉稀	198	朝起きて 接吻願う 我が母を 見苦しいかと 退ける今日 群馬県宝泉中学校 3年 竹政 琉稀
197	田植時 あこがわいawaii あそんでる そろそろくるか迎えの列車 群馬県宝泉中学校 3年 高屋 広宇	196	たくさんの イベントがあり ワイワイと 年があげたら またよろしくね 群馬県宝泉中学校 3年 村岡 苺姫

221	若葉芽生えウグイス鳴く頃晴天に街は雪解け春色変わる 群馬県宝泉中学校 3年 長沼 亜胡	220	カエル鳴く涼しくなった夏の夜に写真に収める火の花びら 群馬県宝泉中学校 3年 長沼 亜胡	219	学校の教室の匂い、遠ざかり、背中が大きくなった気がする。 群馬県宝泉中学校 3年 青木 耀生	218	球場の 観客の熱気に 包まれて 忘れぬ夏を 仲間と共に 群馬県宝泉中学校 3年 高田 龍之介	217	赤い葉が 道にしかれて 枯れてゆく 落ちる紅葉は 雪の知らせに 群馬県宝泉中学校 3年 古田 育太	216	甲子園 汗にじみ出る 高校の 頂点目指し ベースを駆ける 群馬県宝泉中学校 3年 古田 育太	215	セミが泣く 汗水たらし 応募する 結果くるまで 鳥肌がたつ 群馬県宝泉中学校 3年 山口 翔蒼	214	雨上がり 窓から見える あの虹が ニコニコ笑って 輝いている 群馬県宝泉中学校 3年 原田 心雪	213	ぶかぶかと笑顔が眩しき快晴とともにいこう未来の扉へ 群馬県宝泉中学校 3年 荒木 衣琳	212	さんさんと汗だくだくの毎朝だ教室の中天国だー 群馬県宝泉中学校 3年 大久保 ことみ	211	湯気がたつ ピカピカ光る オレンジ一粒の水が 頬通り過ぎる 群馬県宝泉中学校 3年 鯉沼 音羽	210	暗い山 顔を出してよ 見たいから ふと山みれば ほほえんでいる 群馬県宝泉中学校 3年 鯉沼 音羽	209	真夏の日 海がきらめく 家族旅行 夜は星空 すてきな思い出 群馬県宝泉中学校 3年 久保田 萌依未
234	ぬけがらを見るたびおもうこの夏で 自分もからをやぶらなければ 群馬県みなかみ中学校 1年 河合 伽粹	233	ゴマを見ると思い出す鼻の周りの点々じいちゃん家のネコ 群馬県みなかみ中学校 1年 小野 優人	232	あくがれの 40スチール 40ホームー ごはんを食べて まんだらをかく 群馬県みなかみ中学校 1年 大川 向陽	231	あくがれは 二死で打席 逆転サヨナラ 満塁ホームラン 群馬県みなかみ中学校 1年 大川 向陽	230	夏休み始まりうれし後半になればなるほど宿題終わらず 群馬県みなかみ中学校 1年 生方 海璃	229	炎暑の日々 思い出の宝庫だが 時は短かし 晩夏の候 群馬県みなかみ中学校 1年 原澤 拓也	228	ヒュードン 心がふるえ 感動が 夜空に落ちる 夏の終わりに 群馬県みなかみ中学校 1年 見城 侑人	227	夏の日に キラキラ光る 水の中 友達の顔も みなもに光る 群馬県みなかみ中学校 1年 見城 侑人	226	千葉県に 家族で旅行に 行っただけ 帰りは渋滞 どつと疲れた 群馬県みなかみ中学校 1年 細谷 悠生	225	シーワールド シャチに濡らされ びしょ濡れだ 夏の思い出 また1つできた 群馬県みなかみ中学校 3年 岩崎 莉里愛	224	涼しげに音をならして風を呼ぶ初夏を伝えるガラスの鐘 群馬県宝泉中学校 3年 関口 睦稀	223	クリスマス君には本音を言いたかった言えない気持ちすぐ傷癒えない 群馬県宝泉中学校 3年 関口 睦稀	222	人々が 実現しよう それぞれが 尊重し合う 平和な世界 群馬県宝泉中学校 3年 岩佐 知春

- 235 利根川の水流れる音と小鳥のさえずり心地よく聞こえる自然の豊かさよ
群馬県みなかみ中学校 1年 鈴木 優斗
- 236 風鈴の音をかき消す蝉の声暑い暑いとなく昼下がり
群馬県みなかみ中学校 1年 森本 和花
- 237 無口だけど 仲間思いで 熱い人 アニメの中で 初恋を知る
群馬県みなかみ中学校 1年 長島 福良
- 238 暑い外アイスを買にくつをはくふと見あげるとフウリンがなる。
群馬県みなかみ中学校 1年 安達 雅
- 239 暑い日々雷が落ち恐怖心 悲惨なことも夏の思ひ出
群馬県みなかみ中学校 1年 池田 真大
- 240 お花見で地面ばかりを見ていたが 空を見あげて落ちる花びら
群馬県みなかみ中学校 1年 関 瑛翔
- 241 赤とんぼ夕日に照らされ赤くなる 自由に飛んでどこへいくのか
群馬県みなかみ中学校 1年 伊藤 勇太
- 242 終わってく言いきれないまま帰って 目の色暗く一人落ちてく
群馬県みなかみ中学校 2年 田村 桃香
- 243 終わらないまだまだ自分終われない なにがあらうと
群馬県みなかみ中学校 2年 田村 桃香
- 244 なんだろう 今日の給食 楽しみだな 全部完食 おかわりしよう
群馬県みなかみ中学校 2年 古藤 汐里
- 245 うれしいう家に帰ると回ってるこつちを見ながらぼくの愛犬。
群馬県みなかみ中学校 2年 信澤 大生
- 246 こんだて表 カレーがあるか チェックする 今日一回 もっと食べたい
群馬県みなかみ中学校 2年 高橋 彩楓
- 247 わたしたち 昨日じゃなくて 今大事 明日はもっと 成長しよう
群馬県みなかみ中学校 2年 櫻井 瑛輝
- 248 夏休み 新潟の海 行きたいな 家族とつくる 一生の思い出
群馬県みなかみ中学校 2年 木村 悠希
- 249 群馬にはつかれがとれるおんせんがかぞくでいくとたのしいおもいで
群馬県みなかみ中学校 2年 倉持 楓斗
- 250 夏休み プールに行こうと思っても 一人じゃ行けない だれさそうか
群馬県みなかみ中学校 2年 関 大地
- 251 息を吸う 生い茂る草 澄んだ空 夏の草原
群馬県みなかみ中学校 2年 星野 結奈
- 252 どこからかニヤーンと聞こえる 猫の声冷えた指先あたためた
群馬県みなかみ中学校 2年 飛田 美空
- 253 夏が来た暑い日続き家のなか 宿題よりあそび優先
群馬県みなかみ中学校 2年 遠藤 志乃美
- 254 祖母と見る夏の星座で語り合う 空の宝石手ではつかめず
群馬県みなかみ中学校 2年 林 小葉
- 255 友達と会話かわす暑いねと 窓際見れば緑広がる
群馬県みなかみ中学校 2年 林 小葉
- 256 地元での花火大会にぎやかで 夜空に咲いた一輪の花
群馬県みなかみ中学校 2年 林 小葉
- 257 外に出て 腹空に見せ ハチワレが こちら見るたび 愛しく思う
群馬県みなかみ中学校 2年 増田 花音
- 258 桜舞い ラケットにぎる あの日から バトンタッチし 世代交代
群馬県みなかみ中学校 2年 増田 花音
- 259 返された 答案用紙 手に取って 勉強すれば 思ったあの日
群馬県みなかみ中学校 2年 増田 花音
- 260 夏休み、朝から晩まで、なにをしよう だけど宿題、めちゃくちゃ多い
群馬県みなかみ中学校 2年 佐藤 叶祈

273	思い出す 今亡きカエル 群馬県みなかみ中学校 2年 高柳 征司	272	来年も 君と一緒に 見ていたい 夜の火花と 僕のドキドキ 群馬県みなかみ中学校 2年 山田 千瑚	271	夏休み 部活楽しい ご前中 帰ってきたら 家事が山もり 群馬県みなかみ中学校 2年 高柳 陽斗	270	ゆううつな 月曜の朝 坂道に いがいときつい 夏の日ざしが 群馬県みなかみ中学校 2年 高柳 陽斗	269	いとことは顔を合わせてないけれど だいたい性格想像つく 群馬県みなかみ中学校 2年 川田 愛由香	268	歯医者さん手を挙げようか挙げられずまた挙げられずに痛い思いする 群馬県みなかみ中学校 2年 川田 愛由香	267	クリスマス 二人すごした 寒い夜 今はただ空を ながめてるだけ 群馬県みなかみ中学校 2年 林 快星	266	休みの日 二人で行った 夏祭り けれど今年は 一人で火花 群馬県みなかみ中学校 2年 林 快星	265	夏の外 セミの鳴き声 うるさいな けれど夏がきた、と実感した 群馬県みなかみ中学校 2年 林 快星	264	夏休み 気づいた時は 最後の日 ドリル終わらず こうかいした夜 群馬県みなかみ中学校 2年 林 快星	263	夏祭り、友達と見た、あの火花 今も忘れない、一生の思い出 群馬県みなかみ中学校 2年 佐藤 叶祈	262	夏祭り、火花ややたいで、 楽しむ夜 だけれどくじで 金が尽きる 群馬県みなかみ中学校 2年 佐藤 叶祈	261	夏の夜、カエルとセミの 大合唱 夜はねむれず、次の日ねむい 群馬県みなかみ中学校 2年 佐藤 叶祈
286	部活中 暑くて死にそう 帰りたい 短い休けい 帰りたい 群馬県みなかみ中学校 2年 山田 桜娘	285	夏になり山は緑におおわれる 秋に戻ると赤へ返し 群馬県みなかみ中学校 2年 小松 月彩	284	夏休み 文武両道 目指す時 頑張ることで 得られる嬉しさ 群馬県みなかみ中学校 2年 澤口 かやの	283	夏休み 暑さをしのいで 川に行く 水をかけられ はしゃぐ友達 群馬県みなかみ中学校 2年 山田 桜輔	282	冬休み 朝から散歩 家の家 歩けそうなほど 分厚い氷 群馬県みなかみ中学校 2年 山岸 路子	281	夏休み 歩いて帰って 暑いまま 冷たい炭酸 飲むのは最高 群馬県みなかみ中学校 2年 山岸 路子	280	夏祭り 終業式ぶりの 友の顔 ちよつとやせたと おせじ祭り 群馬県みなかみ中学校 2年 小林 瑤	279	夏休み 宿題終わらず あせる君 明日の夜は てつ夜になるな 群馬県みなかみ中学校 2年 小林 瑤	278	夏休み 部室に響く 夏の音 みんなに届け 私達の音 群馬県みなかみ中学校 2年 加藤 琴美	277	咲きほこる あじさいまるで 雨のよう にしては暑い 今日この頃 群馬県みなかみ中学校 2年 加藤 琴美	276	夜の庭 みんな集まりじつと見る 誰がおちるか 線香火花 群馬県みなかみ中学校 2年 久保 昂	275	あつい夏エアコンつけて涼しいな 外に出てみて溶けそうだ 群馬県みなかみ中学校 2年 久保 昂	274	あつすぎる森の中から虫の音と 風がふきぬけ涼しさ残る 群馬県みなかみ中学校 2年 久保 昂

- 287 夏休みお祭りに花火見にいったら カップルだらけうらやましいな
群馬県みなかみ中学校 2年 眞庭 梨桜
- 288 バタバタと足音たてる愛猫の足元みればアシダカグモ
群馬県みなかみ中学校 2年 森下 琴葉
- 289 そろそろだカウントダウンが始まった一年ぶりの打ち上げ花火
群馬県みなかみ中学校 2年 原澤 芽生
- 290 そんなわけでも頭に浮かぶあの気持ち好きと言うこと言い難し
群馬県みなかみ中学校 2年 石井 仁
- 291 いつもだらけて毎日がすぎ今日から夏休み部活が始まるああがんばろう
群馬県みなかみ中学校 2年 高橋 唯人
- 292 夏休み セミがミンミン うるさいな 一緒に母も ピリピリしてる
群馬県みなかみ中学校 2年 大川 尊
- 293 此の試合 結果神様 ほほえまず 二対三で 試合終了
群馬県みなかみ中学校 2年 小池 拓翔
- 294 みなかみの バンジージャンプ 飛ぶときに 見える自然の町
群馬県みなかみ中学校 2年 村松 結人
- 295 休日は 何をしようか 考えた あの日なつかし 日曜の夕
群馬県みなかみ中学校 2年 名地 咲結
- 296 起きないと 分かっているよ 頭では 起きての声と 二度目のアラーム
群馬県みなかみ中学校 2年 名地 咲結
- 297 あつい夜 君と行った 夏祭り ゆかた姿が 美しいな
群馬県みなかみ中学校 2年 狩野 結莉亜
- 298 予知ノート 君の命が つきること 知ってしまった 君が好きだと
群馬県みなかみ中学校 2年 原澤 光輝
- 299 僕の声 君に届かぬ 夢の中 恋した君を さびしく見つめ
群馬県みなかみ中学校 2年 原澤 光輝
- 300 くじをひく 席を移動し 窓席に 夏の暑さも どこか涼しい
群馬県みなかみ中学校 2年 Mcnamara Hana
- 301 川遊び 初めの一步 ふみだせず 友が始めた カウントダウン
群馬県みなかみ中学校 2年 Mcnamara Hana
- 302 放課後に グリコのリズムで 帰る時 深まっていく みんなの絆
群馬県みなかみ中学校 2年 Mcnamara Hana
- 303 そらを見る いびつな雲が 流れてく 大好きな人 見てくれているかな
群馬県みなかみ中学校 2年 阿部 蓮
- 304 部活後 汗が流れて 光る肌 これは私が 頑張った証
群馬県みなかみ中学校 2年 阿部 蓮
- 305 友達と 恋話をする 午前二時 好きな子よりも 好きな友達
群馬県みなかみ中学校 2年 飯野 颯介
- 306 からあげに手ばさきいちご手作りカレー お泊り会で 夜の宴会
群馬県みなかみ中学校 2年 飯野 颯介
- 307 カエルが帰る真イカはいかが猿が去る 寒いダジャレでぎずな深まる
群馬県みなかみ中学校 2年 飯野 颯介
- 308 目から出る 涙は一つ 君のこと 瞳に映る あの日の笑顔
群馬県みなかみ中学校 2年 荒木 愛菜
- 309 心無き 八方美人を 装った 決して帰らぬ もうあの世には
群馬県みなかみ中学校 2年 荒木 愛菜
- 310 どうしても言い出せぬことただ一つ 小さなけんか今この時も
群馬県みなかみ中学校 2年 荒木 愛菜
- 311 授業中耳から耳へ皆の声 耳から脳へあの人の声
群馬県みなかみ中学校 2年 室橋 彩音
- 312 窓の外瞳に映るは桜の木 春夏秋冬いつでも輝け
群馬県みなかみ中学校 2年 室橋 彩音

325	いきなりね短歌をかけといわれても 授業が終わりまだ終わらない 群馬県みなかみ中学校 2年 林 優 成	324	この季節 席がえをして エアコンも せんぶうきすら とどかない席 群馬県みなかみ中学校 2年 馬場 奏 祐	323	とつぜんの流しそうめんうれしすぎ急にミニトマト流すおばあちゃん 群馬県みなかみ中学校 2年 深津 由依子	322	かわりますだいじょぶだとことわったあのグラセン少し気まづい 群馬県みなかみ中学校 2年 深津 由依子	321	朝起きて 毎回二度ね おこられる 早く起きたい 目を覚ましたい 群馬県みなかみ中学校 2年 佐藤 美羽	320	梅雨の時期 家から出ると かみがなない ストレスになる かんべんしてよ 群馬県みなかみ中学校 2年 佐藤 美羽	319	登下校 毎日見える 桜の木 ピンクに染まり 春がはじまる 群馬県みなかみ中学校 2年 山本 愛奈	318	天の川 夜空みあげて 七夕の 年に1度の 2人の時間 群馬県みなかみ中学校 2年 山本 愛奈	317	無意識に進む時間 気づいたら夜食変わる旬の食材 群馬県みなかみ中学校 2年 小野 雪里彩	316	ぶかぶかと青いじゅうたん一面に 白い綿あめつまんで食べる 群馬県みなかみ中学校 2年 小野 雪里彩	315	夏の空過ぎてはやくも秋の雲 暑い思い出夕立のよう 群馬県みなかみ中学校 2年 阿部 壮真	314	すきとおる炭酸水を飲み干して 見上げて暗い夕暮れの空 群馬県みなかみ中学校 2年 阿部 壮真	313	打つときに力入れるとどっかい ドライブかけるとネットにあたる 群馬県みなかみ中学校 2年 鈴木 陸斗
338	バスに乗り 僕ものせてと ぶゆ入る その後にがし 一件落着 群馬県みなかみ中学校 2年 本多 杏生	337	友だちと 一緒に行った 夏まつり ほしい物が 売られていない 群馬県みなかみ中学校 2年 本多 杏生	336	たのしみは いえにかえり いぬとあそぶ あそんどほえる うちの愛犬 群馬県みなかみ中学校 2年 佐藤 一花	335	みなかみのしぜんのうたが目覚ましていつもぜいたくわたしのあさだ 群馬県みなかみ中学校 2年 田村 綺楽里	334	テレビつけニュース見るともう気温めっちゃ高くてすぐくおどろく 群馬県みなかみ中学校 2年 鈴木 栞菜	333	蒸し暑い土曜の部活疲労感 風よ吹いてと願う自分よ 群馬県みなかみ中学校 2年 吉沢 沙莉	332	波の音 青く輝やく 夏の海 冷たい水で はしゃいで遊ぶ 群馬県みなかみ中学校 2年 ベネット 美嵯	331	移りゆく景色と過ぎゆくこの時と 他を待たずして離れゆく今日と 群馬県みなかみ中学校 2年 宮下 陸	330	鳥みたいに飛んでみたいなゆうがにね羽をひらいていざ行こう！ 群馬県みなかみ中学校 2年 番場 栞唯	329	窓開けて空を見上げて見えるのはひとつ輝く 宵の明星 群馬県みなかみ中学校 2年 小池 舞輝	328	あたる水 ふと見上げると 虹色の おいかけるのは 親友だけ 群馬県みなかみ中学校 2年 横山 雪	327	夏休み 暑さの中の 自由時間 何をしようか 悩み続ける 群馬県みなかみ中学校 2年 池田 翔	326	県大会歓声ひびく試合開始、皆が私に視線を向ける。 群馬県みなかみ中学校 2年 真庭 絢香

339	おばあさん、よろよろ近づき、問いかける、カモウまそうと問いかける	群馬県みなかみ中学校	2年	倉知 虎太郎
340	ねむい夜 熱くておきる 熱帯夜	群馬県みなかみ中学校	2年	倉知 虎太郎
341	月見の日 手に取れるこの 名月を 串刺しにして 食べてみようか	群馬県みなかみ中学校	2年	森下 晃利
342	富士の山 光輝く その時に 初めて感じる 新年を	群馬県みなかみ中学校	2年	森下 晃利
343	ただいまとドアを開ければおかえりとこのあたりまえが続くといいな	群馬県みなかみ中学校	2年	林 こはる
344	ぼくは枝上へ上へと伸びたいな あの上にいる葉のもと届かん	群馬県みなかみ中学校	2年	林 こはる
345	過去の事 時間が過ぎて 思い出す 今と過去との 脳のはざまに	群馬県みなかみ中学校	2年	真霜 綾斗
346	森の中 せみの鳴き声 響きわたる その声きいて 私落ちつく	群馬県みなかみ中学校	2年	深津 織羽
347	カーネーション 母に伝える ありがとう 大切に 感謝の気持ち	群馬県みなかみ中学校	2年	深津 織羽
348	暑さ増す みーんみんなとなく せみの声 いつまで鳴くかな 短い命	群馬県みなかみ中学校	2年	山元 紗衣
349	クリスマスおいしい料理牡蠣と河豚とてもごうかでもおいしいそう	群馬県みなかみ中学校	2年	清水 孝紘
350	たんじょうび おいしい料理たくさんだおたのしみはね大きいケーキ	群馬県みなかみ中学校	2年	清水 孝紘
351	キャンプ中 キャンプファイヤーで あたたまる 夜おそくまで おきていいかな	群馬県みなかみ中学校	2年	林 完太
352	にぎやかな 笑い声きえ 1人ゆく 朝と帰りで ちがう光景	群馬県みなかみ中学校	2年	原澤 杏佳
353	真夜中や 空見わたせば 宇宙の 多くの星は こらの夢のせ	群馬県みなかみ中学校	2年	原澤 杏佳
354	上向いて ひかり輝く 向日葵に ぼくもあこがれ 空を見上げる	群馬県みなかみ中学校	2年	原澤 杏佳
355	友達と 遊んだ日々は パーリナイ 忘れるなんて ことありえない	群馬県みなかみ中学校	2年	植出 周芯
356	未来への つばさを持った 僕達は いつか飛べるさ I can fly	群馬県みなかみ中学校	2年	植出 周芯
357	手をあわせ 願ひかなえと 星ながめ 涙のしづく 流星のよう	群馬県みなかみ中学校	2年	ウッド 瑠奈
358	揺れる花 僕を見つめて ぬれる花 雨を見つめて くちてゆく思い	群馬県みなかみ中学校	2年	ウッド 瑠奈
359	夜の空 うつくしく輝く 火の花を 一人ながめて 友ほしいかな	群馬県みなかみ中学校	2年	ウッド 瑠奈
360	姪がふとありがとう言うめずらしいながあつたのドーナツ食べてる	群馬県みなかみ中学校	2年	小林 優月
361	楽しみは お風呂で作る シャボン玉 体を洗う ついでにつくる	群馬県みなかみ中学校	2年	小林 優月
362	来年は 5キロやせるぞ 決めたのに 達せいできず 来年もまた	群馬県みなかみ中学校	2年	小林 優月
363	考える うえを目指して 泥くした まだまだならば 努力が足りない	群馬県みなかみ中学校	2年	松島 姫絆
364	短いな あつというまの 一年間 入学式が 昨日のようだ	群馬県みなかみ中学校	2年	松島 姫絆

377	376	375	374	373	372	371	370	369	368	367	366	365
みなかみ町有名な山谷川岳たくさんふる雪の山	夏休みサイクリングで僕と父前橋から川越まで	お父さんサイクリングに朝うどんおいしかったよがんばるくらい。	夏休み家族旅行で山梨に僕は初めてリニアを見たよ。	みなかみは綺麗な水が輝いて森も多くて生き物がいる	花火はね七月初旬おぼん時期空にまう花ドッカンドン	ドア開ける 茶色い天使僕の犬 しつぽを振って疲れをいやす	実はいや 苦手なコーラ出されたよ こんな暑い日飲むしかないな	バッシャンと 岩から飛んだ部活後 疲れと暑さ川に流れる	出発だ 田舎飛びたち海の果て 数えきれない人と出会うぞ	夕暮れに 指にとまった 赤とんぼ 君は前だけ 向いてていいな	汗かいて 解放感得る 真っ昼間 ジュースを飲んで やつと自由だ	真夜中に ここはどこだと目を覚ます ミミズクもいう ここはどこだと
群馬県みなかみ中学校 2年 小野 竜聖	群馬県みなかみ中学校 2年 小野 竜聖	群馬県みなかみ中学校 2年 小野 竜聖	群馬県みなかみ中学校 2年 小野 竜聖	群馬県みなかみ中学校 2年 堀 連 央 音	群馬県みなかみ中学校 2年 金子 賢斗	群馬県みなかみ中学校 2年 ミックガクン 素海	群馬県みなかみ中学校 2年 ミックガクン 素海	群馬県みなかみ中学校 2年 ミックガクン 素海	群馬県みなかみ中学校 2年 ミックガクン 素海	群馬県みなかみ中学校 2年 松島 姫絆	群馬県みなかみ中学校 2年 松島 姫絆	群馬県みなかみ中学校 2年 松島 姫絆
390	389	388	387	386	385	384	383	382	381	380	379	378
うたたねの 最中響く 爆発音 窓をのぞくと 大きな花火	みなかみの谷川岳で山登り大変だけど楽しいな	みなかみのラフティング六人でやるアウトスポーツとても楽しい	夏の夜 遅刻してくる 汗だくの君と花火の音	祖父の家桜並木にあるお墓 毎年来たい先祖に会いに	梨林檎 黄色い幸水 赤いふじ どっちがおいしい どっちもおいしい	青い空 大きな鳥が 遠くで飛んだ 出会いの季節 春のクマタカ	好奇心で ご近所の山 登ったら 振りかえ見えるは 雪の谷川	夏休み 宿題の山 多すぎる それでもぼくは ゲーム大好き	まちわびた 流れるブルー 入れるな 汗を流せて きもちがよいな	夏休み 家でゴロゴロ したいけど 宿題多い まじ疲れるな	水田の稲穂と映える三峰の木々は明るい紅黄に染まる	利根川にそつと流れる緑の葉ゆらりゆらりと夏と流れて
群馬県みなかみ中学校 3年 瀧 澤 葵	群馬県みなかみ中学校 3年 木村 未来	群馬県みなかみ中学校 3年 金古 希愛々	群馬県みなかみ中学校 3年 高柳 愛琉	群馬県みなかみ中学校 3年 中村 心花	群馬県みなかみ中学校 3年 ベネット 大峨	群馬県みなかみ中学校 3年 ベネット 大峨	群馬県みなかみ中学校 3年 山賀 瑛太	群馬県みなかみ中学校 3年 瀧井 奏楽	群馬県みなかみ中学校 3年 瀧井 奏楽	群馬県みなかみ中学校 3年 星野 倭	群馬県みなかみ中学校 3年 星野 倭	群馬県みなかみ中学校 3年 星野 倭

391	アウトドア 自然の中で 楽しめる 冬も楽しい スキーにスノーボー	群馬県みなかみ中学校 3年 田村 璃桜
392	ユネスコの登録地には観光と豊かな自然きれいだなあと	群馬県みなかみ中学校 3年 杉木 瑠
393	おみこしの 音が近づき 目を閉じて さわがしいのが 夏の思い出	群馬県みなかみ中学校 3年 高橋 莉央
394	いつもの日 たまにうるさい うちの母 そこに乗っかる せみの声	群馬県みなかみ中学校 3年 馬場 亜優奈
395	早く起き 支度かんりよう いってきます 母に言われる 部活ないよと	群馬県みなかみ中学校 3年 大谷 苺花
396	夏休み受験に向けてがんばるが日がすぎてゆき終わる青春	群馬県みなかみ中学校 3年 松本 桃佳
397	暑いのに、祭りの熱気 求めてる カエルもセミも あの熱気が 愛おしい	群馬県みなかみ中学校 3年 田村 弥来
398	人生は 笑って泣いての 一度きり 正解はない 自分の道へ	群馬県みなかみ中学校 3年 鈴木 心美
399	酷暑の日 強い日射しに 当たる山々 我らと同じ 汗をかいてる	群馬県みなかみ中学校 3年 服部 陽向
400	夏の朝元気良く鳴くホトトギス夏限定の目覚まし時計	群馬県みなかみ中学校 3年 小野 李桜
401	幾度も練習重ねた三年間 全力尽くす最後の大会	群馬県みなかみ中学校 3年 松原 大郎
402	夏休み 暑苦しい日 みんなで 仲良く遊ぶ 川にダイブ	群馬県みなかみ中学校 3年 阿部 颯太
403	夏暑く クーラーつけて ゲームして 親に怒られ 机に向かう	群馬県みなかみ中学校 3年 田村 宗翼
404	夏休み戯れられず異議があり、 現受験生その意義を知る。	群馬県みなかみ中学校 3年 岡村 洋杜
405	メンタルと実力ともに成長し次の ステップ課題沢山	群馬県みなかみ中学校 3年 今井 颯汰
406	受験生みんなに言われあせるけど 実感わかぬ夏も終わりに	群馬県みなかみ中学校 3年 今井 颯汰
407	サッカー部最後の試合おしかった 最高のチームもうもどれない	群馬県みなかみ中学校 3年 今井 颯汰
408	夏休みなんでこんなに早いのか 沢山遊び沢山寝た日	群馬県みなかみ中学校 3年 今井 颯汰
409	引退しまらぬはずの夏休み友達いれば乗り越えられた	群馬県みなかみ中学校 3年 今井 颯汰
410	夏休み 幼なじみと お泊り会 去年よりも 大きな川の水	群馬県みなかみ中学校 3年 内山 暁
411	夕暮れに 庭から見上げる 西の空 くもの色変わり ひぐらしも鳴く	群馬県みなかみ中学校 3年 鈴木 悠馬
412	追いくる受験の壁をこえたくて桜を夢見てペンを走らす。	群馬県みなかみ中学校 3年 鈴木 璃心
413	夏の夜友と交わしたヒソヒソ話冷房の部屋そこだけ暑し	群馬県みなかみ中学校 3年 瀧澤 優羽
414	おいわたしいつまでアニメ見てるんだ受験生だろおい受験生	群馬県みなかみ中学校 3年 坂大 穂典
415	夏休み 部活に勉強 オープンスクール 私の夏は どれいった	群馬県みなかみ中学校 3年 石原 苺奈
416	十五年思いを馳せたあの家の 昭和の香りあとかたもなく	群馬県みなかみ中学校 3年 宝利 百華

429	夏の夜ひととき大きな蝉の声 なぜだか今日は儚く響く 群馬県みなかみ中学校 3年 芳賀 衣織	428	なつかしい 思い出巡り 楽しんだ 中学最後の 夏休み 群馬県みなかみ中学校 3年 宮嶋 珠里	427	玄関に誰かが置いた夏野菜陽に照らされて多彩に煌めく 群馬県みなかみ中学校 3年 吉規 杏	426	夏休み 友達とした バーベキュー 楽しかったな 夏の思い出 群馬県みなかみ中学校 3年 林 あかり	425	夏休み 今日のお昼は そうめんだ 明日も明後日も そうめんだ 群馬県みなかみ中学校 3年 原 希継	424	せみの鳴く 淡い暗にも 鮮明に 笑顔のあの子が 手に持つ火花 群馬県みなかみ中学校 3年 金子 すず	423	三年の最後の夏で陽炎の中に見えるや切なさよ 群馬県みなかみ中学校 3年 清水 杏	422	みなかみを旅の中一息つくために宝川の湯につかる 群馬県みなかみ中学校 3年 櫻井 柊	421	フィールドをボールを持って駆け巡り点を取り合うそれがホッケー 群馬県みなかみ中学校 3年 小林 愛翔	420	砂浜だ夏空の下賑わってざぶざぶと鳴く大海原 群馬県みなかみ中学校 3年 佐藤 叶騎	419	兄と姉仲よくゲームしたときにうるさくしすぎ怒られた夏 群馬県みなかみ中学校 3年 櫻井 道治	418	兄たちが帰省しに来て遊んだらみな刺されたにくい小虫に 群馬県みなかみ中学校 3年 櫻井 道治	417	吹割に雪解け水を含ませて新緑揺らぎ人を惹きつけ 群馬県みなかみ中学校 3年 山崎 愛衣
442	全国の 晴れ舞台に 行けたこと 夏の思い出 最高すぎや 群馬県みなかみ中学校 3年 横坂 優奈	441	甲子園 見ながら食べた かき氷 気づいたら溶けてる かき氷 群馬県みなかみ中学校 3年 石橋 拓弥	440	夏休み宿題とのにらめっこずっとゲームでやらない課題 群馬県みなかみ中学校 3年 佐久間 悠維	439	青春が あれよあれよと過ぎ去る日 のろしが落ちる 従前において 群馬県みなかみ中学校 3年 戸丸 ちなつ	438	夏休み 峠に行くと スポーツカー ぼくものりたい スポーツカー 群馬県みなかみ中学校 3年 片野 湊	437	夏休み なにをしようか まよったら なにもしないで よいこはねむる 群馬県みなかみ中学校 3年 杉木 珀飛	436	雪山の 頂上見れば 朝焼けが 雪にうつされ 赤く煌めく 群馬県みなかみ中学校 3年 石 飛 柚	435	夏の期間 膨大な量 宿題が やってもやっても 終わらない 群馬県みなかみ中学校 3年 田原 要	434	お祭りの夜ふと思い出したこのやたいよく親と来てた幼少期 群馬県みなかみ中学校 3年 阿部 快斗	433	夏のあつい日 川風あびて 涼しくなる 今日のごろ 群馬県みなかみ中学校 3年 原澤 睦弥	432	川の水とどまることなく流れゆく自由に生きたい自分の見本 群馬県みなかみ中学校 3年 西ノ村 悠真	431	暑き日に 予兆なくして 豪雨くる ぬれるの注意 かさをもて 群馬県みなかみ中学校 3年 金井 陸	430	真夏日 きこえてくるよ 緑一色の山々から セミの合唱 群馬県みなかみ中学校 3年 畠山 空

455	秋の空少し涼しい風の中少し残ったあの夏模様 山口県光井中学校 3年 渡辺 真紘	443	みなかみの、自然の中で、生きてきて、このままずっと、生きていたい 群馬県みなかみ中学校 3年 赤石 瑞樹
454	秋の暮れ部活を終えて爽籟が火照った体を慰撫してくれる 山口県光井中学校 3年 藤井 颯大	444	夏休み 友とあそぶ 花火片手に みあげる空 群馬県みなかみ中学校 3年 古屋 碧桜奈
453	今の空気日陰はとても涼しいがひなたは夏を引きずっている 山口県光井中学校 3年 西村 優希	445	夏の空 入道雲に 誘われて 少し背伸びして 大人近づく 群馬県みなかみ中学校 3年 中村 沙羅
452	台風が二回目さすがにあきました祭りもあるから来なくていいです 山口県三輪小学校 6年 木村 惺磨	446	夏休み 勝負どころと 先生が やるしかないな 受験勉強 群馬県みなかみ中学校 3年 西山 智彩
451	違う名でまったく同じ音がするなぜ作ったのか異名同音は 山口県浅江小学校 6年 中村 力	447	真夜中に夏の終わりを告げながら咲く夏の花美しきかな 群馬県みなかみ中学校 3年 原澤 結愛
450	ビリもドベも寂しい言葉試合結果はベベと答える 山口大学教育学部附属光中学校 2年 横道 玄	448	長いはず長いはずの夏休み何もしず過ごせば長く感じず 群馬県みなかみ中学校 3年 山本 武瑠
449	八月の終わりの空気を四枚の羽でプレスし飛ぶ赤とんぼ 山口大学教育学部附属光中学校 2年 横道 玄	445	夏の空 入道雲に 誘われて 少し背伸びして 大人近づく 群馬県みなかみ中学校 3年 中村 沙羅
448	長いはず長いはずの夏休み何もしず過ごせば長く感じず 群馬県みなかみ中学校 3年 山本 武瑠	446	夏休み 勝負どころと 先生が やるしかないな 受験勉強 群馬県みなかみ中学校 3年 西山 智彩
447	真夜中に夏の終わりを告げながら咲く夏の花美しきかな 群馬県みなかみ中学校 3年 原澤 結愛	447	真夜中に夏の終わりを告げながら咲く夏の花美しきかな 群馬県みなかみ中学校 3年 原澤 結愛
446	夏休み 勝負どころと 先生が やるしかないな 受験勉強 群馬県みなかみ中学校 3年 西山 智彩	448	長いはず長いはずの夏休み何もしず過ごせば長く感じず 群馬県みなかみ中学校 3年 山本 武瑠
445	夏の空 入道雲に 誘われて 少し背伸びして 大人近づく 群馬県みなかみ中学校 3年 中村 沙羅	449	八月の終わりの空気を四枚の羽でプレスし飛ぶ赤とんぼ 山口大学教育学部附属光中学校 2年 横道 玄
444	夏休み 友とあそぶ 花火片手に みあげる空 群馬県みなかみ中学校 3年 古屋 碧桜奈	450	ビリもドベも寂しい言葉試合結果はベベと答える 山口大学教育学部附属光中学校 2年 横道 玄
443	みなかみの、自然の中で、生きてきて、このままずっと、生きていたい 群馬県みなかみ中学校 3年 赤石 瑞樹	451	違う名でまったく同じ音がするなぜ作ったのか異名同音は 山口県浅江小学校 6年 中村 力
456	暑い中涼しい風が吹いてくる残暑の中で秋が始まる 山口県光井中学校 3年 中野 悠斗	452	台風が二回目さすがにあきました祭りもあるから来なくていいです 山口県三輪小学校 6年 木村 惺磨
457	暑い夏がずっとでしゃばるそのせいで四季から秋は仲間はずれだ 山口県光井中学校 3年 徳山 裕大	453	今の空気日陰はとても涼しいがひなたは夏を引きずっている 山口県光井中学校 3年 西村 優希
458	秋の気配朝寒感じ肌寒い紅葉の増えてとても綺麗だ 山口県光井中学校 3年 佐藤 睦月	454	秋の暮れ部活を終えて爽籟が火照った体を慰撫してくれる 山口県光井中学校 3年 藤井 颯大
459	朝晩は日中に比べ涼しいな秋の訪れ肌で感じる 山口県光井中学校 3年 上本 大知	455	秋の空少し涼しい風の中少し残ったあの夏模様 山口県光井中学校 3年 渡辺 真紘
460	店先で去年はあまり見なかった秋刀魚は並ぶ高い秋刀魚が 山口県光井中学校 2年 中村 悠真	456	暑い中涼しい風が吹いてくる残暑の中で秋が始まる 山口県光井中学校 3年 中野 悠斗
461	夏よりも高く見えてる秋の空思わず見上げ不思議と思う 山口県光井中学校 2年 藤井 彪真	457	暑い夏がずっとでしゃばるそのせいで四季から秋は仲間はずれだ 山口県光井中学校 3年 徳山 裕大
462	秋なのに残暑が続く長月に栗が落ちてるテニスコートに 山口県光井中学校 2年 棟居 凜	458	秋の気配朝寒感じ肌寒い紅葉の増えてとても綺麗だ 山口県光井中学校 3年 佐藤 睦月
463	起床後の水道の水冷たいな昼は暑いけど朝夕涼しい 山口県光井中学校 2年 嵐川 紗帆	459	朝晩は日中に比べ涼しいな秋の訪れ肌で感じる 山口県光井中学校 3年 上本 大知
464	飼猫とこたつに入って食べたいな冬といえはの果物みかん 山口県光井中学校 2年 嵐川 紗帆	460	店先で去年はあまり見なかった秋刀魚は並ぶ高い秋刀魚が 山口県光井中学校 2年 中村 悠真
465	カタツムリ形はとても可愛いな雨の日外に登場してる 山口県光井中学校 1年 清家 麗羽	461	夏よりも高く見えてる秋の空思わず見上げ不思議と思う 山口県光井中学校 2年 藤井 彪真
466	秋が来た夏より少しは涼しいよ夏はエアコンないと暑すぎた 山口県光井中学校 1年 沖田 乙仁	462	秋なのに残暑が続く長月に栗が落ちてるテニスコートに 山口県光井中学校 2年 棟居 凜
467	わたしはね プールが思い出 理由はね 家族でいった 思い出プール 長野県塩尻東小学校 4年 水間 乃江	463	起床後の水道の水冷たいな昼は暑いけど朝夕涼しい 山口県光井中学校 2年 嵐川 紗帆
468	わたしはね 花火が大好き 理由はね いろんな色があるから大好き。 長野県塩尻東小学校 4年 水間 乃江	464	飼猫とこたつに入って食べたいな冬といえはの果物みかん 山口県光井中学校 2年 嵐川 紗帆

481	漢字には 面白い漢字 たくさんだ 例えばカレーは 鹿麗と書いたり 長野県塩尻東小学校 5年 高津 梨佐	480	森の中 耳を澄ますと 聞こえてくる ざわざわざわと 森の声 長野県塩尻東小学校 5年 高津 梨佐	479	ふってくる 春には桜 梅雨は雨 秋には木の葉 冬には雪が 長野県塩尻東小学校 5年 高津 梨佐	478	一週間 月火水木 金土日 過ぎてゆくのが あつという間 長野県塩尻東小学校 5年 高津 梨佐	477	雨がふる ポツンポツンと 水たまり 波紋広がる きれいなもよう 長野県塩尻東小学校 5年 高津 梨佐	476	秋の花 夏の花もね さいてきた どちらもすきだ どうしようかな 長野県塩尻東小学校 4年 青木 萌杏	475	もうすぐね 夏が終わるよ さびしいな 夏の思いで 思い出そうね 長野県塩尻東小学校 4年 青木 萌杏	474	虫の音 耳をすませば 聞こえるよ リンリンゴロゴロ聞こえてくるよ 長野県塩尻東小学校 4年 小松 春翔	473	なつかしい初めてのヒット打った時うれしなみだすごくでていたな 長野県塩尻東小学校 4年 小岩井 彩莉	472	もうすぐで夏が終わるよさびしいなたくさんできたおもいがある 長野県塩尻東小学校 4年 小岩井 彩莉	471	水泳で泳ぐきょうぎはバタフライがんばったらねごうかくしたよ 長野県塩尻東小学校 4年 小岩井 彩莉	470	夏休み家族旅行で大阪へ楽しいかわりとてもあついいよ 長野県塩尻東小学校 4年 小岩井 彩莉	469	なつかしい 初めてうてた スパイクが コーチにすごい と言ってもらえた。 長野県塩尻東小学校 4年 水間 乃江
494	雨の音 いろんな表現 あるけれど かみなりの音 雨の音かな 長野県塩尻東小学校 5年 堀田 湖花	493	みんなとね 短歌作ると 楽しいな まだ作りたい 楽しいからね 長野県塩尻東小学校 5年 堀田 湖花	492	学校で あった出来事 たくさんある うれしいことも かなしいことも 長野県塩尻東小学校 5年 堀田 湖花	491	クラブでは ちがう音がね 聞こえるよ その音ヒントに 短歌作ろう 長野県塩尻東小学校 5年 堀田 湖花	490	友達いう 字がきれいだと 私ほね 上手じゃないと 思うのだけど 長野県塩尻東小学校 5年 堀田 湖花	489	金魚はね実は中国生まれですヒブナと言われ歴史深いな 長野県塩尻東小学校 5年 小松 原野	488	キウイはねオスめすがある特別だ花もきれいで実もおいしいな 長野県塩尻東小学校 5年 小松 原野	487	家の庭ざっ草だらけそれでもね夏は涼しいひなん所になる 長野県塩尻東小学校 5年 小松 原野	486	ぶどうはねじつはせかいで人気ですヨーロッパとかよいフルーツだ。 長野県塩尻東小学校 5年 小松 原野	485	わたしはね 毎日月を 見ているよ いつもきれいな お月様だよ 長野県塩尻東小学校 5年 三枝 美遥	484	好きな本 特別にだよ 教えちゃう こぐまのクーク ものがたり 長野県塩尻東小学校 5年 三枝 美遥	483	そろそろだ もうすぐ冬が くる実は 冬はわたしの たんじょう日だ 長野県塩尻東小学校 5年 三枝 美遥	482	クリスマス 楽しみだけど もうひとつ 楽しみなこと たんじょう日だよ 長野県塩尻東小学校 5年 三枝 美遥

495	最近は	よく夕方に	聞こえるね	りんりんりと	鈴虫の声
496	私はね	最近すごく	ペットがね	飼いたくなるよ	猫が飼いたい
497	私はね	小説すごく	大好きで	見ると思わず	ずっと見ちゃうよ
498	おばあちゃん	花をいっぱい	育ててる	すごくきれいに	育っているよ
499	短歌をね	最近作る	ことすごく	楽しすぎてね	すぐできちゃうよ
500	楽しみだ	どくどくこどうが	なっちゃうよ	だってもうすぐ	誕生日だから
501	初めてね	猫カフェ行ったら	いやされた	日々のつかれも	とてもとれるよ
502	さらさらと	流れてゆく	川の水	輝く水面	綺麗だな
503	夜の日に	キラキラ輝く	星の空	素敵な夜を	ずっと過ごした
504	抜け殻を抜け出したい	とないて	いる抜け出したけど	少しさみしい	
505	汗しみて	目から涙がこぼれ	落ち楽しかった	あの日々思う	
506	十二時に	更新ボタンを	クリックし	気持ちが高まる	あなたのおかげ
507	伝えたい私の想い	伝わらず	画面越しでも	目の前にいても	
508	伝わった?	私の想い	あなたへと	あなたが愛で	満たされてほしい
509	色おちる雨に	うたれて空っぽ	のまだ生きている	セミの抜け殻	
510	塾がえり	満月にみとれ	歩くなか聞こえて	びびるワオンと	鳴き声
511	夜の町	一人で歩く	ゆつくりとほんわか	光るちようちん	明かり
512	夏祭り	屋台がたくさん	選んでる食べすぎ	ちゃってお腹	ふくれた
513	今日もまた	木の頂点を	目指して行く	急がないと	成虫になる
514	登山中	子供心をくすぐられ	洗濯物をくしゃっと	つぶす	
515	やっときた	殻を破って	脱ぎ捨てて	涼しい世界に	敵しい世界に
516	街並みで	空夜の秋に	ささやかな提灯	見据え酔い	しれている
517	ひらひらと	くぼみを覆う	雲の影そこにか	かるは鉄塔の影	
518	秋の入り	真っ赤に染まる	利根の山	大きな影は	巨人の如し
519	日曜日	雨音を聞いて	目をつぶる	まあ眠りにつく	幸せな日々
520	暑い夜は	虫の鳴き声騒がしく	時経てば	声も暑さも消えて	寂しく

533	帰り道 暗闇向かい登る坂 独り静かに 光求めて 群馬県沼田高校 1年 後藤 英太	521	異常な暑さ かき氷のひとつ 風鈴鳴る音 最後の花火の音 夏の終りがさみしい 群馬県沼田高校 1年 追立 莉臣
532	かぎりある地球の水失さない行うべきは水リサイクル 群馬県沼田高校 1年 木樽 優太	522	庭の木に卵温める鳩一羽もう一匹はどこに行った 群馬県沼田高校 1年 大平 睦己
531	下校途中傘を忘れて雨濡れる電車で凍える夏の始まり 群馬県沼田高校 1年 熊川 陽登	523	ゆきのやま登り終わり数日後には車がさび始めた 群馬県沼田高校 1年 小野 慎輔
530	なんとなく空見上げたら夕焼けや心落ち着く酉の刻 群馬県沼田高校 1年 熊川 陽登	524	夏大会負けて聞くのは知らない校歌次は必ず聞かずに歌うぞ 群馬県沼田高校 1年 小渕 晴太
529	秋の夜 月がきれいに 見えていて ある日の満月 とてもきれいだ 群馬県沼田高校 1年 熊谷 順利	525	練習終わってミーティング先生の声より聞こえる鈴虫の声 群馬県沼田高校 1年 小渕 晴太
528	新しき 沼田高校 顔を見せ されども先は 程遠い 群馬県沼田高校 1年 清野 奏人	526	ゲーセンの クレーンゲーム なにを獲る 商品でなく 獲れた喜び 群馬県沼田高校 1年 清野 奏人
527	信じたい 狐の窓を してみると 見えないものが 見えてくるはず 群馬県沼田高校 1年 清野 奏人	539	先輩とバレーボールと体育館 汗流れても想い流れぬ 群馬県沼田高校 1年 高橋 拓利
546	帰宅して君の顔をみるとなんだか気持ちになる 群馬県沼田高校 1年 戸部 拓真	538	炎天下杳摺またぎ別世界 「ここは天国？」笑みがこぼれる 群馬県沼田高校 1年 高橋 拓利
545	白かった練習着に努力と思い出で色がつく 群馬県沼田高校 1年 戸部 拓真	537	涼しげや杳摺またぎ別世界 鋭い日差し肉も焼かれる 群馬県沼田高校 1年 高橋 拓利
544	培った努力とともに仲間と挑む魂の試合 群馬県沼田高校 1年 戸部 拓真	536	部活終え スマホに目をやり 歓喜する あの人からの おつかれメール 群馬県沼田高校 1年 高野 一臣
543	よく見ると一本浮かぶ茶柱が今日の試合勝てる気がする 群馬県沼田高校 1年 坪井 颯佑	535	男子校 行事始まりや 土気上げて 女子いなくとも 青春謳歌 群馬県沼田高校 1年 高野 一臣
542	自転車を通う緩い下り坂帰りは上りで足はパンパン 群馬県沼田高校 1年 田島 蒼惟	534	この者は 光なくして 生きる者 夜に散りゆく姿は あわれなものぞ 群馬県沼田高校 1年 後藤 佑太郎
541	夏休み部活に追われ疲れたが 静かなところに虫の鳴き声 群馬県沼田高校 1年 竹中 瑛太		
540	夏と秋変わり変わらぬ暖かさ その日で違う雨と風より 群馬県沼田高校 1年 竹中 瑛太		

559	水族館とても多かった人通り やつぱり違う東京都 群馬県沼田高校 1年 星野 瑛太
558	寝るときに遅れて後にやってくるいやしのペット 群馬県沼田高校 1年 星 大和
557	登下校勉強部活でたまった疲れをゆいっこでとる時間 群馬県沼田高校 1年 星 大和
556	夏の日の運動中の涼しい風 ほどよく吹いて心地よくなる 群馬県沼田高校 1年 林 悠都
555	秋の風下校中に強めに吹き 夏の暑さが思い出せない 群馬県沼田高校 1年 林 悠都
554	高山は 夜空が綺麗 それがいい 他にはなにも ひきつけられない 群馬県沼田高校 1年 林 司馬
553	飼い猫に 忙しい時 構ってと ひまなときには 寝ているのに 群馬県沼田高校 1年 林 司馬
552	男子校 猿しかいない 動物園 にぎやかすぎて 青春だ 群馬県沼田高校 1年 根岸 勝瑛
551	「明日から」そう言い続けてテスト前気付けば夜中の二時三時 群馬県沼田高校 1年 南雲 杏介
550	夢に見た高校生活始まった気付けば課題と鬼ごっこ 群馬県沼田高校 1年 南雲 杏介
549	秋の風稲穂が揺れる爽やかに風を切る音とても気持ちいい 群馬県沼田高校 1年 中山 素
548	夏祭り 屋台をまわり 楽しめば その日の夜は ぐっすり寝れる 群馬県沼田高校 1年 永井 僚
547	プレッシャー最後の試合投げた球 ミットに収まり笑顔あふれる 群馬県沼田高校 1年 富沢 悠真
572	ほぼ毎日部活だらけで筋肉痛休みがなかった夏休み 群馬県沼田高校 1年 山口 月兎
571	統合へ歴史名高い沼高の最初で最後の僕らの行事 群馬県沼田高校 1年 山口 月兎
570	雨宿りまだ見ぬ冬のそぼろ雪思えば夏が恋しいかな 群馬県沼田高校 1年 望田 忠勝
569	飛び起きて急ぎ制服着た後に自転車またがり光のごとく 群馬県沼田高校 1年 宮崎 浩太
568	強豪に打ちのめされた苦い夏くちびるかんでまた走り出す 群馬県沼田高校 1年 本多 智彦
567	草野球 夕陽に染まる グラウンドで 仲間の声で 絆を深める 群馬県沼田高校 1年 本多 一輝
566	スタンドから 声援ひびく 夏の空 一球のため 仲間と共に 群馬県沼田高校 1年 本多 一輝
565	バット振る 青空の下 夢を追い 一球入魂 心をひとつに 群馬県沼田高校 1年 星野 晃毅
564	近頃はなんかもつかくもしかしてとつても遅い反抗期かも 群馬県沼田高校 1年 星野 晃毅
563	夏休みどこにも行けず悔しいな来年こそはホテルに泊まる 群馬県沼田高校 1年 星野 晃毅
562	今年はねどこにも行けずさみしいな来年こそは東京いく 群馬県沼田高校 1年 星野 晃毅
561	将来は看護師になるそのために今できること大学へいく 群馬県沼田高校 1年 星野 晃毅
560	夏祭り久しぶりに会った同級生 あの頃と変わらぬヘアスタイル 群馬県沼田高校 1年 星野 瑛太

585	584	583	582	581	580	579	578	577	576	575	574	573
クラスマッチ汗と笑顔で駆け抜ける仲間と共にきずな深まる。	たのしみな クラスマッチが 延期して 普通授業 かなしいな	帰り道 先週とほぼ 同じ時間 明るかった空 暗くなっている	真か偽か 二択に絞れた 問題は なぜかだいたい 不正解	夏と冬 暑すぎ寒すぎ 地獄すぎ こんな世界に 終止符を打つ	悩み事 心配すぎて 夜寝れない どうせ来年 悩んでないのに	山々は 遠くになると 青くなる 空が青いのと 同じ理由か	早朝にふと目が覚め外見るとまだ空暗く夏の終わりを感ずる	四月頃玄関に巣作られる 幸せ運ぶツバメの家族	男子校時間過ぎゆく一瞬にこの思い出は残り続ける	登下校 部活終わりのラーメンは どんなんものより 最高だ	帰り道 家の明かりを 見つけると ほっと一息 温かい我が家へ	頭に浮かぶ魔法のセカイ電源群馬いつか群馬を変えたいのなら
群馬県沼田高校 1年 金子 成	群馬県沼田高校 1年 金井 悠悟	群馬県沼田高校 1年 加藤 絢一	群馬県沼田高校 1年 大淵 弘聖	群馬県沼田高校 1年 大淵 弘聖	群馬県沼田高校 1年 大淵 弘聖	群馬県沼田高校 1年 大高 悠貴	群馬県沼田高校 1年 大嶋 隼介	群馬県沼田高校 1年 内山 颯也	群馬県沼田高校 1年 猪熊 麗央	群馬県沼田高校 1年 青柳 柊里	群馬県沼田高校 1年 山崎 優大	
598	597	596	595	594	593	592	591	590	589	588	587	586
いつもより 大きな音で 咲いている 空を彩る 打ち上げ花火	争いは絶えず続きて世も末か平和の夢も遠く霞む日	やきにくくってさけのんでキマッてますぐばくすい。	かき氷課題に没頭時はすぎ皿に残った水たまり	深呼吸 夢と希望を背に 友との別れ また会えるとかかい いつまでも	叩くたび身体中まで響く音心揺らすはドラムのリズム	家の中スマホとの時間増えてゆき大切な時過ぎてゆく	夏祭り主役の花火見ていると心の中が満たされて嬉しい気持ちになる	室内でただひたすらに筆運ぶ空を走る大入道明日も雨が降る	夕焼けと中学の友と再会し 泣き笑った思い出を語り合った日	静かな夜耳にひびくメロディが心の奥に優しくこもる	教室の窓から見える桜の木新たな友と始まる日々	炎天下弱音吐きつつ坂走り選手権のため踏み出す一歩
群馬県沼田高校 1年 樋口 悠斗	群馬県沼田高校 1年 林 優舞	群馬県沼田高校 1年 長谷川 弦汰	群馬県沼田高校 1年 武井 蓮	群馬県沼田高校 1年 関根 知也	群馬県沼田高校 1年 関 悠翔	群馬県沼田高校 1年 清水 稜	群馬県沼田高校 1年 佐藤 幹太	群馬県沼田高校 1年 小池 杜和	群馬県沼田高校 1年 桐澤 諄	群馬県沼田高校 1年 桐澤 諄	群馬県沼田高校 1年 桐澤 諄	

599	散歩道 日、没すれば 黄金の穂 冷々たる風 共に揺らる	群馬県沼田高校 1年	平形 僚也
600	猫ねむるソファーの上で夢の中ご飯くれよと心の声	群馬県沼田高校 1年	笛木 源仁
601	春の風桜まい散りきれいだな新しい日々始まる予感	群馬県沼田高校 1年	笛木 源仁
602	朝起きて空が泣いてる悲しそう祈ってみたら更に涙が	群馬県沼田高校 1年	星野 愛雅
603	信号や建物も少し変わったが山の景色はいつも変わらない	群馬県沼田高校 1年	星野 斗吾
604	朝日に染められていく空の色僕の気持ちも明るく染まる	群馬県沼田高校 1年	星野 琉生
605	最近の気候ほんとに暑すぎるいつになったら涼しくなるんだ	群馬県沼田高校 1年	宮川 響木
606	月曜日動きたくない憂鬱ただひたすらに日が過ぎるを待つ	群馬県沼田高校 1年	宮川 響木
607	赤い空 電車の窓で 見たならば その次の日は 絶好調だ	群馬県沼田高校 1年	宮崎 柊人
608	全国で 優勝目指し 鍛錬す 負けた悔しさ 二度と忘れず	群馬県沼田高校 1年	八木 稜太郎
609	月曜日カーテン透ける日の光永眠望みきらめく涙	群馬県沼田高校 1年	吉野 達哉
610	朝の日の眠りが覚める人間たちいつも邪魔されときにはおこる	群馬県沼田高校 1年	吉野 龍翔
611	昼下がり詠聞き眠り夢の中間こえてくるのは師の言葉	群馬県沼田高校 1年	吉原 尚輝
612	秋の日の夕方にみる赤とんぼ 夕日に染まりより紅くなる	群馬県沼田高校 1年	阿部 帆高
613	秋が来てかなり寒い朝が来たもう冬が来てしまいい景色が白くなる	群馬県沼田高校 1年	新井 大貴
614	皆共に力を合わせ守らねば 緑豊かなこのふるさとを	群馬県沼田高校 1年	新井 凌
615	夏終わり秋の夕暮れおとずれば紅葉や食事や新たな季節	群馬県沼田高校 1年	飯塚 蒼
616	色は匂へど散りぬるを 夏終わり風 秋呼ぶ風	群馬県沼田高校 1年	市川 結希
617	夏空に高速飛行のオニヤンマ太古の地球に思いをはせる	群馬県沼田高校 1年	井上 咲耶
618	夏のあと 涼風そよぐ 草の上 ひぐらし鳴いて 憶う短夜	群馬県沼田高校 1年	岡田 拓真
619	初めてのコロナウイルス感染し 元氣や陽氣懐かしくなる	群馬県沼田高校 1年	尾崎 絢章
620	高崎の国鉄釜が引退に 急いで記録残さなければ	群馬県沼田高校 1年	尾崎 絢章
621	長い夜ひととき大きな月のなかウサギはひたすら餅をつく	群馬県沼田高校 1年	小野里 陽有
622	梅雨終わり雨上がりの空は海のように 雲の中差しこむひかりは夏の予感	群馬県沼田高校 1年	加藤 雷大
623	寒くない秋のにおいがかおる頃体感温度は十八度くらい	群馬県沼田高校 1年	金井 真大
624	暑い日々 午後のアイスで 耐え凌ぐ 待ち続けても 秋訪れず	群馬県沼田高校 1年	志賀 世怜

637	636	635	634	633	632	631	630	629	628	627	626	625
帰り道 ほのかに香る 金木屋 秋風に乗り どこまでも行く 群馬県沼田高校 2年 田中 健登	七夕に思いをはせるあの二人また会う日まであと一年だ 群馬県沼田高校 1年 力石 洸斗	秋の夜空を眺めて月見するそのお供には団子を一つ 群馬県沼田高校 1年 松井 来斗	夏休み 課題が全然 終わらなく 三日連続 日の出見る 群馬県沼田高校 1年 樋之口 元義	追い風に乘った自転車爽快に 坂道下りスピード上がる 群馬県沼田高校 1年 林 遼真	入学式 新たな友と 知り合う日 こうして始まる 新たな日常 群馬県沼田高校 1年 林 利友希	夏の空 急に現る 積乱雲 清い青空 黒雲染める 群馬県沼田高校 1年 長嶋 庵織	緑葉も紅葉じみて色かわり 枯れ葉になって散っていく 群馬県沼田高校 1年 角田 律稀	夏の空星を眺めてふと思う あの光星はいつのものかな 群馬県沼田高校 1年 角田 律稀	春の日に 桜の花びら 舞い上がり 風に運ばれ 目の前落ちる 群馬県沼田高校 1年 高橋 健太	大天狗沼田のまちを練り歩くわっせわっせとお祭り騒ぎ 群馬県沼田高校 1年 高井 奏汰	赤とんぼ道ゆく肩にとまる時秋を感じる秋の夕暮れ 群馬県沼田高校 1年 七五三木 遥斗	夏祭り 神輿担いで 景気良く 屋台も友と めぐり楽しむ 群馬県沼田高校 1年 七五三木 葵
650	649	648	647	646	645	644	643	642	641	640	639	638
沼高の歴史を示す本校舎 新高校でも威容を誇る 群馬県沼田高校 2年 高橋 晃介	秋の月淡く光りて見下ろすはぬくもりあふる家族の一時 群馬県沼田高校 2年 井上 詩苑	町景色工事とともに変えていくなつかしいもの思い出の中 群馬県沼田高校 2年 久保田 侑太	山へ行き頂上で見る景色見える町並いと美しき 群馬県沼田高校 2年 久保田 侑太	朝起きてご飯を食べて学校へ朝日さす道輝いている 群馬県沼田高校 2年 久保田 侑太	部活中補習課題に筆記音 外から聞こえる高い打球音 群馬県沼田高校 2年 関 銀之助	ギリギリの電車を降りて登り坂 登り疲れてこれは遅刻だ 群馬県沼田高校 2年 関 銀之助	好きな子と見上げる花火に立つ煙 煙で隠れたハートの花火 群馬県沼田高校 2年 関 銀之助	授業中 眠りにつくと 気づいたら 終わりの鐘の音が聞こえる 群馬県沼田高校 2年 木村 隼瀬	明日やる 言い続けてた 宿題の 明日になってた 提出期限 群馬県沼田高校 2年 吉原 珀	近ごろは静かになったセミの声 夏が終わって秋の訪れ 群馬県沼田高校 2年 大瀧 凜	夏中はにぎやかだったセミの声 それもとうとう静かになった 群馬県沼田高校 2年 大瀧 凜	夏休み猛暑の中で学校へ大会目指し毎日努力 群馬県沼田高校 2年 綿貫 晴斗

663	何も苦ず 我が答案 ただの白 吐く言葉なく 我が過去恨む 群馬県沼田高校 2年 田辺 紅牙
662	お茶の葉の一生を描く彩りを飲めることこそ幸せである 群馬県沼田高校 2年 萩原 伊吹
661	なつかしいそうかそうかと君は言ふ そういえば僕はそういう奴だった 群馬県沼田高校 2年 若林 康則
660	いつの日か僕を呼ぶ声君の音一生を望む自分をさげすむ 群馬県沼田高校 2年 星野 鳳雅
659	なつかしき友との再会口ごもる もれ出た言葉こんばんは 群馬県沼田高校 2年 星野 鳳雅
658	この頃の暑さはいつまで続くのか。翌週すぎれば 心落着く 群馬県沼田高校 2年 高井 和玖
657	ながいキミ ボールペン君 問いかける いったいどこが ボールなのか 群馬県沼田高校 2年 大淵 翔太
656	暗闇の 砂上の道に 潜むのは 提灯を吊した海遊者 群馬県沼田高校 2年 齋藤 昊
655	窓ごしに 見える花火は 美しく 色とりどりをひとみに写す 群馬県沼田高校 2年 佐藤 陽翔
654	今年度始まり気付けば空高く始まっていたカウントダウン 群馬県沼田高校 2年 高橋 良輔
653	身体が大きくなるほど家族は縮む 時間はそれでも流れゆく 群馬県沼田高校 2年 杉木 蒼月
652	落ちてきた私のもとに流れ星広い夜空に輝く希望 群馬県沼田高校 2年 富澤 悠河
651	指先で雲をなぞって描く君僕には見えぬ美しい空 群馬県沼田高校 2年 富澤 悠河
664	古き良き 男の伝統 消えゆけば 新しい風 吹きゆるものかな 群馬県沼田高校 2年 西形 颯茉
665	帰り道 夜更けも次第に 早くなり 道ゆく人みな 袖伸ばす 群馬県沼田高校 2年 青木 瞭
666	なんとなく 見上げた空が オレンジで 写真を撮った 夕方の道 群馬県沼田高校 2年 鈴木 滉太
667	暑しども 自ら 漫ろ寒し 心地悪しみす 群馬県沼田高校 2年 星野 裕飛
668	ボール追う仲間と走るサッカーコート大きな舞台を共に夢見る 群馬県沼田高校 2年 高橋 諒成
669	秋の風葉っぱ舞い散る道の上見れば一面甘橙絨毯 群馬県沼田高校 2年 唐澤 柊柚
670	FPS やりながら思う FPS 震えながらも ポツクリさよなら 群馬県沼田高校 2年 金子 遙
671	我が道は 行く行く先々 修羅の道 我心とともに 燃えつきぬ 群馬県沼田高校 2年 村岡 直尚
672	我が道は 行く行く先々 修羅の道 我心とともに 燃えつきぬ 群馬県沼田高校 2年 村岡 直尚
673	ふれれない心と共に攫む意志 水面に映る太陽と夜空 群馬県沼田高校 2年 萩原 暁汰
674	静寂な空に揺れ漂う君の声に止まらぬ光 群馬県沼田高校 2年 萩原 暁汰
675	夕焼けの 減りゆくトンボ 伝えてる 秋のおしまい 冬のはじまり 群馬県沼田高校 2年 藤井 純ノ愛
676	なぜだろう 気付けばいつも そばにいる 僕の愛しの 大好きな猫 群馬県沼田高校 2年 横坂 直

689	秋の日に落ちる枯れ葉が美しい季節の変わり実感できる	群馬県利根実業高校 1年	安原 心輝
688	校舎から 葉が落ちる先 君を見る 誰も代われぬ 君が好きだった	群馬県利根実業高校 1年	本多 花鈴
687	下校中 歩幅合わせて ほおばるは 季節外れの 冷凍ぶどう	群馬県利根実業高校 1年	戸丸 伍恋杏
686	はかなくて オレンジみたいな 恋だった まだ残ってる 甘酸っぱさよ	群馬県利根実業高校 1年	長谷川 雛葵
685	寒い夜 雪が積もって 白くなり 春のあたたかさ こいしくなってる	群馬県利根実業高校 1年	山後 友梨愛
684	週二度の 放課後バイト 「だるいよね」「でも頑張ろう」 頑張る日々	群馬県利根実業高校 1年	松井 小和
683	週二度の 放課後バイト 「だるいよね」 友と励まし 頑張る日々	群馬県利根実業高校 1年	真下 大輝
682	秋の月静かに照らす畔の道思い出めぐり歩を進む夜	群馬県利根実業高校 1年	山口 聡明
681	秋の夜に合唱をする虫たちはああ素晴らしきオーケストラか	群馬県利根実業高校 1年	芳賀 広夢
680	夏休みやりたいことがたくさんだ部屋でゴロゴロ失う課題	群馬県沼田高校 3年	芳賀 広夢
679	みなかみや季節は移り花枯れて変わりゆく町変わらぬ私	群馬県沼田高校 2年	大竹 翔太
678	秋風に 揺られる稲穂 耐え忍び いまかいまかと 刈り入れを待つ	群馬県沼田高校 2年	大竹 翔太
677	ふと思う 土の匂いで やりたいな 仲間と共に プレイボール	群馬県沼田高校 2年	横坂 直
690	いつの日もかかさずにあるお弁当毎日食べて心高鳴る	群馬県利根実業高校 1年	関 凛太郎
691	収納祭みんなと焼いた豚肉は上手に焼けてやたらと美味し	群馬県利根実業高校 1年	外山 尚生
692	冬の朝 扉を開けば 白き世界 空見上げれば 白い雨	群馬県利根実業高校 1年	戸山 夏姫
693	紅葉の景色を見るとあふれだす幼きころの家族の思い	群馬県利根実業高校 1年	鈴木 美波
694	学校でみんな集まりにぎやかでみなが呟くもう終りかと	群馬県利根実業高校 1年	田中 拓心
695	にぎやかで楽しい一日帰りのショート皆が呟くもう終りかと	群馬県利根実業高校 1年	田中 拓心
696	寒空でいつも寒くて動けない親に起こされゆううつな日	群馬県利根実業高校 1年	田中 拓心
697	寒波襲来寒くて寒くて親に起こされゆううつな日	群馬県利根実業高校 1年	田中 拓心
698	春の雨 花びら濡れて 映える赤 早朝の朝 歩む心地よさ	群馬県利根実業高校 1年	津久井 駿成
699	好きなこと楽しく話す君と僕帰り道でのささいなひと時	群馬県利根実業高校 1年	和田 優祐
700	外出ると少し肌寒い十月段々冬が迫ってくる	群馬県利根実業高校 1年	和田 優祐
701	さびしいと 別れを惜しむ 君のこと それでも僕ら 我が道を行く	群馬県利根実業高校 1年	村山 悠希
702	雨よ降れ やりたくないな 長距離走 皮肉のように 輝く朝日	群馬県利根実業高校 1年	村山 悠希

715	窓あけて 肺が凍える 息白し 朝日ながめて 春を待つ 群馬県利根実業高校 1年 島田 雛穂
714	帰り道 二つの影が 伸びていく ほほ色に似た 秋のほおずき 群馬県利根実業高校 1年 島田 雛穂
713	春恋の甘い時代に学あれば本業まじめにみのらぬ心 群馬県利根実業高校 1年 菊地 海斗
712	富士の頂比らべてみるや君のほおとりんごあめどちらが赤いか 群馬県利根実業高校 1年 井浦 勇人
711	紅葉や華やかに登る陽の光空に泳ぐは紅い空 群馬県利根実業高校 1年 井浦 勇人
710	学校で 問題を解き うとうとと 眠気に襲われ 集中せず 群馬県利根実業高校 1年 小野里 七海
709	夏の夜クーラーつけて寝るけれどそれが逆に風邪ひく原因 群馬県利根実業高校 1年 平澤 天夢
708	夏の日に友と行った夏祭り遠くへ響く笑い合う声 群馬県利根実業高校 1年 茂木 さくら
707	青赤金 心揺さぶる 大花火 光とともに 消えゆく夏よ 群馬県利根実業高校 1年 横谷 めい
706	通学路前に広がる峠道一難去つてあまた一難 群馬県利根実業高校 1年 田辺 瑛大
705	忙しさ母が作るお弁当ほんとありがと授業頑張る 群馬県利根実業高校 1年 小室 瑛乃助
704	寒い夜は熱々おでん食べようね母の言葉にあったまる我 群馬県利根実業高校 1年 小室 瑛乃助
703	冬の風冷たさ感じ勉強だ 音楽聞いてリラックスする 群馬県利根実業高校 1年 小室 瑛乃助
716	好きな人 いないと意地をはりながら きづかぬうちに 目でおうあなた 群馬県利根実業高校 1年 見城 美月
717	夏の海 波間に耳を 傾けて 君と歩むよ 永遠の想ひ 群馬県利根実業高校 1年 桑原 莉菜
718	恋したい 友達みんな 言っている 意外とこれも 青春なり 群馬県利根実業高校 1年 織田澤 寧音
719	一目ぼれ 気づいたらもう 長袖に 私心 まだ冷めてない 群馬県利根実業高校 1年 織田澤 寧音
720	歯を磨く ナイトルーティーン 床につく フカフカの布団が 我を待つ 群馬県利根実業高校 1年 石井 健彰
721	秋の風 過ぎさる日々に 変化して 気づけば ただよう 肌寒さ 群馬県利根実業高校 1年 小島 空
722	秋風に ふかれ舞い散る 紅葉を 静かに見つめ 秋を感じる 群馬県利根実業高校 1年 遠藤 太陽
723	好きな人 一緒に歩く 放課後は 夕日が二人を 重ねあわせる 群馬県利根実業高校 1年 片桐 由菜
724	秋風に そよぐ紅葉の 濃淡は 夕暮れ映えし 山路の小道 群馬県利根実業高校 1年 牛口 瀬那
725	秋の風 葉が舞い散る 月の下 静けさに包まれ 心も和む 群馬県利根実業高校 1年 白石 実優
726	仲間と共に 汗を流して 夢を追う 青春の禍に 心踊らせる 群馬県利根実業高校 1年 白石 実優
727	暗闇に 明るく光る 月見れば 今日の重荷 消えてゆく 群馬県利根実業高校 1年 坂西 結奈
728	胸の中 肩をならべ 友人と 語り合う日々 永遠に忘れず 群馬県利根実業高校 1年 坂西 結奈

741	かわく風季節はすでに秋なりてたくさん食べる食欲の秋 群馬県利根実業高校 1年 新宮 由崇
740	ウエイトの 春季大会 大変だ やりがいのある 良い試合だ 群馬県利根実業高校 1年 熊谷 優輝
739	秋の風 少し寒いね これからね どんどん寒く なっていくんだ 群馬県利根実業高校 1年 佐藤 大翔
738	よってくる しつぽを立てて 食べたいと ネコが求める おいしいご飯 群馬県利根実業高校 1年 佐々木 優衣
737	冬の時期 焼き芋買って 食べてみる 甘い香りに 食べる幸せ 群馬県利根実業高校 1年 佐々木 優衣
736	あたたかい 毎日食べる 料理はね 母の愛情 私の感謝 群馬県利根実業高校 1年 佐々木 優衣
735	月ならむ星の光もさやけきは秋てふ空はなべてすむらん 群馬県利根実業高校 1年 木村 玲音
734	幾億の運命だとか魔法より探しにこころ星の住処を 群馬県利根実業高校 1年 木村 玲音
733	夏の空 入道雲が 前にあり また夏がきた 思いだす日々 群馬県利根実業高校 1年 菊地 北斗
732	夏過ぎて 寒い風吹く 秋の日に 寒空の下 一人で帰路に 群馬県利根実業高校 1年 菊地 北斗
731	夏は白色 染まり続ける 冬近く 皆学ランへ 黒に染まる 群馬県利根実業高校 1年 小野 陽輝
730	水したたる 葉から水垂れ 地にはねる 写されている 一つ思い出 群馬県利根実業高校 1年 小野 陽輝
729	バレードで 人生初の 合宿 色々出来て とても最高だ 群馬県利根実業高校 1年 小野 陽輝
742	昨日まで 暑かったのに もう寒い 秋のおとずれ 肌で感じる 群馬県利根実業高校 1年 小野里 直希
743	自販機に EOTの文字を 見つけたよ もうすぐ寒い 冬のおとずれ 群馬県利根実業高校 1年 佐藤 瑞姫
744	ジム帰り プロテイン 飲む おいしいな 今日一言 また行きたいな 群馬県利根実業高校 1年 織田澤 龍法
745	ダンベルを 上げるたびごと 震える手 重ねた時間 少し誇らし 群馬県利根実業高校 1年 織田澤 龍法
746	にわか雨 一瞬だけの 強い風 あつというまに 天気は晴れる 群馬県利根実業高校 1年 織田澤 龍法
747	寒くなり 布団被ぶると 猫が来て 猫と一緒に 眠りにつく 群馬県利根実業高校 1年 江口 来夢
748	冬になり カンの飲み物 増えてきて 心と体 温かくなる 群馬県利根実業高校 1年 江口 来夢
749	帰り道 寒さとともに 温かく 夕日と帰る 急な坂道 群馬県利根実業高校 1年 江口 来夢
750	朝になり こごえていると 猫が来て くっついてくる ゆたんぽみたい 群馬県利根実業高校 1年 江口 来夢
751	繰り返す 私と彼の 幸せの日々 戻れないから 大切にしたい 群馬県利根実業高校 1年 大竹 莉杏
752	部活動 息切れしながら 動く日々 大会のために 練習をがんばる 群馬県利根実業高校 1年 飯森 太士朗
753	夏過ぎて 暑さ変らず マンネリ化 そろそろ熱が 冷めてきたころ 群馬県利根実業高校 1年 井上 瑞起
754	窓開けるやってきたのは秋の風ほのかに香るキンモクセイ 群馬県利根実業高校 1年 阿部 心愛

767	朝起きて響く目覚まし朝御飯このあとにある通学ガンバ	群馬県利根実業高校 1年	新木 琉珂
766	お弁当毎日うまいありがとうまた頑張れる午後の授業に	群馬県利根実業高校 1年	新木 琉珂
765	勉強で癒してくれる僕の猫特にスヤスヤ寝ている所	群馬県利根実業高校 1年	新木 琉珂
764	秋なのにいまだに暑くたまに寒い せめて明日は片方だけで	群馬県利根実業高校 1年	大川 莉玖
763	朝起きて登校しようと家を出る 扉開けると見知らぬ猫が	群馬県利根実業高校 1年	大川 莉玖
762	我が推しを目にしたことで頑張れる 貴方は私の一番星だ	群馬県利根実業高校 1年	大川 莉玖
761	冬の恋 君の頭に 雪落ちる 僕の払う手 ほほ赤らめる	群馬県利根実業高校 1年	会津 健心
760	曲がり角 パンをくわえた 転校生 いつかと夢見る 君とおおせ	群馬県利根実業高校 1年	会津 健心
759	目覚ましの音でおきても まだ暗い 今何時だろ まだ寝ていたい	群馬県利根実業高校 1年	相川 莉杏
758	寝不足と ゲームのしすぎで目が痛い それでも楽しい 攻略の時間	群馬県利根実業高校 1年	伊藤 ひより
757	秋の中 夏とも冬とも 言えぬ気温 はやく冬に なれと願う	群馬県利根実業高校 1年	伊藤 ひより
756	食卓で 皆で鍋食べ 冬感じ こたつを囲み 体温める	群馬県利根実業高校 1年	伊藤 ひより
755	母親と 協力して 敵倒し よろこび分かち 次に進む	群馬県利根実業高校 1年	伊藤 ひより
768	下校中 ふと目の前に 灰色の 子猫が歩き 一目惚れ	群馬県利根実業高校 1年	井上 泰汰
769	暑苦しい 夏より少し 肌寒い 季節の冬は けっこう好きだ	群馬県利根実業高校 1年	井上 泰汰
770	休日に 早起きすると 優越感 昼まで寝たら 憂鬱感	群馬県利根実業高校 1年	井上 泰汰
771	山の葉の 赤黄と色づく うつろいは 知らせてまわる 秋のお手紙	群馬県利根実業高校 1年	高橋 琴音
772	終わる恋君との記憶もやかかる君の笑顔も今もやかかる	群馬県利根実業高校 1年	佐藤 美歌
773	潮の風 広がり香る 江の島に 海見渡して 身を乗り出した	群馬県利根実業高校 1年	岡田 大洋
774	赤い空 恋と気づかぬ 帰り道 過ぎゆく時に 星輝けり	群馬県利根実業高校 1年	岡田 大洋
775	虫の音に 夏の終わりを 感じつつ 今まだ暑く 秋見失う	群馬県利根実業高校 1年	岡田 大洋
776	ネットでは かわいい人が 多いのに 町には少ない ほぼほさぎだ	群馬県利根実業高校 1年	阿部 奏
777	目が覚めて 時計を見ると もう八時 焦るひまなく 遅刻がせまる	群馬県利根実業高校 1年	阿部 奏
778	帰り道 二人で歩いた いつもの道 これから先も 歩いていたい	群馬県利根実業高校 1年	阿部 奏
779	いくつもの 花火を見合げ ぶつかる手 君と目が合い 好きが増す	群馬県利根実業高校 1年	阿部 未紗希
780	ほかほかの ご飯に卵 のせるだけ しょうゆをそえて 君を食べたい	群馬県利根実業高校 1年	阿部 未紗希

793	沖縄で ホテルから見える 群馬県利根実業高校 2年 中澤 舞優	792	赤色の 決まりながらも 群馬県利根実業高校 2年 秋和 來我	791	部屋の中響く花火や砂浜に夏を感じる沖縄の夜 群馬県利根実業高校 2年 角田 果鈴	790	沖縄の自然の中で楽しんだ友達との一生の思い出 群馬県利根実業高校 2年 桐井 環	789	群馬から 沖縄までを 飛行機で 友とウキウキ 修学旅行 群馬県利根実業高校 2年 小池 碧衣	788	銀色に かがやく宝石 散りばめて 深くに眠る 玉泉洞 群馬県利根実業高校 2年 荒川 由衣	787	夕焼けが 海に映ると ほっとする 沖縄の景色 心に残る 群馬県利根実業高校 2年 石田 乃蒼	786	花火より 君の横顔 目に写る 光露で見える 君の瞳が 群馬県利根実業高校 1年 石坂 奏人	785	遊園地 馬の背に乗る 君がいる 空回りする 僕の恋愛 群馬県利根実業高校 1年 石坂 奏人	784	下校中 片手に白温持ち 田んぼ道 稲がなくなり 冬のおとずれ 群馬県利根実業高校 1年 石坂 奏人	783	冬の嵐 君の指先 暖めて 共に歩もう 雪の足あと 群馬県利根実業高校 1年 金子 廉	782	寒い夜 そっとふれる手 あたたかく たかぶる思い あの日の思い出 群馬県利根実業高校 1年 金子 廉	781	満月日 通話ごしの 君の声 胸をうたれた 月がきれいだ 群馬県利根実業高校 1年 阿部 未紗希
806	青春だ 一つ一つが 楽しみだ みのる思いを ぶちまける 群馬県利根実業高校 2年 中澤 柚稀	805	飛行機に ゆらゆら揺れて 沖縄へ 青く惹かれた ビーチ散策 群馬県利根実業高校 2年 堀江 倖未	804	夕方に 紅葉揺れて 肌寒く 落ちる葉っぱは ニコニコと 群馬県利根実業高校 2年 和田 未羽	803	澄み切った 海の青さに 胸打たれ 耳をすませば 夏の波音 群馬県利根実業高校 2年 綿貫 妃菜	802	花畑 いろとりどりの 花が咲く 風に吹かれて わきあがる 群馬県利根実業高校 2年 高橋 寧々日	801	収納祭 雲一つない 空の下 木陰に腰かけ 肉をほおぼる 群馬県利根実業高校 2年 須藤 実紅	800	収納祭 秋の始まり ふつつつと 今年も残り こたつでしのぐ 群馬県利根実業高校 2年 盛田 優陽	799	中学校 赤ペン握る 後ろ影 数年先の 自分の姿 群馬県利根実業高校 2年 河合 優海	798	秋風や 日差しと共に 感じれば 寒い寒いと 凍えるばかり 群馬県利根実業高校 2年 田村 つぐみ	797	冬の空上を向くと白い空きらめく街まであとすこし 群馬県利根実業高校 2年 籾山 絆	796	沖縄で 仲良く見せる 関係性 大丈夫だと 思いこませる 群馬県利根実業高校 2年 笛木 琉心	795	バスの窓 覗いてみると 広がる青 心安らぐ 沖縄の海 群馬県利根実業高校 2年 岩本 咲空花	794	沖縄で いっぱい食べた 海の味 そばが輝く 琉球の味 群馬県利根実業高校 2年 井上 一志

819	自動車で 毎日通った 青い春 いつかの未来 語り合う 群馬県利根実業高校 2年 千明 怜生	818	叶えたい 夢に向かつて 少しづつ 今日も一歩を 踏み出してゆく 群馬県利根実業高校 2年 坂本 翼	817	青い空 楽しもう 修学旅行 夏の思い出 赤のひとつき 群馬県利根実業高校 2年 池田 悠真	816	バスの中 揺れる景色と 友の声 心の地図に 新たな旅路を 群馬県利根実業高校 2年 保坂 雅大	815	琉球よ今やなつかしあの景色思い出すこと追憶の書庫 群馬県利根実業高校 2年 戸丸 晃汰	814	習いたて慣れない指で弾いたね蛇皮線の音よ故郷まで届け 群馬県利根実業高校 2年 戸丸 晃汰	813	過ぎる日々 青春の時は 一瞬で 今この時を 重んじる 群馬県利根実業高校 2年 松井 駿弥	812	雨の中初めて三味線弾いた我と友との出来の差感じる日 群馬県利根実業高校 2年 内海 琉惺	811	冬過ぎて 見える花筏別れるとき すれ違う思い 心はおきざり 群馬県利根実業高校 2年 富澤 竜夢	810	真っ白な上履が真っ黒にいろんな思い出三年間 群馬県利根実業高校 2年 高橋 承太郎	809	雪見月 静けさの中 白い庭 さむさのおとずれ 鍋恋し 群馬県利根実業高校 2年 宮田 太陽	808	朝起きて 今日日曜日と 思ったら 哀れみの 月曜日 群馬県利根実業高校 2年 笠原 魁晟	807	秋の空なびくすすきと鈴の声山のあらしに木々はこたえる 群馬県利根実業高校 2年 吉野 天翔
832	秋の空 見上げてみれば 澄んだ色 紅葉の中に 夕日が照らす 群馬県利根実業高校 2年 齋藤 郁弥	831	朝起床 鼻の下かわがむけ 花粉達 僕で受粉するな 我人間なり 群馬県利根実業高校 2年 武田 眞大	830	お元気で うつむく君に 背を向けて 視界がにじむ けじめの一步 群馬県利根実業高校 2年 和南城 楽洋	829	光の粒 揺れ動く木 風が鳴る むかえの車 我一人かな 群馬県利根実業高校 2年 木村 晴	828	大嵐 心願う 休校は 連絡来ずに いつもどおりの登校 群馬県利根実業高校 2年 笠原 悠聖	827	旅出ても 心の底に 故郷あり 戻りたくなる 思い出の場所 群馬県利根実業高校 2年 松井 蒼空	826	恋をした 緊張して 攻められず 言葉にできず 渦巻く気持ち 群馬県利根実業高校 2年 村山 佑弦	825	風を切る ペダルの音が 響く道 開けた景色に 空を仰ぐ 群馬県利根実業高校 2年 富澤 聖海	824	青い海 カクレクマノミ いとおかし マリンプールに 染まる南国 群馬県利根実業高校 2年 竹之内 煌聖	823	暗い夜 遊びつかれた 帰り道 まちのあかりが 影うつしだす。 群馬県利根実業高校 2年 小野 悠史	822	人の気持ち 把握していても くいちがい 感情の読み 意味不明 群馬県利根実業高校 2年 戸部 涼矢	821	秋月夜 海の浜辺 見わたせば 突如降りそそぐ 雨の道 群馬県利根実業高校 2年 高澤 陽夏瑠	820	青い海シュノーケリングで潜水中ごぼごぼ足棒になりけり 群馬県利根実業高校 2年 松井 匠凌

845	美しい 海に住む魚 この目でね 見つけた時は 心キラキラ 群馬県利根実業高校 2年 津久井 芽吹	844	夕づく日 もみじも共に 輝いて 目に焼き付ける 赤橙 群馬県利根実業高校 2年 中澤 准也	843	秋風の 学校にある カーテンが ほほをかすめる 秋の夜 群馬県利根実業高校 2年 松井 杏樹	842	沖縄の きれいな海 すきとおる ひこうきからでも わかるエメラルド 群馬県利根実業高校 2年 中村 優佑	841	洞窟の 中は神秘で 美しい 色はキレイで 心洗われ 群馬県利根実業高校 2年 小野塚 茉衣	840	朝起きて 昨日よりも 寒い体 手を出すだけで 感じる秋 群馬県利根実業高校 2年 小林 嵩	839	海の中 波におびえる 生徒達 慣れてきたなら 魚とデート 群馬県利根実業高校 2年 蟹澤 里子	838	年一の 収穫祝う 秋まつり 皆で楽しむ 収納祭 群馬県利根実業高校 2年 片柳 碧仁	837	暗い道 気ままに歩む 楽しさに 星を探して帰ったあの日 群馬県利根実業高校 2年 島田 琴子	836	肌寒い 風に吹かれて 帰路につく 秋の夕暮れ 紅色の空 群馬県利根実業高校 2年 角田 帆希華	835	まわり道君と帰った通学路秋のたそがれ二人のさみしさ 群馬県利根実業高校 2年 角田 姫奈	834	もう一度 ねむりにつこうと 目をとじる さまたげるのは 朝日の光 群馬県利根実業高校 2年 入澤 太陽	833	朝夜の ビューと風吹く 寒暖差 ふとした瞬間 冬到来 群馬県利根実業高校 2年 山崎 悠菜
858	沖縄へ 未知なる景色 広い海 新たな発見 探す旅路 群馬県利根実業高校 2年 諸田 敦己	857	煙立つ 心が踊る 秋祭り 心ゆくまで 皆で楽しむ 群馬県利根実業高校 2年 高山 祥秀	856	肌寒い 突如として来た 冬の夜に ココアと手袋 母のぬくもり 群馬県利根実業高校 2年 角谷 隼志	855	初めての 青が広がる 海景色 年に一度の 修学旅行 群馬県利根実業高校 2年 大竹 礼斗	854	寒風に 吹かれる髪と この心 叶わぬ恋に 渦まいて 群馬県利根実業高校 2年 伊藤 隼	853	青春や 春の流れに 身を任せ 心に染みる 明日への一步 群馬県利根実業高校 2年 中島 大翔	852	花芽つみ 咲かせる季節 寒牡丹 蕾ほころぶ ひんやりと 群馬県利根実業高校 2年 錦織 春風	851	秋の朝 耳をすませば 聞えてくる 鳥の鳴き声 心地よい 群馬県利根実業高校 2年 松井 空琉	850	紅葉狩り 色鮮やかで わくわくと 風が吹くたび ひらりと木の香 群馬県利根実業高校 2年 外山 亜璃	849	秋になり 肌で感じる 吹風と うろこ雲の 白い息 群馬県利根実業高校 2年 下城 さくら	848	罎雲 紅葉狩りで 染まる山 景色が映える 季節の変わり目 群馬県利根実業高校 2年 中澤 美桜子	847	寒すぎて 出たくなる ベッドから 布団に誘われる おでんの季節 群馬県利根実業高校 2年 武井 佑季奈	846	秋風が 吹けば吹くほど 落ち葉舞い 待ちわびた季節 やつときた 群馬県利根実業高校 2年 今井 彩芽

871	沖縄でおいしい食べ物食べれたよパイナップルにソーキソバ	群馬県利根実業高校 2年	加藤 幸平
870	夏の夕暮れ 空に咲く火の花 綺麗だな 冷めたい物食べ 楽しい思い出だ	群馬県利根実業高校 2年	木村 苺唯
869	沖縄の 海は広くて 水の中 とても涼しく 癒される	群馬県利根実業高校 2年	藤井 輝空
868	美ら海で 人かきわけ 見る生き物 大きい影で テンション高々	群馬県利根実業高校 2年	林 香音
867	波打つ海 光り輝く サンゴ礁 心は奪われ 深青の底	群馬県利根実業高校 2年	船橋 茉彩
866	秋の風 そつとふかれる 金木犀 深呼吸して 歩く速度	群馬県利根実業高校 2年	大嶋 真愛
865	沖縄の ソーキそばが おいしくて 帰った今も 覚えてる舌	群馬県利根実業高校 2年	阿部 由菜
864	肌寒い 空気に触れた 秋の空 龍のように なびき輝き	群馬県利根実業高校 2年	関 愛奈翔
863	教室で 秋の風受け 窓開けて 授業の合間に 旅する心	群馬県利根実業高校 2年	佐々木 星
862	秋風で ふわりとなびく 横の髪 柔和な貴方 金木犀	群馬県利根実業高校 2年	佐藤 彩花
861	青い海 鳥のように飛ぶ その姿 見惚れて運ぶ 沖縄の心	群馬県利根実業高校 2年	五十嵐 琉斗
860	鈴ゆらし近づく影飼猫の邪魔しないでよプリントの上	群馬県利根実業高校 2年	原澤 絢南
859	快晴の 透る青 ナビビーチ 海水の味 永遠の思い出	群馬県利根実業高校 2年	田邊 珀翔
872	10月の朝は寒くてこごえるが昼は日が出て心が晴れる	群馬県利根実業高校 2年	中村 和心
873	隣り合い私に微笑む君の顔金木犀の香り漂う	群馬県利根実業高校 2年	齋藤 美来
874	鈴虫が きれいな音色を 奏でてる 夜の演奏会を 秋風とともに	群馬県利根実業高校 2年	安藤 紅葉
875	肌寒い ポケット手を入れ温める 秋風当たる 帰り道	群馬県利根実業高校 2年	飯塚 理穂
876	沖縄の海に反射する光つぶ楽しい思いが心に残る	群馬県利根実業高校 2年	今井 夢来
877	夜の下 夜風をあびて 見上げれば 空気も凍る 満天の星空	群馬県利根実業高校 2年	大竹 芙由美
878	竹馬で君を家まで送ったキャスターなくて心安らぐ	群馬県利根実業高校 3年	田村 凌駕
879	朝起きて寒い気温にふとんニぬくいふとんで再び眠る	群馬県利根実業高校 3年	番場 勇心
880	渦巻く風 心の奥に響き渡る 過去と未来が交差する場所	群馬県利根実業高校 3年	小室 琥太郎
881	就職と 免許と テストで 大変だ 頭の中は 渦でいっぱい	群馬県利根実業高校 3年	小林 要
882	紅葉と 涼しさ香る 秋模様 きれいな夕日に たそがれている	群馬県利根実業高校 3年	金井 陽生
883	借り物の消しゴム一つ忘れてた消すはずの文字どこにも無くて	群馬県利根実業高校 3年	鈴木 智裕
884	この足で どこまで行こう 未踏の地 小さく一つ 心は一つ	群馬県利根実業高校 3年	小山 創太

897	夕焼けに 染まる街並み 秋の風 ひらひら落ちる 群馬県利根実業高校 3年 諸星 愛瞳	896	月明かり 静かに照らす 秋の夜 落ち葉舞い散る 群馬県利根実業高校 3年 諸星 愛瞳	895	文化祭 みんなで準備 楽しいな 放課後残って みんな寝不足 群馬県利根実業高校 3年 高橋 怜花	894	友達と とても行きたい もみじがり でも紅葉に なるのが遅い 群馬県利根実業高校 3年 高橋 怜花	893	楽しいな 運動の秋 もみじがり 食欲の秋 音楽の秋 群馬県利根実業高校 3年 高橋 怜花	892	落ち葉ふむ カサカサ音びく道 風といっしょに 帰る夕方 群馬県利根実業高校 3年 赤崎 希	891	ホクホクと あつい焼きいも おいしすぎ 笑顔こぼれる 秋のひとつき 群馬県利根実業高校 3年 赤崎 希	890	赤とんぼ 風につては ひらひらと 空高くまで どこへゆくかな 群馬県利根実業高校 3年 赤崎 希	889	おつりで 礼も見ないで 募金箱 自覚はなくとも 人は救われ 群馬県利根実業高校 3年 上岡 拓未	888	秋風に なびくは君の長い髪 名前呼び合い一緒に帰る 群馬県利根実業高校 3年 会津 歩華	887	登校日あの子がいると下を向く目で追いたいな青色の春 群馬県利根実業高校 3年 星野 栞佑	886	明の方 時の流れ 身を任せ 思い出の泡 消えゆくまで 群馬県利根実業高校 3年 星野 瑚虎	885	橋の下 激しく流れる 海の中 心惹かれる 鳴門の渦潮 群馬県利根実業高校 3年 笛木 琉聖
910	どんぐりで 遊ぶあのころ恋しいな 今やおわれる 群馬県利根実業高校 3年 峰川 柑奈	909	食欲が まじで倍倍 肥える秋 夏にやせても すべてもどる 群馬県利根実業高校 3年 峰川 柑奈	908	まじでむずい 秋服選び 大苦戦 はやくきてくれ もこもこの冬 群馬県利根実業高校 3年 峰川 柑奈	907	高校の最高学年三年生 いつのまにやら卒業生 群馬県利根実業高校 3年 大竹 莉緒	906	金曜日いつも通りの図書委員 あの場の空気が心おちつく 群馬県利根実業高校 3年 大竹 莉緒	905	収納祭焦げたマシユマロ燃えていた 見ため悪いがこれも思い出 群馬県利根実業高校 3年 大竹 莉緒	904	目が覚めて 寒さに負けて 布団もぐる 早く冬が 終わってほしい 群馬県利根実業高校 3年 井上 夏奏	903	文化祭 看板作り 夢中になり 気づけば手には 虹ができた 群馬県利根実業高校 3年 井上 夏奏	902	放課後に 一人残って 楽器だし 後者に響く 私之音 群馬県利根実業高校 3年 井上 夏奏	901	冬の朝 白く吐く息 消えていく 息の白さで寒さを感じる 群馬県利根実業高校 3年 小林 歩輝	900	秋晴れの 澄んだ青空 あたたかさ 木々が色づき 景色が変わる 群馬県利根実業高校 3年 小林 歩輝	899	冬の夕 学校帰り 寒さ耐え 家に帰ると 温かい飯 群馬県利根実業高校 3年 小林 歩輝	898	お月見の 団子並べて 笑顔咲く 家族の声が 秋を彩る 群馬県利根実業高校 3年 諸星 愛瞳

923	この気持ち どう伝えたら 群馬県利根実業高校 3年 飯村 杏花	922	愛猫 家族そろって 暖をとる 群馬県利根実業高校 3年 花茂 衣舞姫	921	帰り道 マスク越しから 香る花 群馬県利根実業高校 3年 花茂 衣舞姫	920	目覚ましで おきる平日 頑張るぞ 群馬県利根実業高校 3年 中島 陽依	919	親友の 存在気づき 再確認 群馬県利根実業高校 3年 中島 陽依	918	帰り道 キンモクセイの 香りする 群馬県利根実業高校 3年 中島 陽依	917	初デート 心が弾む 服選び 群馬県利根実業高校 3年 千明 慧実	916	クリスマス 町に星々 きらめいて 群馬県利根実業高校 3年 千明 慧実	915	ステージで 輝く君を 見つめてる 群馬県利根実業高校 3年 千明 慧実	914	秋の時期 紅葉落ちる ヒラヒラと 群馬県利根実業高校 3年 宮川 愛永	913	世の中は 不思議いっぱい あるんだよ 群馬県利根実業高校 3年 宮川 愛永	912	学校は 勉強学ぶ 施設だよ 群馬県利根実業高校 3年 宮川 愛永	911	今日の朝 鳥が鳴いてた いい気分 群馬県利根実業高校 3年 宮川 愛永
936	秋になり甘い香りにさそわれて 群馬県利根実業高校 3年 郷原 琴	935	合格後 家族で行った 海岸にて 群馬県利根実業高校 3年 高橋 和真	934	入試前 必死に覚えた 対策本 群馬県利根実業高校 3年 高橋 和真	933	散歩中 いたるところに キンモクセイ 群馬県利根実業高校 3年 高橋 和真	932	我が家にて 親の手伝い 楽々と 群馬県利根実業高校 3年 青柳 博大	931	電車にて ゆらりゆられて 遠出旅 群馬県利根実業高校 3年 青柳 博大	930	肌寒く 季節変わりて 進みゆく 群馬県利根実業高校 3年 青柳 博大	929	学校で 友達誘い 弁当を 分けて喜び 群馬県利根実業高校 3年 工藤 翠優	928	星月夜 寒さ厳しい 冬の空 群馬県利根実業高校 3年 工藤 翠優	927	秋の空 木枯らしがふく 真昼間 群馬県利根実業高校 3年 工藤 翠優	926	あいさつと 笑顔がすてきな 友達が 群馬県利根実業高校 3年 飯村 杏花	925	この恋は 秋をなやます 片思い 群馬県利根実業高校 3年 飯村 杏花	924	秋の風 かすかにきこえる 鳥の声 群馬県利根実業高校 3年 飯村 杏花

949	花火大会	君じゃないなら 誰とでも ひとりで行っても 同じこと	群馬県利根実業高校 3年	星野 楓
948	寒くなる	季節とともに 過ぎる日々 残り少ない 友との時間	群馬県利根実業高校 3年	阿部 栳
947	秋の風	冬に近づく 気温から 今年の終わり 強く感じる	群馬県利根実業高校 3年	阿部 栳
946	本読むと	流れる川と 過ぎる時 かなうならば 永遠に続け	群馬県利根実業高校 3年	阿部 栳
945	秋の空	紅葉の映える 青色が 私の一番 好きなお宝	群馬県利根実業高校 3年	阿部 栳
944	高校で	カレができると 思ってた どうしたものだ 過ぎた三年	群馬県利根実業高校 3年	野村 彩心
943	初デート	駅前で待つ 君のこと 何を話そう 心がはずむ	群馬県利根実業高校 3年	野村 彩心
942	帰り道	つなぎたいけど つなげない 手が寒いのに 先に行く君	群馬県利根実業高校 3年	野村 彩心
941	夏の夜暗くて何も見えなくて歩いてたふいに上がった忘れぬ花火		群馬県利根実業高校 3年	藤島 美苑
940	冬の空こんなに冷えた景色でも雪をもとかす人の優しさ		群馬県利根実業高校 3年	藤島 美苑
939	いつか届いて変わらぬ心	秋の空手を伸ばしてもまだ遠きもの	群馬県利根実業高校 3年	藤島 美苑
938	犬でさえふとんくるまる寒さきて 耐えられるのかと不安がつもる		群馬県利根実業高校 3年	郷原 琴
937	だんだんと学校行事終わって 残りの日々を楽しみたいな		群馬県利根実業高校 3年	郷原 琴
962	この恋は 永遠続き 幸せに 彼と最期を いっしょに歩く		群馬県利根実業高校 3年	金子 みさと
961	くだものを たくさん食べる この季節 今年は何を たくさん食べよう		群馬県利根実業高校 3年	金子 みさと
960	黒猫と その子どもたち 鳴きまくり それを聞いて いやされる心		群馬県利根実業高校 3年	金子 みさと
959	親友と 最初の出会いは 体育祭 競った心が 今や信頼		群馬県利根実業高校 3年	萩原 来人
958	兄上の 留学最後の 家族旅行 涙あふれる 思い出話		群馬県利根実業高校 3年	萩原 来人
957	あの子との 三年越しの 再開で 青春思いて 涙ほろほろ		群馬県利根実業高校 3年	萩原 来人
956	輝いて儚き君の横顔を見つめる僕は秋の始まり		群馬県利根実業高校 3年	高橋 心音
955	君の名は届かぬ前に消えてゆくさらば君よ忘れはしない		群馬県利根実業高校 3年	高橋 心音
954	授業中眠気とたたかう五十分この日常ももうすぐ終わる		群馬県利根実業高校 3年	高橋 心音
953	家の中カメムシ現れ大騒ぎいつも呼ぶのはおばあちゃん		群馬県利根実業高校 3年	高橋 心音
952	友達と 共に過ごせる 日常が もうすぐ無くなる と思へば哀し		群馬県利根実業高校 3年	星野 楓
951	仮装して 交差点に 来た人は 散らかす人や 警察官		群馬県利根実業高校 3年	星野 楓
950	夏おわり 冷たい風が 吹く中で 準備に追われる 双樹祭		群馬県利根実業高校 3年	星野 楓

975	帰り道 おでんの湯気が心温め ほっこり笑顔で 疲れふっとび 群馬県利根実業高校 3年 石坂 沙羅
974	こたつの中 みかんの香り 家族囲み 笑い声響く 冬の幸せ 群馬県利根実業高校 3年 石坂 沙羅
973	緑の葉 いつの間にか 色づいて 秋のおとずれ 心がおどる 群馬県利根実業高校 3年 石坂 沙羅
972	冬の月 吐く息白く 照らされる 二人の足音 響く夜に 群馬県利根実業高校 3年 石坂 沙羅
971	高校で 仲良くなった 友達と 過ごした三年 大事な思い出 群馬県利根実業高校 3年 牛口 南海
970	友達と いつもの場所で 笑う日々 残り少なく 寂しさを増す 群馬県利根実業高校 3年 牛口 南海
969	夏終わり 進路の手続き 悩まされ 泣く泣く書いた 入学願書 群馬県利根実業高校 3年 牛口 南海
968	白き雪 静かに舞い降る 冬の夜 心の中に 温もり宿る 群馬県利根実業高校 3年 栗原 さくら
967	教室で 顔を合わせた 青春の 思い出の中 色づく日々よ 群馬県利根実業高校 3年 栗原 さくら
966	秋の空 さつまいもの湯気 ホクホくと 心も満たす 季節の恵み 群馬県利根実業高校 3年 関 琉真
965	暖秋に 受験も終わり 一安心 終わりを感ずる 高校生活 群馬県利根実業高校 3年 関 琉真
964	秋なのに 夏のように 暖かい 今年が雪が 降るのだろうか 群馬県利根実業高校 3年 関 琉真
963	受験生 親に伝える 感謝の意 合格祝いに 食べる焼肉 群馬県利根実業高校 3年 関 琉真
976	夏終わり 秋の季節が 来たけれど 秋を感じず 冬の季節だ 群馬県利根実業高校 3年 桑原 幸来
977	秋の外 雪もないのに 極寒で 今年の冬は 外出られない 群馬県利根実業高校 3年 桑原 幸来
978	時の針 授業の時には おそいのに 遊びの時は あつというまで 群馬県利根実業高校 3年 桑原 幸来
979	消しゴムは 使い切るまで 長すぎる 新品買うのは 一つになるやら 群馬県利根実業高校 3年 桑原 幸来
980	秋の葉が 霜の白さに 包まれて 冬の訪れ 静かに感じる 群馬県利根実業高校 3年 猪熊 琴音
981	冬の夜 光り照す 瞬きに 心の奥に 感じるひととき 群馬県利根実業高校 3年 猪熊 琴音
982	霧の中 浮かぶ山々 色づいて 自然の豊かさ 思いを馳せる 群馬県利根実業高校 3年 猪熊 琴音
983	冬の空 願いを乗せる 流れ星 願いをひとつ 心の中に 群馬県利根実業高校 3年 猪熊 琴音
984	春になり 桜が咲いて 満開に 花見に行つて 桜散りゆく 群馬県利根実業高校 3年 猪熊 琴音
985	青い海 波の音より 耳すませ さざ波の中で 心が踊る 群馬県利根実業高校 3年 猪熊 琴音
986	秋の風 焼き芋かおり いいにおい 心温まる 笑顔のひととき 群馬県利根実業高校 3年 猪熊 琴音
987	白い雪 静かに降つて 道ゆけば 雪につつまれ 思い出つた 群馬県利根実業高校 3年 猪熊 琴音
988	家の中 猫が静かに 見つめてる 家に猫がいる のは幸せだ 群馬県利根実業高校 3年 猪熊 琴音

1001	放課後に 薄暗くなる 外を見て やはり好きだと 今年も思う 群馬県利根実業高校 3年 小林 ゆう
1000	久々に 出会った君の 微笑みは あの日の記憶と 何も変わら 群馬県利根実業高校 3年 小林 ゆう
999	夏休み 今年も君は 帰省せず 静かに待とう 冬の時期まで 群馬県利根実業高校 3年 小林 ゆう
998	秋の夜 放課後二人 かたならべ 歩く先には 光る星空 群馬県利根実業高校 3年 石田 向日葵
997	桜咲く 一本道は 人盛り 私は一人 だんご頬張る 群馬県利根実業高校 3年 石田 向日葵
996	冬の日 こたつで丸く すやすやと 可愛く寝てる 小猫と私 群馬県利根実業高校 3年 石田 向日葵
995	風そよぎ 風鈴の音 耳のこり 暑さわすれて 心やすらぐ 群馬県利根実業高校 3年 石田 向日葵
994	初雪で 足あと残る 登校中 うつすら白く 染まる黒猫 群馬県利根実業高校 3年 加藤 真優
993	見上げれば 空がかくれる イチヨウの葉 足にじゃれる 風に舞う葉 群馬県利根実業高校 3年 加藤 真優
992	落ちる日と 背の高い影 なでる風 蛍の光に つられて歩く 群馬県利根実業高校 3年 加藤 真優
991	金木犀 風に吹かれて 香ってる 静かに気づく 秋の訪れ 群馬県利根実業高校 3年 加藤 真優
990	秋の日の 紅葉遅い 待ち遠しい 柊の葉が 一番好きだ 群馬県利根実業高校 3年 平形 杏里
989	文化祭 みんな楽しみ 当日は 舞台の演目も 行われるよ 群馬県利根実業高校 3年 平形 杏里
1014	大変な学校生活もう終わるいざ終わったら戻りたくなる 群馬県利根実業高校 3年 三浦 真珠
1013	珍しいアトラス彗星見えず終わる八万年後リベンジしよう 群馬県利根実業高校 3年 三浦 真珠
1012	誕生日みんなが覚えていなくても絶対祝うようぶつの森 群馬県利根実業高校 3年 三浦 真珠
1011	鳥のひな部屋からみえた十日間巣立ったある日嬉しく寂しい 群馬県利根実業高校 3年 三浦 真珠
1010	友と食べる お菓子の味は 格別で 笑い声響く ただそれだけで 群馬県利根実業高校 3年 金子 陽
1009	帰り道で 好きな曲流れ 足取り軽く ちょっとした幸せ 見つけた気分 群馬県利根実業高校 3年 金子 陽
1008	公園のベンチ ぼかぼか陽気に 寝転んで 空を見上げる 夢の時間 群馬県利根実業高校 3年 金子 陽
1007	何気ない日々 友と笑い合う かけがえない 思い出を重ね 心に刻む 群馬県利根実業高校 3年 狩野 權
1006	どうなるか雪が降ったら平原に おそらくそれは白紙のようだ 群馬県利根実業高校 3年 狩野 權
1005	香ばしい燃える炭火と金網に 食欲そそるサンマの塩焼き 群馬県利根実業高校 3年 狩野 權
1004	パチパチパチ灯火一つ人一人 安らぎもたらずキャンプの効用 群馬県利根実業高校 3年 狩野 權
1003	こどもの日五月五日は素敵な日 食う寝る遊ぶこどもの自由 群馬県利根実業高校 3年 狩野 權
1002	生涯を 支えてくれた この言葉 あの人のまた 会えるだろうか 群馬県利根実業高校 3年 小林 ゆう

1027	秋の夜 宵の満月 みれるとき 雲にかくれて 月はみれずに 群馬県利根実業高校 3年 金子 智紀	1026	バスの中 インクをたどると 本の中 毎日違う 景色に出会う 群馬県利根実業高校 3年 尾池 みのり	1025	不安定 だけどあんがい 心地よい 休めることは 幸せなこと 群馬県利根実業高校 3年 尾池 みのり	1024	君を背に 乗せて走るよ どこまでも 触れて伝わる 君の気持ち 群馬県利根実業高校 3年 尾池 みのり	1023	ベランダで 大きな月を 眺めてた 涼しい夜空に 優しさ灯る 群馬県利根実業高校 3年 尾池 みのり	1022	眠くなる 書けば書くほど 目がまわる 勉強には 終わりなどなし 群馬県利根実業高校 3年 見城 柚実	1021	跳びはねる 走ると寝るし忙しい 癒しの生き物 これぞ兎 群馬県利根実業高校 3年 見城 柚実	1020	射の声で 緊張走る 限界に あと一本で 皆中 群馬県利根実業高校 3年 見城 柚実	1019	放課後にカラオケ行くのももう終わり 高校生活最高だ 群馬県利根実業高校 3年 見城 柚実	1018	アルバイト自転車通い辛けれど自分のご褒美嗜むために 群馬県利根実業高校 3年 山田 峻平	1017	冬の夜こたつに入り鍋つくくだいこんたまご時間忘れし 群馬県利根実業高校 3年 山田 峻平	1016	新潟の綺麗な海で空見上げ流れる雲が魚群のよう 群馬県利根実業高校 3年 山田 峻平	1015	自転車で汗だくで家帰る真っ赤なゆうひが心を癒やす 群馬県利根実業高校 3年 山田 峻平
1040	夏の空 打上花火 彩って 私の心も 光宿る 群馬県利根実業高校 3年 星野 叶実	1039	桜咲く 一本道を歩いてく 君と私の 思い出の場所 群馬県利根実業高校 3年 星野 叶実	1038	深い夜 下層部響く 正直さ 26時の 怠惰をつれて 群馬県利根実業高校 3年 関上 栞奈	1037	満ちる美へ 踏み入ることを 夢に見る 長靴の中の 水の都に 群馬県利根実業高校 3年 関上 栞奈	1036	古くから 愛されている 藍の色 縹に染めし この世のけがれ 群馬県利根実業高校 3年 関上 栞奈	1035	水の箱 淡いゆらぎが 目にとまる 海月たゆたう 青と心に 群馬県利根実業高校 3年 高橋 愛音夢	1034	暗き梅雨庭を彩る紫陽花は心も晴れる華やかな花 群馬県利根実業高校 3年 高橋 愛音夢	1033	寒暖差熱出て震える風邪気味の私の為に母りんごむく 群馬県利根実業高校 3年 高橋 愛音夢	1032	もらつてと野菜果物おすそわけ地域の人と関わる時間 群馬県利根実業高校 3年 高橋 愛音夢	1031	鏡見て物足りないとチーク足し気がつけば頬赤すぎるかな 群馬県利根実業高校 3年 金子 智紀	1030	食卓を かこうみんなの 笑い声 食に感謝を「いただきます」 群馬県利根実業高校 3年 金子 智紀	1029	銀色の 海の名刀 秋刀魚たち 焼ける香りに よだれがおちる 群馬県利根実業高校 3年 金子 智紀	1028	山の木々 唐紅に 染められて 風にとばされ 地面を染める 群馬県利根実業高校 3年 金子 智紀

1053	1052	1051	1050	1049	1048	1047	1046	1045	1044	1043	1042	1041
秋になり 山がきれいに 色どられ 私の心も ほのかに染まる	席替し 場所を確認 窓側だ 窓越し広がる 青春の日々	友達と 過ごした時間 宝物 時間が過ぎても 忘れぬ記憶	夏休み 明るい空と セミの声 今年の夏も 輝いている	さくらんぼ大粒の種口の中 甘酸っぱさが悔しくところがす	ズキズキと疲れた頭チョコレート 少し溶けた秋の教室	夏休みテーマパークの帰り道 腕にはりつく黄金の毛並	冷える足パシヤパシヤとかきわける 運動靴と白い靴下	お月見で団子をほおばる弟やまんまるほっぺ美味しそうだな	放課後に友と話す恋話いまだに我らに好きじがない	四年間変わらぬ君にさよならと呟く私に涙のあと	親友や 生まれた時から 同じ道 されどこれから 違う道へ	君の声 思い出す度 恋しくて あの青春を もう一度
群馬県利根実業高校 3年 今井 花音	群馬県利根実業高校 3年 今井 花音	群馬県利根実業高校 3年 今井 花音	群馬県利根実業高校 3年 今井 花音	群馬県利根実業高校 3年 本多 心乃美	群馬県利根実業高校 3年 本多 心乃美	群馬県利根実業高校 3年 本多 心乃美	群馬県利根実業高校 3年 須田 里桜	群馬県利根実業高校 3年 須田 里桜	群馬県利根実業高校 3年 須田 里桜	群馬県利根実業高校 3年 須田 里桜	群馬県利根実業高校 3年 星野 叶実	
1066	1065	1064	1063	1062	1061	1060	1059	1058	1057	1056	1055	1054
風香る金木犀 匂い嗅ぐたび 昔の心今よみがえる	くもり空 隙間に見えた 太陽に 照らされずに 汗にじむ秋	浴衣着て 君と一緒に 見た花火 君がなにより 素敵に見えた	夕ぐれに 向かう2人の 背中見て 心の奥底 曇天の夜	夏休み 例年課題に 苦しむが 今年バイト 命ギリギリ	流れ星見られたことはうれしいが願い間に合わず悲しさ勝る	夜の空大きな花火打ち上がるこれこそ夏の風物詩	忘れ物気付いた頃には目的地もずっと早くに気付いていたら	空見上げ虹を見つけて写真撮る小さな幸せ君にも届け	危機感と 重い気持ちを 合わせ持ち 机に向かう テスト週間	青い空 輝く太陽 背を向けて 風にのせて 響く音色	笑い合い 君と歩いた 通学路 あとどのくらい 歩けるのかな	忘れない 友と過ごした 三年間 心の棚に 大事にしまう
群馬県利根実業高校 3年 角田 優愛	群馬県利根実業高校 3年 飯森 媛	群馬県利根実業高校 3年 飯森 媛	群馬県利根実業高校 3年 飯森 媛	群馬県利根実業高校 3年 藤井 穂夏	群馬県利根実業高校 3年 藤井 穂夏	群馬県利根実業高校 3年 藤井 穂夏	群馬県利根実業高校 3年 藤井 穂夏	群馬県利根実業高校 3年 角田 莉夢	群馬県利根実業高校 3年 角田 莉夢	群馬県利根実業高校 3年 角田 莉夢	群馬県利根実業高校 3年 角田 莉夢	群馬県利根実業高校 3年 角田 莉夢

1079	1078	1077	1076	1075	1074	1073	1072	1071	1070	1069	1068	1067
君探し 夜空の星に 願いこめ 笑顔に花咲き 愛しくおもう 群馬県利根実業高校 3年 井上 杏菜	夏の雲遮る日ざし意味なくて汗じわりとにじみでてる 群馬県利根実業高校 3年 加藤 周斗	甘い味菓子や果物たくさんで食の秋のものでいっぱい 群馬県利根実業高校 3年 加藤 周斗	学校に 行ったら行つたで 帰りたい やはり我が家は 最高の場所 群馬県利根実業高校 3年 片岡 柊哉	休日に 思いもよらぬ 発見が 今宵はなんて 美しい夜 群馬県利根実業高校 3年 片岡 柊哉	友人と 高校生活 楽しんで 卒業式まで あともう少し 群馬県利根実業高校 3年 片岡 柊哉	秋風が 体に染みて ぶるぶると 今年も秋が もう来てしまった 群馬県利根実業高校 3年 平澤 日華	きらきらと輝く外をながめてはみかんを食べる冬の朝 群馬県利根実業高校 3年 平澤 日華	星空を見上げて思う彼のこともう一度だけ私のそばに 群馬県利根実業高校 3年 平澤 日華	楽しさと不安をかかえ東京へ料理人に近づくために 群馬県利根実業高校 3年 平澤 日華	夜の道一人で歩き耳澄ます夏の終わりを告げるせみの音 群馬県利根実業高校 3年 角田 優愛	満月を見て思い出す月がきれいよ 君に言つたあの日の夜 群馬県利根実業高校 3年 角田 優愛	夏の夜外で大の字空見上げ 流星群を探し続けた 群馬県利根実業高校 3年 角田 優愛
1092	1091	1090	1089	1088	1087	1086	1085	1084	1083	1082	1081	1080
みどりゴ王林ゴかな子リンゴか どっちなのは分からない 群馬県利根実業高校 3年 中島 希凌	夏の屋外の暑さに苦しんで 明日もあるな辛い部活 群馬県利根実業高校 3年 中島 希凌	光る朝 思い出の中に 咲く花を 胸に飾って 次の舞台へ 群馬県利根実業高校 3年 大島 遼華	家族旅行 富士山二合目 空高く かけ橋の元に 響く鐘 群馬県利根実業高校 3年 大島 遼華	通話ごし 響く君の 笑う声 連られて笑う 長い夜 群馬県利根実業高校 3年 大島 遼華	寒空を 見上げて燃ゆる 流れ星 消えゆく灯りに なに願う 群馬県利根実業高校 3年 岡田 琴音	九年間 ずっと一緒に 過ごしてた 親友は今 福祉の道へ 群馬県利根実業高校 3年 岡田 琴音	桜咲く 数年ぶりの 友人は 昔と変わらず 胸なでおろす 群馬県利根実業高校 3年 岡田 琴音	夜〆時に 静かに響く 着信音 日付変わって また約束を 群馬県利根実業高校 3年 岡田 琴音	帰り道 電話越しから 響く声 聞こえる言葉に 笑顔が浮かぶ 群馬県利根実業高校 3年 井上 杏菜	雨の中 散歩の途中 あざやかに 咲くのはアジサイ 口角あがる 群馬県利根実業高校 3年 井上 杏菜	秋の日に 地面を照らす 夕ぐれは 音色が響く 笑顔の光 群馬県利根実業高校 3年 井上 杏菜	冬の日に みんな笑顔で 鍋かこみ おなかいっぱい 至福の時間 群馬県利根実業高校 3年 井上 杏菜

1105	1104	1103	1102	1101	1100	1099	1098	1097	1096	1095	1094	1093
時が過ぎ 色褪せた思い出 今もなお 心の中で 君を想う 群馬県利根実業高校 3年 小野 龍栄	バッテリーボックス 振り切れぬ想い 空振り 心の中で 君をもう一度 群馬県利根実業高校 3年 小野 龍栄	森の中 きのが顔出す 秋の風 香りが広がる 自然の恵み 群馬県利根実業高校 3年 小野 龍栄	秋深し 紅葉舞い散る 静かな道 足元彩る 冬の訪れ 群馬県利根実業高校 3年 小野 龍栄	冬がきて 熱いおいしさ 心配で はやめになくす らーめんをつゆ 群馬県利根実業高校 3年 水落 亮太郎	たくさんの 面接うけて 自信つけ クラスでいどむ 就活生 群馬県利根実業高校 3年 水落 亮太郎	公園の 木の葉の色が 黄ばみだし 少したりない 夏の思い出 群馬県利根実業高校 3年 水落 亮太郎	好きだよと 君に伝えた この思い 変わることもなき 私の気持ち 群馬県利根実業高校 3年 井熊 蒼依	すれちがい ふわりと香る 香水が 君が私を とりこにさせた 群馬県利根実業高校 3年 井熊 蒼依	放課後に 君と歩いた 帰り道 日々の幸せ 感じる私 群馬県利根実業高校 3年 井熊 蒼依	雪が舞い 悲しみさえも 溶けてゆく 会いたくなって とても言えずに 群馬県利根実業高校 3年 井熊 蒼依	クリスマスツナカイ走る星空に 夢いっぱい愛プレゼント 群馬県利根実業高校 3年 中島 希凌	放課後でバス心地良く寝過ごして あれここはどこ定期も効かん 群馬県利根実業高校 3年 中島 希凌
1118	1117	1116	1115	1114	1113	1112	1111	1110	1109	1108	1107	1106
あと一步 届かなかった 甲子園 仲間に感謝 ほんとありがと 群馬県利根商業高校 1年 小板橋 翔和	甲子園 響くサイレン 白球と 感動くれる 夏の思い出 群馬県利根商業高校 1年 小板橋 翔和	夜空には星が瞬く夜に願いを込め織りなす夏の夢心に灯をともし 群馬県利根商業高校 1年 安原 悠奈	波立ちて川鳴りを聞く心洗われ流れゆく水に明日を託そう 群馬県利根商業高校 1年 安原 悠奈	ああ寒い僕のため息白く消え思いうかばず白い雪影 群馬県利根実業高校 3年 高橋 涼	日がおちて紅そまるあまの色あたたかくて寒い風がふく 群馬県利根実業高校 3年 小澤 聖司	秋の空見上げてみればわいてくる春夏あった過去の思いで 群馬県利根実業高校 3年 鶴淵 永真	揺れる糸 無知な私を 考えず 進み止まる 人の道 群馬県利根実業高校 3年 平井 晴登	おばあちゃん夢の中でねあつてみたでも夢だから憶えてないよ 群馬県利根実業高校 3年 福原 聖翔	テスト勉強 難しすぎて 即断念 赤点は御免 本当に勘弁 群馬県利根実業高校 3年 小林 蓮	朝焼けの 冷たい部屋に 鳴り響く アラーム音が 今日知らせる 群馬県利根実業高校 3年 小林 蓮	秋の空 凍てつく空気に 差す日差し 冬を知らせる 秋晴れかな 群馬県利根実業高校 3年 小林 蓮	帰り道感じる秋の日の終わり薄暗い街と揺れる街道 群馬県利根実業高校 3年 星野 叶空

1131	緑にあふれる川の流れる音聞こえる静かな町 群馬県利根商業高校 1年 山崎 心音
1130	みなかみの 自然を見ると 癒される 肌で感じる 群馬県利根商業高校 1年 茂木 望
1129	甲子園誰もが夢みるあの場所でプレーがしたい。 群馬県利根商業高校 1年 西澤 奏汰
1128	おいしいよ夏のスイカはおいしいな 群馬県利根商業高校 1年 高橋 直翔
1127	夏の終わり 宿題やったの うでをくみ 末弟まねする 母の口ぐせ 群馬県利根商業高校 1年 菊池 琉心
1126	真夏の夜 アイス食べ過ぎ 腹をこわす 隣のばあちゃん それ見て笑う 群馬県利根商業高校 1年 菅野 愛徠
1125	雨音が 窓を叩いて 目を覚ます 今日の家で ゆっくりしよう 群馬県利根商業高校 1年 菅野 愛徠
1124	風に乗る 枯葉の舞い散り 秋の声 誰かの心 連れてどこへと 群馬県利根商業高校 1年 小野里 悠月
1123	炎天下 仲間と走るテニスコート 忘れてはない日焼け対策 群馬県利根商業高校 1年 岡野 溪心
1122	甲子園憧れの地で僕たちはプレーをすると友にちかった。 群馬県利根商業高校 1年 平塚 侑
1121	真夏の日 まぶしい太陽 暑い午後 少しの風に 心よるこぶ 群馬県利根商業高校 1年 平塚 侑
1120	夏の空 白球追いかけて 汗と涙 仲間と共に 夢追いかける 群馬県利根商業高校 1年 小坂橋 翔和
1119	夏祭り 久しぶりに会う 友人と 約束どうり 着た浴衣。 群馬県利根商業高校 1年 小坂橋 翔和
1144	あのベンチ未練も何も無いけれど考える度に疼く胸 群馬県利根商業高校 2年 川嶋 結翔
1143	何となく歩いていたら目が合ったアサガオ枯らす目の先の飽き(秋) 群馬県利根商業高校 2年 川嶋 結翔
1142	夏の夜を見上げる空には輝く星手には輝く線香花火 群馬県利根商業高校 2年 佐藤 寧々花
1141	夕暮れに轟く雷地を揺らし豪雨と共に地を荒らし行く 群馬県利根商業高校 2年 藤井 希
1140	夏の空昼は賑やか夜涼し朝は静かで夕は煩い 群馬県利根商業高校 2年 藤井 希
1139	真夏の朝とても 暑いと思いきやみなかみ町はさむかった 群馬県利根商業高校 1年 橋場 悠人
1138	時逃し雨音騒ぐ道別れ言えない変情すぐには癒えない 群馬県利根商業高校 1年 荒井 陽
1137	部活後の グラウンドに響く 声遠く 夕焼け染める 汗と涙と 群馬県利根商業高校 1年 増田 結衣
1136	夕暮れに 君と二人で 手をつなぎ 夏の匂いが 近づく距離に 群馬県利根商業高校 1年 増田 結衣
1135	花火見て 隣に座る 君の声 夏の夜風に 溶けて消えてく 群馬県利根商業高校 1年 増田 結衣
1134	陸上部 走りこんでる 猛暑日に 日焼けのあとが 痛々しい 群馬県利根商業高校 1年 増田 結衣
1133	夏休み 家族で出かけた 佐渡ヶ島 日焼けのあとが 痛々しい 群馬県利根商業高校 1年 増田 結衣
1132	関東の県境を繋ぐゆつくりと流れる利根川 群馬県利根商業高校 1年 鈴木 花菜

1157	1156	1155	1154	1153	1152	1151	1150	1149	1148	1147	1146	1145
夏休み宿題と部活で忙しくてさ、これじゃなにもできないね。夏休み	夏休み宿題たくさん出てきてさ友達とこれじゃ休めないよね夏休み	夏休み鳴らないアラーム起きるのは猫と一緒に1年2年時過ぎ	夏の朝耳をすませば蝉の声時間が経てば夜の静けさ	みなかみの川に滴る水の音地は濡れて雨雲さり7色の橋が現れる	海水浴ぶかぶか浮かぶ水遊びつめたくきもちい夏の訪れ	木々を抜け緑の間のあの青に涼しげなダム水飛沫あげる	風吹いて草の中に渦を巻き思い出がふわり浮かんで心を包む	人の波海の波より輝きしさあれ行こうと我も輝き	スイカ食べ縁側佇む夏休み今年も暑い夕立ちかな	暑い夏あたたかい風ふいてゆくその風により葉が空にまう	君が好き言えず心に残っては静かに眠る恋心かな	静かなる雨のしずくが窓伝い心の中も洗いながして
群馬県利根商業高校 2年 大澤 奈美	群馬県利根商業高校 2年 戸丸 ななか	群馬県利根商業高校 2年 馬場 理栞	群馬県利根商業高校 2年 阿部 栞奈	群馬県利根商業高校 2年 藤井 結月	群馬県利根商業高校 2年 金子 雅	群馬県利根商業高校 2年 星野 彩虹	群馬県利根商業高校 2年 倉澤 凜王	群馬県利根商業高校 2年 馬場 鱒之介	群馬県利根商業高校 2年 馬場 鱒之介	群馬県利根商業高校 2年 目崎 海輝	群馬県利根商業高校 2年 萩原 汰河	群馬県利根商業高校 2年 戸丸 仁
1170	1169	1168	1167	1166	1165	1164	1163	1162	1161	1160	1159	1158
ペットボトル 汗かいてリュックサックしめらせる	君の声届かぬ夜の静かさに想いは波のごとく打ち寄せ	猛暑日に左右首振る部屋の隅いつまで使うもう1年5年	光る夏輝く汗と真夏日に夏が来たぞと鳴く蝉がいる	夏空を見ながら夏が恋しくなる	緑の中利根川流れる青き波	月面に触れるみたいに震える手どこかで星が生まれる音	昼下がりが揺れるカーテン乱反射あなたは光集めてねる	あなたと私の暑い夏を渦の中の思い出として閉じ込めたい	夏の夜にセミが大鳴き部屋の窓	夏草やぬくもり感じる祖母の家	夏の空あつくてたまらない炎天下味わえるのはもうこの夏だけ	夏花火見ているだけで思い出す苦くて甘い過去の恋時間
群馬県利根商業高校 3年 小林 埜花	群馬県利根商業高校 2年 笠原 康平	群馬県利根商業高校 2年 西山 歩実	群馬県利根商業高校 2年 西山 歩実	群馬県利根商業高校 2年 相馬 皇聖	群馬県利根商業高校 2年 後藤 大翔	群馬県利根商業高校 2年 小菅 僚太	群馬県利根商業高校 2年 小菅 僚太	群馬県利根商業高校 2年 木内 空美	群馬県利根商業高校 2年 井上 実咲	群馬県利根商業高校 2年 井上 実咲	群馬県利根商業高校 2年 五十嵐 和希	群馬県利根商業高校 2年 五十嵐 和希

1183	1182	1181	1180	1179	1178	1177	1176	1175	1174	1173	1172	1171
夏の夜火花が上がるこの空に笑顔で楽しむ今日この頃	ひまわりが向く方向には太陽が、強く照り返す太陽さん	みなかみの自然が広がる緑の心地よい風しみわたる	みなかみを流れる川の利根川よ清き水を流れる魚	暑さすぎ葉は散り落ちて雪は降り変わらぬ景色桜花爛漫	夏の空入道雲が高く立ち青の深さに時を忘れる	みなかみの住む水音に耳かたむけ心ゆらめくやまのかげ	みなかみの溪流すずし木々の影風に揺れつつ夏の名残り	みなかみに清流さやぐ森の音澄んだ空気に深呼吸する	谷川の峰に抱かれし涼風よ静かに揺れる夏の木立	冬近いパーカーあればあったかい寒すぎるとね起きたくないな	変わらない日々に見えるが少しちがう1年日を大切にがんばろう	苦しみも味わえるのも今のうち気づいたらもう二十四時過ぎ
群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年
栗原 陽人	栗原 陽人	植野 柊	植野 柊	小林 百華	小林 百華	田部田 冬馬	星野 七海	星野 七海	星野 七海	猪俣 久遠	松本 龍之介	茂木 結麻
1196	1195	1194	1193	1192	1191	1190	1189	1188	1187	1186	1185	1184
富士山長く残る雪大きい山白い姿は牛乳のようだ	夏の昼間鳴いて強調セミの声聞けば猛暑夏の合唱	夏の夜星輝く空夢に酔う虫の音色が空に響く	夏の夜蛍の光ふわり消え儂き命胸にとどめて	星の夜君の名つぶやく遠い空届かぬ声も風にまかせて	朝焼けに染まりし空を見上げれば昨日の悩み少し軽くて	夢で見た悪い人に似ていた近づけない雰囲気だけど興味津々	朝起きたら夢から覚めていたなんて当たり前な日常壊さないで	夏の夜電気を消してスマホ見て自分の顔に虫が直撃	色んなことがありすぎて優先順位が分からない でも歌だけは逃げない	夏祭り 太鼓の音が どんどんと	暑い夏 エアコン聞く部屋 うさぎは快適	ティッシュ箱上のカメムシに見つめられ無言で外に放り投げる
群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年	群馬県利根商業高校 3年
高橋 眞稜	高橋 眞稜	岡崎 功芽	山崎 航太郎	山崎 航太郎	山崎 航太郎	川上 大河	川上 大河	原 沢 匠	千田 伊吹	山田 真己	狩野 花菜	狩野 花菜

1209	1208	1207	1206	1205	1204	1203	1202	1201	1200	1199	1198	1197
終わらない明日は学校登校日やり直したい夏休み	青い空つきぬける光まぶしくて今日は昼まで二度寝をしよう	揺れる波大鳴門橋の橋の下涼しさ感じる夏の渦潮	夏の空光が早く沈んでく何でなのかな秋のおとずれ	全国の高校球児憧れの聖地で起こる熱き戦い	暑い夏虫の鳴き声聞こえてくるさあ虫捕りに出かけてみよう	白球を全力で追う球児たち熱いドラマがそこにはある	夏の夜 空を見上げて目をこする餅つきうさぎと一つの線	さくらんぼほのかな甘みおいしいなこの甘みをねあの人にあげる	町中に響き渡る人々の笑い声ひそかに隠れている悲しい足音	夜空に咲く光のかけらたち私の願いは儚く散る	なんだこれ目の前にあるなぞのものふとみあげると月になる	あたたかな月をあびている星の下明るくないのにあたたかい
群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校
3年	3年	2年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年
百田 暁指	百田 暁指	羽生田 稜	吉部 颯士郎	和田 瑠善	岡崎 大芽	岡崎 大芽	関根 蒼太	木暮 琢己	南雲 風花	南雲 風花	新井 和義	新井 和義
1222	1221	1220	1219	1218	1217	1216	1215	1214	1213	1212	1211	1210
あなたの手大好きなのと友が言う落ちる目線と照れるべんだこ	暑い中探し回ったカブト虫どこに行ってもセミのぬけがら	夏風が暑い日々を涼んでる蝉がうるさくまた飛び立った	夏の夜 見上げるそらに 美しき 満天の星に僕一人	車窓から夕日を見ている港町 聞きたい歌は失恋ソング	炎天下西瓜を冷やす水の音家族で食べる幸せの味	全力で駆け抜けた夏通り過ぎやってくるのは勝負の冬	昼は晴れ天気は急に雨になる気まぐれな空夏の日に	これからの進路に向けて会議した父母が発言期待の表れ	野球がねない夏休み初めてだこうなら分かる野球の好きだ	問題集(汗ジミ出来る夏の日に)	宿題を焦っておわらす夏休毎年ためて毎年後悔かい	夏の夜 暑くて寝れない ベッドの上
群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校
3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	2年	2年	2年
林 那津	上野 達也	大出 倭	阿部 煌大	阿部 煌大	加藤 さき	二宮 佳音	二宮 佳音	柿沼 瑛斗	柿沼 瑛斗	高柳 奏太	福田 悠人	小林 晃二郎

1235	1234	1233	1232	1231	1230	1229	1228	1227	1226	1225	1224	1223
夜の空花火の光一瞬に消えては私をまた映しだす	夏の日にうちわの風が吹く度に涼やかな風で心も落ち着く	春初め焦りと不安感じてる自分の道と理想の進路	時の流れに縛られることなく自由に生きる心の歌を奏でよう	風に舞う花の香りに包まれ自由な心響き渡る	銅の炎色反応をながめて思い出すのはクリームソーダ	店先の「名脇役！」のポップ見て納得いかぬカスミソウ	かき氷ひと口食べて涼しいなみんな食べる夏休み	ひまわりが空を見上げて咲くように今年の夏も暑すぎる	雪の朝休校願う朝の時間ずっと寝てみたいみの願い	道沿いに咲く向日葵の声がする向日葵ちゃんにも心があるのかな	夏の空わたあめみたいいな雲いっぱい食べたくなるね皆で食べよ	盆やすみ「ワレワレハウチュウジンダ」教える父の背中が丸い
群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校	群馬県利根商業高校
3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年
東 梨 愛	東 梨 愛	長谷川 恋舞	飯田 鉄生	飯田 鉄生	清水 緋莉	清水 緋莉	関 美優羽	関 美優羽	廣瀬 玲碧	蛸山 花	蛸山 花	林 那津
1248	1247	1246	1245	1244	1243	1242	1241	1240	1239	1238	1237	1236
父さんの「寝るよ」が私と妹の夜が始まる紐を引っ張る	憂鬱をぐくんと飲んでしまえたらこの感情の罪状を知る	少しでも歩いてみようと思います 丈の合わない制服を着て	昼休み愛だなんだと言いながら種の抜かれた梅干し食べる	イヤホンのリズムに合わせステップを踏むほんの少し私は最強	出迎えた実家の猫は僕を見て全てを知ったような顔する	夏祭り青くなった舌見せ合って こんなんだっけ恋つてもっとさ	眼球が動くスズキも生物で実際鈴木とそんな変わらん	君だけがまた食べたと言ったから一度コロナの検査しようか	人類が間違った道を進むときゴジラが正義を知る神となる	巻雲のマント切り裂き名誉捨て十等星になりたい 疲れた	ブランコの後ろのベンチの右側で歳を取っても一人で僕は	窓開けて涼しき風が欲しくても入ってくるのはセミの声だけ
神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	神奈川県光陵高校	群馬県利根商業高校
1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	3年
柳原 萌々子	柳原 萌々子	柳原 萌々子	古川 真帆	古川 真帆	古川 真帆	藤井 綾音	藤井 綾音	藤井 綾音	藤井 綾音	中西 董	中西 董	東 梨 愛

1261	1260	1259	1258	1257	1256	1255	1254	1253	1252	1251	1250	1249
重力に逆らういつとき地球外生命体といつか泣きたい	正解を知れば私は愚かだと思っちゃう、でも知りたいな、でも…	向日葵の葉と葉と葉と葉がさよならを告げて小さな秋は目覚める	佳い苗じゃないかもだけど育ってるよ 文藝の木と人と一緒に	思い出に蓋をするほど煮詰まって青い空より青くなる日々	文学に出会えた時に人はもう一人の文豪なのだと思う	オルガンが指をつたって染み込んでドレミファソラシどうかこのまま	老人が見つめた先に海がありあなたの船が来るのを待ってる	一ユーロ百六十円僕はまだ円安のこと理解してない	常に保護される立場でいたいので来世は奈良の鹿になります	制服の袖に小さく八つ当たり涙は冬の日向に溶けて	いつの日か私の頭を撫でた顔しながら老婦は静かに眠る	たくさんの私は≡で「私」を軽くちぎった部分
神奈川県光陵高校 2年 猪野田 涼奈	神奈川県光陵高校 1年 照田 佳苗	神奈川県光陵高校 1年 照田 佳苗	神奈川県光陵高校 1年 照田 佳苗	神奈川県光陵高校 1年 照田 佳苗	神奈川県光陵高校 1年 森岡 千尋	神奈川県光陵高校 1年 森岡 千尋	神奈川県光陵高校 1年 森岡 千尋	神奈川県光陵高校 1年 森岡 千尋	神奈川県光陵高校 1年 太田 実来	神奈川県光陵高校 1年 太田 実来	神奈川県光陵高校 1年 柳原 萌々子	神奈川県光陵高校 1年 柳原 萌々子
1274	1273	1272	1271	1270	1269	1268	1267	1266	1265	1264	1263	1262
有限の人生だとか君だとか無駄にはしなと思ってはいる	表彰の場面で日傘をさせるくらい余裕で賞をかつさraitたい	スーパーで特別価格で売っているなすびの背中のような性格	ゆっくりと茶葉が開いた 若すぎる紅茶のような僕の手のひら	贅沢は敵でも月イチコンビニのぜいた くらいのスイーツくらいは	恋人が欲しいとあなたを好きなのは両立できないらしい、きらいだ	コピー機で僕を量産してみたら課題が一つも終わらなかつた	野球部の頭を撫でたらなんにでもご利益あるとかないとかなんとか	夢をみた君と出会った高二の日悪夢のようで幸せな夢	燦々とかがやく光に照らされて溶けて流れて遠くへ行つて	本当と嘘までの距離を知りたくて夕日が靴の中まで照らす	「会いたい」がその道にも落ちて集めるように歩けば大人	飛べるなら飛んでいるんだペンギンがつくった空はちよつと冷たい
神奈川県光陵高校 2年 佐野 晃太	神奈川県光陵高校 2年 佐野 晃太	神奈川県光陵高校 2年 佐野 晃太	神奈川県光陵高校 2年 山本 未生	神奈川県光陵高校 2年 山本 未生	神奈川県光陵高校 2年 山本 未生	神奈川県光陵高校 2年 山本 未生	神奈川県光陵高校 2年 山本 未生	神奈川県光陵高校 2年 福島 楓	神奈川県光陵高校 2年 猪野田 涼奈	神奈川県光陵高校 2年 猪野田 涼奈	神奈川県光陵高校 2年 猪野田 涼奈	神奈川県光陵高校 2年 猪野田 涼奈

1287	1286	1285	1284	1283	1282	1281	1280	1279	1278	1277	1276	1275
ときめきは波紋のように伝わってたちまち君の頬を染めてく	生まれ変わりヒト科を受験する方は渋谷直上うろこ雲まで	常識はレンジで温めちゃダメよひよこが生まれるかもしれないし	思うとは四時まで歌を作る子に肩を貸すこと海まで遠い	毎日に短歌を刻んでいくように点を結べば直線になる	病室のベッドに新聞紙は無いのに彼のメガネを探してしまうよ	突然と一人になったマンションで腑に落ちる理由ばかり探すの	滅亡と再生こそが時代であり神は見つめて小石を投げる	卒業の桜と対比するような教室籠もる青い残り火	この夏の後片付けをしていると収まりきらない砂が出てくる	放課後の匂いが好きで好きだった繰り返したら忘れないから	電話したい時に限って人間の言葉が出なくなっちゃいます	雨に負けてもう一度立ち上がるサウイフモノニワタシハナレル
神奈川県光陵高校 1年	神奈川県光陵高校 3年	神奈川県光陵高校 3年	神奈川県光陵高校 3年	神奈川県光陵高校 3年	神奈川県光陵高校 2年	神奈川県光陵高校 2年	神奈川県光陵高校 2年	神奈川県光陵高校 2年	神奈川県光陵高校 2年	神奈川県光陵高校 2年	神奈川県光陵高校 2年	神奈川県光陵高校 2年
永井 穂果	池野 弘葉	池野 弘葉	池野 弘葉	池野 弘葉	西村 祥太郎	西村 祥太郎	西村 祥太郎	西村 祥太郎	佐野 晃太	佐野 晃太	佐野 晃太	佐野 晃太
1300	1299	1298	1297	1296	1295	1294	1293	1292	1291	1290	1289	1288
天界のように視界を金色に染める光合成の崩壊	でもやっぱり子供でいたい夜もある首の後ろの産毛を触る	顔洗い、ご飯、歯磨き、着替え五分 ポニーテールにあと二十分	「好き」という定義が統一されていくそれほどあなたを好きになつてく	もし虫も悲しい夢をみるのなら小さな夜を共に泣きたい	散っていく 君の笑顔を葉桜がモノクロ写真に染められたまま	人類の叡智を両手に集めたら世界征服できちゃうのかな	バトン来てかけ出す君を見つけたらその瞬間に恋のはじまり	青春に向かう途中の僕たちは大人と子供の狭間を生きる	いつまでも新幹線の発車ベルさいならぐらい言えば良かった	気まぐれに絡んで解けない運命は暇な菊理媛のあやとり	まだ白い息を残した梅見月砂時計にはあと十分	話す時優しく歪む君の背を知っているのは多分僕だけ
東京学芸大学付属高校 3年	神奈川県光陵高校 3年	神奈川県光陵高校 3年	神奈川県光陵高校 3年	神奈川県光陵高校 3年	神奈川県光陵高校 3年	神奈川県光陵高校 3年	神奈川県光陵高校 2年	神奈川県光陵高校 2年	神奈川県光陵高校 2年	神奈川県光陵高校 2年	神奈川県光陵高校 1年	神奈川県光陵高校 1年
川上 真央	樫下 小春	樫下 小春	北原 大地	北原 大地	池上 真央	池上 真央	相模 奈緒	相模 奈緒	上田 朱雀	州崎 大知	州崎 大知	永井 穂果

1313	1312	1311	1310	1309	1308	1307	1306	1305	1304	1303	1302	1301
飛び跳ねる熟された砂踏み蹴って追いかける新たな記録	ゆれ動く空にとりつく蜃気楼山を巻き込み視界を酔わす	友が手にフランクフルト二本持ち君の所に行くんだろ	光なく音もなければ人もなしそこにある夜実にはナチュラル	いつもより暗い教室搾られたあとのレモンのような空ろで	放課後の鏡の中にキミがいる踊り場に夏は取り残されて	蒸しタオル縮こまっていた春の日に楽しんでみて球根の花	月夜野のめがね橋行く新幹線まるで空飛ぶ摩天楼のよう	諏訪峡で見た機関車の去るを聞き思い馳せるは鉄ちゃん時代	谷川岳登り広がる水上の朽ちゆく宿と温泉街	漆黒の巨体が線路を突き進み山いっばいに鳴り響く音	奥利根の朽ちゆく宿と紅葉の 老ひゆく我が身淋しきことかな	ウミネコと並び聞きいる島中を透過させゆく海人の糸笛
群馬県高崎商科大学附属高校 3年	群馬県高崎商科大学附属高校 3年	群馬県高崎商科大学附属高校 3年	群馬県高崎商科大学附属高校 3年	群馬県高崎商科大学附属高校 3年	群馬県高崎商科大学附属高校 3年	群馬県高崎商科大学附属高校 3年	東京都駒場東邦高校 1年	東京都駒場東邦高校 1年	東京都駒場東邦高校 1年	東京都駒場東邦高校 1年	東京都学芸大学付属高校 3年	
今井 沙羅	今井 沙羅	高橋 健太朗	高橋 健太朗	高橋 健太朗	高橋 健太朗	高崎 明音	小安 瑛太	小安 瑛太	小安 瑛太	小安 瑛太	川上 真央	
1326	1325	1324	1323	1322	1321	1320	1319	1318	1317	1316	1315	1314
おにぎりをお茶で飲み込みコンビニの味覚に僕はなまってゆくんだ	三月の窓の水面に朝日射すかつてわたしが海だったころ	親知らずみたいな遅い反抗期正しい場所に生えたい私	ひとが落ちてゆくサーカス ニュートンはまだ引力をみつけない	祭壇にウェディングドレスで君がいるお客のぼくはいつかの彼氏	放課後の夕陽に満ちる教室で君の寝顔がひどく眩しい	映りゆくバッドエンドな写真は雨に打たれて消えていく	イライラと呆れる時間ノート書く「うるせえよ」睨み続ける	(ひとりじゃないよ) 心から発声してる。あなたに届けたい歌がある。	いつの日か忘れてしまう思い出にあの子に伝える「ありがとう」と	家族皆あちらこちらと歩き回るライトノベルの書籍探す	若草色した追憶の季節下手な筆跡を今年もなぞる	小箱にはくすんだ金の月桂冠ちいさな頭にそっと載せ
群馬県高崎商科大学附属高校 2年	群馬県高崎商科大学附属高校 2年	群馬県高崎商科大学附属高校 2年	群馬県高崎商科大学附属高校 2年	群馬県高崎商科大学附属高校 2年	群馬県高崎商科大学附属高校 3年	群馬県高崎商科大学附属高校 3年	群馬県高崎商科大学附属高校 3年	群馬県高崎商科大学附属高校 3年	群馬県高崎商科大学附属高校 3年	群馬県高崎商科大学附属高校 3年	群馬県高崎商科大学附属高校 3年	
福島 環	福島 環	福島 環	福島 環	廣井 涼風	植原 愛佳	植原 愛佳	植原 愛佳	植原 愛佳	植原 愛佳	今井 沙羅	今井 沙羅	

第八回若山牧水みなかみ紀行短歌大会作品集

令和7年(2025)3月発行

編集／発行 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

〒379-1305

群馬県利根郡みなかみ町後閑321-1

みなかみ町教育委員会 生涯学習課内

電話0278(25)5025

令和 6 年度若山牧水みなかみ紀行短歌大会補助事業

第 8 回若山牧水みなかみ紀行短歌大会

開催日 令和 7 年（2025）3 月 2 日（日）

会 場 みなかみ町カルチャーセンター

群馬県利根郡みなかみ町上牧 1735

主 催 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

協 力 みなかみ町牧水会

後 援 みなかみ町・みなかみ町教育委員会・沼田エフエム放送株式会社・
関東新聞販売（株）マイタウンたにがわ ・（一財）三国路与謝野
晶子紀行文学館・三成社株式会社

